

上 強 戸 遺 跡 群

主要地方道路足利伊勢崎線
地方道路交付金事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

群 馬 県 太 田 土 木 事 務 所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

か み ご う ど

上 強 戸 遺 跡 群

主要地方道路足利伊勢崎線
地方道路交付金事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

群馬県太田土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



八王子丘陵および金山丘陵は桐生市西部から太田市北部にわたって連なる低丘陵である。そして、これらの丘陵の南西域（写真左）は大間々扇状地・扇端部付近にあたり、それに接して広大な沖積低地（写真中央）が広がる。

上強戸遺跡はこの広大な沖積低地の中に位置するが、今回の発掘調査により、歴史時代の水路跡や水田跡など、生業に関わる遺構群が検出された。



序

上強戸遺跡群は太田市上強戸町に所在する遺跡であり、足利伊勢崎線地方道路の建設工事に先立ち、発掘調査が実施されました。

平成 14 年度から平成 17 年度にかけて、4 力年にわたる発掘調査が実施され、この遺跡が古墳時代から平安時代までの水田跡を主体とする遺跡であることが明らかになりました。

太田市強戸地区は、古墳時代から平安時代にかけては窯業や交通を中心に、東日本有数の繁栄を実現した地域とされています。本遺跡から検出された水路跡や水田跡などの生業に関わる遺構群は、当時の繁栄する社会を支えた経済基盤を示すものであり、地域の歴史を理解する上の貴重な調査成果となりました。

このたび、本事業の整理事業が群馬県太田土木事務所の委託を受けて実施され、ここに本報告書刊行の運びとなりました。

発掘調査から報告書作成にいたるまでには、太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会をはじめ関係諸機関並びに地元関係者の方々には多くのご指導・ご協力を賜りました。ここに銘記して心よりの感謝を申し上げますとともに、併せて本書が学校教育や地域の歴史研究のための資料として広く活用されることを願ひまして、序といたします。

平成 20 年 3 月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 高橋勇夫

例 言

- 1 本書は、足利伊勢崎線地方道路交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施された「上強戸遺跡群」の発掘調査報告書である。
- 2 「上強戸遺跡群」は群馬県太田市上強戸町に所在する。
- 3 遺跡の発掘調査及び整理事業は、群馬県太田土木事務所からの委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 発掘調査は平成14～17年度の4カ年にわたり実施した。各年度の調査期間は下記の通りである。

(平成14年度)平成14年12月2日～平成15年3月31日
(平成15年度)平成15年4月1日～平成15年6月30日
(平成16年度)平成16年12月1日～平成17年3月31日
(平成17年度)平成17年12月1日～平成18年3月31日
- 5 発掘調査体制は次の通りである。
 - 発掘業務管理指導
(平成14年度)小野宇三郎・吉田豊・神保佑史・萩原利通・能登健・真下高幸
(平成15年度)小野宇三郎・住谷永市・神保佑史・萩原利通・平野進一・真下高幸
(平成16年度)小野宇三郎・住谷永市・神保佑史・矢崎俊夫・平野進一・真下高幸
(平成17年度)小野宇三郎・高橋勇夫・木村裕紀・津金澤吉茂・矢崎俊夫・平野進一・真下高幸
 - 発掘調査事務担当
(平成14年度)笠原秀樹・佐藤明人・相京建史・柳岡良宏・中澤恵子
(平成15年度)笠原秀樹・佐藤明人・下城正・井川達雄・中沢悟・柳岡良宏・北野勝美・清水秀紀・中澤恵子・金子三枝子
(平成16年度)笠原秀樹・藤巻幸男・井川達雄・中沢悟・柳岡良宏・今泉大作・清水秀紀・中澤恵子・金子三枝子
(平成17年度)笠原秀樹・石塚久則・柳岡良宏・中澤恵子・金子三枝子
 - 発掘調査担当
(平成14年度)渡辺弘幸・石川雅俊
(平成15年度)川端俊介・深澤敦仁
(平成16年度)柏木一男・坂口一・原伸行・渡辺弘幸
(平成17年度)大江正行・柿沼弘之
- 6 整理事業は、平成19年4月1日から平成20年3月31日まで実施した。
- 7 整理事業体制は次の通りである。

整理事務管理指導…高橋勇夫・木村裕紀・津金澤吉茂・萩原勉・佐藤明人
整理事務担当…笠原秀樹・大木紳一郎・石井清・須田朋子・柳岡良宏・齋藤恵利子・齋藤陽子・矢島一美・今井もと子・内山佳子・若田誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・武藤秀典
整理事業担当…菊池実・萩原鈴代・阿部幸恵・掛川智子・梅澤きく江・水野さか糸
深澤敦仁・五十嵐由美子・牧野裕美・下川陽子・高梨由美子・小川直子

保存処理担当…関邦一・小材浩一・津久井桂一・多田ひさ子・小池緑・生方茂美・野沢健
機械実測担当…田所順子・伊東博子・岸弘子・田中精子・福島瑞穂

- 8 本書の編集・本文執筆・写真撮影・組版は以下の通り、行った。

編集…深澤敦仁

本文執筆…佐藤明人（第1章 第1節1）、坂口一・小高哲茂（第4章 第1節）、株式会社古環境研究所（第3章第1・2節）・株式会社バレオ・ラボ（第3章 第3節）がそれぞれ執筆し、それ以外については深澤が執筆した。

写真撮影…（遺構写真）渡辺弘幸・石川雅俊・川端俊介・深澤敦仁・柏木一男・坂口一・原伸行・大江正行・柿沼弘之

（遺物写真）深澤敦仁

組版…深澤敦仁・五十嵐由美子・牧野裕美

- 9 本遺跡群の図面・写真・出土遺物は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理し、群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。
- 10 発掘調査・報告書編集に際しては、下記の方々・機関には有益なご教示をいただいた。記して感謝します。
小宮豪・早田勉・佐々木由香・孔智賢・山際哲章・群馬県太田土木事務所・群馬県教育委員会・太田市教育委員会（敬称略）

凡例

- 1 図中に使用した方位は、全て日本平面直角座標系（世界測地系）の北を使用している。
- 2 遺構図・遺物図とも、縮尺は図毎にその縮率を表記した。
- 3 本書で掲載した国土地理院発行の地形図については、掲載図毎に地形図名を表記した。
- 4 遺構土層および遺物の色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』1993年度版に準拠した。

目次

口絵	3	C区第2面の調査
序		a. 水田面および擬似畦畔
例言 凡例 目次	4	出土遺物
第1章 経緯・経過・環境	第4節	D区の調査・・・・・・・・・・58
第1節 経緯と経過・・・・・・・・・・1	1	概要
1 発掘調査に至る経緯	2	D区第2面の調査
2 発掘調査の経過	3	D区第3面の調査
3 基本土層	第5節	E区の調査・・・・・・・・・・60
第2節 環境・・・・・・・・・・5	1	概要
1 地勢的環境	2	E区第2面の調査
2 歴史的環境	3	E区第3面の調査
第2章 検出遺構と出土遺物	a.	水田面および畦畔
第1節 A区の調査・・・・・・・・・・9	4	E区第4面の調査
1 概要	a.	溝
2 A区第1面の調査	5.	出土遺物
a. 溝 b. 土坑 c. 火葬墓	第6節	F区の調査・・・・・・・・・・63
d. 擬似水田畦畔	1	概要
3 A区第2面の調査	2	F区第2.5面の調査
a. 溝 b. 井戸 c. 水田畦畔	a.	遺構面の認定 b. 溝
4 A区第3面の調査	3	F区第3面の調査
a. 溝 b. 土坑	a.	溝 b. 水田面および畦畔
5 出土遺物	4	F区第4面の調査
第2節 B区の調査・・・・・・・・・・21	a.	溝
1 概要	5	出土遺物
2 B区第1面の調査	第7節	G区の調査・・・・・・・・・・71
a. 溝 b. 土坑 c. 焼土	1	概要
d. 井戸 e. 礫群 f. ビット	2	G区第2面の調査
3 B区第2面の調査	a.	平坦面
a. 擬似畦畔	3	G区第3面の調査
4 出土遺物	a.	水田面および畦畔
第3節 C区の調査・・・・・・・・・・50	4	G区第4面の調査
1 概要	a.	溝
2 C区第1面の調査	5	出土遺物
a. 溝 b. 土坑 c. ビット	第8節	H・I区の調査・・・・・・・・・・75
d. 掘立柱建物 e. 柵列	1	H区の概要
	2	I区の概要

第9節 J区の調査・・・・・・・・・・76

- 1 概要
- 2 J区第2面の調査
 - a. 溝 b. 水田畦畔
- 3 J区第3面の調査
 - a. 水田面および畦畔
- 4 J区第4面の調査
 - a. 溝 b. 水田畦畔
- 5 出土遺物

第10節 K区の調査・・・・・・・・・・80

- 1 概要
- 2 K区第2面の調査
 - a. 溝 b. 土坑 c. 畠
- 3 K区第3面の調査
 - a. 溝 b. 水田面および畦畔 c. 河道
- 4 K区第4面の調査
 - a. 水田畦畔
- 5 出土遺物

第11節 L区の調査・・・・・・・・・・89

- 1 概要
- 2 L区第2面の調査
 - a. 溝 b. 水田畦畔
- 3 L区第3面の調査
 - a. 溝 b. 水田畦畔 c. 河道
- 4 出土遺物

第12節 M区の調査・・・・・・・・・・96

- 1 概要
- 2 M区第1面の調査
 - a. 溝
- 3 M区第4面の調査
 - a. 溝 b. 水田畦畔
- 4 M区（仮称）第5面の調査
 - a. 水田畦畔
- 5 出土遺物

第13節 N区の調査・・・・・・・・・・101

- 1 概要
- 2 N区検出遺構の調査

- a. 溝
- 3 N区遺構面下層の調査
 - a. トレンチの土層状況
- 4 出土遺物

第14節 O区の調査・・・・・・・・・・104

- 1 概要
- 2 O区検出遺構面の調査
 - a. 溝 b. 土坑 c. ピット
- 3 出土遺物

第15節 P区の調査・・・・・・・・・・113

- 1 概要
- 2 P区第1面相当遺構の調査
 - a. 溝
- 3 P区第2～4面相当遺構の調査
 - a. 溝 b. 水田畦畔

第16節 Q区の調査・・・・・・・・・・117

- 1 概要
- 2 Q区トレンチの調査

第3章 自然化学分析

第1節 上強戸遺跡群の土層とテフラ・・・・・・・・118

第2節 上強戸遺跡群における・・・・・・・・121
プラントオーバー分析

第3節 上強戸遺跡群出土木製品の
樹種同定・・・・・・・・125

第4章 まとめ

第1節 K・L区の河道、
洪水および水田について・・・・・・・・131

第2節 上強戸遺跡群における
土地利用の特色・・・・・・・・134

写真図版
抄録

挿入目次

図1	上流戸造跡群 位置図	1
図2	調査区名称	2
図3	基本土層(上)／各地点の土層状況(下)	4
図4	上流戸造跡群周辺の地形分類図	5
図5	上流戸造跡群周辺道路分布図	7
図6	A区 位置図	9
図7	A区第1～3面 全体図	10
図8	A区第1面 1～3・5号溝, 1・2号疑似畦畔 平面図	12
図9	A区第1面 4・6～10号溝, 3・4号疑似畦畔 平面図	13
図10	A区第1面1～10号溝・2号疑似畦畔 断面図(上)／1号大井敷, 1～3号土坑 平・断面図(下)	14
図11	A区第2面 11～18号溝 平面図	15
図12	A区第2面 11～18号溝 断面図(上)／A区1号井戸 平・断面図および出土遺物 実測図	16
図13	A区第2面 1・2号水田畦畔エリア 平面図	17
図14	A区第3面 19号溝 平・断面図	18
図15	A区第3面 20～22号溝 平・断面図(上)／4号土坑 平・断面図(下)	19
図16	A区 北壁 断面図	20
図17	B区 位置図	21
図18	B区第1・2面 全体図	22
図19	B区第1面 1号溝～5号溝 平・断面図	28
図20	B区第1面 6～17号溝 平・断面図	29
図21	B区第1面 土坑, ビット 位置図	30
図22	B区第1面 1・3～10号土坑 平・断面図	31
図23	B区第1面 11～19号土坑 平・断面図	32
図24	B区第1面 20～26・28・29号土坑 平・断面図	33
図25	B区第1面 30～38号土坑 平・断面図	34
図26	B区第1面 39～45号土坑 平・断面図	35
図27	B区第1面 1～6号境上 平・断面図	36
図28	B区第1面 1号井戸, 1号礎石 平・断面図	37
図29	B区第1面 3～14・16～19号ビット 平・断面図	38
図30	B区第1面 20～37号ビット 平・断面図	39
図31	B区第1面 38～53号ビット 平・断面図	40
図32	B区第1面 54～70号ビット 平・断面図	41
図33	B区第1面 71～88・107・158～161号ビット 平・断面	42
図34	B区第1面 89～106・108・109号ビット 平・断面図	43
図35	B区第1面 110～130・133・155号ビット 平・断面図	44
図36	B区第1面 131・132・134～149号ビット 平・断面図	45
図37	B区第1面 150～154・156・157・162～166号ビット 平・断面図	46
図38	B区第2面 水田面および畦畔 平面図	47
図39	B区 出土遺物 実測図(1)	48
図40	B区 出土遺物 実測図(2)	49
図41	C区 位置図	50
図42	C区第1・2面 全体図	51
図43	C区1面 1・2・5・6号溝 平・断面図(1号掘立柱建物, 1・2号横列の平面図を含む)	52

図44	C区第1面 3・4・7・8号溝 平・断面図(1号土坑の平面図を含む)	53
図45	1・2号土坑, 1・2号ビット, 1号掘立柱建物 1・2号横列 平・断面図	55
図46	C区第2面 疑似畦畔 平面図	56
図47	C区 出土遺物 実測図	57
図48	D区 位置図(上) 北壁 断面図(下)	58
図49	D区 第2・3面 全体図	59
図50	E区 位置図	60
図51	E区 第2・3・4面 全体図	61
図52	E区第3面 水田面および畦畔 平面図(上)／第4面 1号溝 平・断面図および出土遺物実測図	62
図53	F区 位置図	63
図54	F区 第2.5・3・4面 全体図	64
図55	F区第2.5面 1号溝 平・断面図	65
図56	F区第3面 水田面および畦畔 平面図(1)	66
図57	F区第3面 水田面および畦畔 平面図(2)	67
図58	F区第3面 2号溝 平・断面図	68
図59	F区第3面 3・4号溝 平・断面図	69
図60	F区第4面 5号溝(河道?) 平・断面図	70
図61	F区 出土遺物 実測図	70
図62	G区 位置図	71
図63	G区第2・3・4面 全体図	72
図64	G区第2面 平坦面 平面図(上)／第3面 水田面及び畦畔 平面図(下)	73
図65	G区第4面 1～6号溝 平・断面図	74
図66	G区 出土遺物 実測図	75
図67	H区・I区 位置図	75
図68	J区 位置図	76
図69	J区 第1・2・3面 全体図	77
図70	J区 出土遺物 実測図	77
図71	J区第2面 1号溝, 1号畦畔 平・断面図(上)／第3面 水田面および畦畔 平面図(下)	78
図72	J区第4面 水田畦畔, 2・3号溝 平・断面図	79
図73	K区 位置図	80
図74	K区 第2・3・4面 全体図	81
図75	K区第2面 1・2号溝, 島, 1号土坑 平・断面図	82
図76	K区第3面 水田面および畦畔 平面図(3号溝, 1・2号河道の平面図を含む)	83
図77	K区第3面 3号溝 平・断面図	84
図78	K区第3面 1号河道 平・断面図	85
図79	K区第3面 2号河道 平・断面図	86
図80	K区第4面 水田畦畔 平面図	87
図81	K区 出土遺物 実測図	87
図82	K区 北壁 断面図	88
図83	L区 位置図	89
図84	L区 第2面・4面 全体図	90
図85	L区第2面 水田畦畔 平・断面図	90
図86	L区第2面 1・2号溝 平・断面図	91
図87	L区第3面 7号溝, 1号河道 平・断面図	92
図88	L区第3面 4～6・8号溝 平・断面図	93
図89	L区第3面 3～5号溝, 水田畦畔 平・断面図	94
図90	L区 出土遺物 実測図	95
図91	M区 位置図	96
図92	M区 第1・4・5面 全体図	97

図93	M区	出土遺物	実測図	97	
図94	M区第1面	1～4号溝	平・断面図	98	
図95	M区第4面	水田畔群, 5号溝	平・断面図(上) ／(仮称)第5面 水田畔群	99	
図96	M区	北壁	断面図	100	
図97	N区	位置図		101	
図98	N区	全体図(上)	／1・2号溝	平・断面図(下)	102
図99	N区	トレンチ	平・断面図	103	
図100	N区	出土遺物	実測図	103	
図101	O区	位置図		104	
図102	O区	全体図		105	
図103	O区	1～3号溝	平・断面図	106	
図104	O区	4～12号溝	平・断面図	107	
図105	O区	トレンチ	平・断面図(上)／1号土坑, 1 ～4号ピット	平・断面図(下)	108
図106	O区	北壁	断面図	109	
図107	O区	南壁	断面図	110	
図108	O区	出土遺物	実測図(1)	111	
図109	O区	出土遺物	実測図(2)	112	
図110	P区	位置図		113	
図111	P区	全体図(上)	／1・2号溝	平・断面図(下)	114
図112	P区	3号溝	平・断面図	115	
図113	P区	水田畔群, トレンチ	平・断面図	116	
図114	Q区	位置図(上)	／トレンチ	平・断面図	117
図115	K区	の上層柱状図		120	
図116	上強戸遺跡群	におけるプラント・オパール分析結果		123	
図117	K・L区	河道	平面図	131	
図118	K・L区	河道	断面図	132	
図119	K区第3面	水田の田面状況の差異		133	
図120	B区第1面	の溝およびピット群		134	
図121	F区3号溝	の断面図および出土須恵器		135	
図122	上強戸遺跡群	における土地利用の特色		136	

表目次

表1	調査経過表	3
表2	上強戸遺跡群周辺遺跡一覧表	8
表3	B区ピット計測表	27
表4	テフラ検出分析結果	120
表5	群馬県, 上強戸遺跡群におけるプラント・オパール 分析結果	123
表6	樹種同定資料と同定結果	127

写真目次

写真1	植物性炭体(プラント・オパール)の顕微鏡写 真	124
写真2	上強戸遺跡群出土木製品の光学顕微鏡写真(1)	128
写真3	上強戸遺跡群出土木製品の光学顕微鏡写真(2)	129
写真4	上強戸遺跡群出土木製品の光学顕微鏡写真(3)	129

写真図版目次

PL1	A区(1)
PL2	A区(2)
PL3	A区(3)
PL4	A区(4)
PL5	A区(5)
PL6	A区(6)
PL7	A区(7)
PL8	B区(1)
PL9	B区(2)
PL10	B区(3)
PL11	B区(4)
PL12	B区(5)
PL13	B区(6)
PL14	B区(7)
PL15	B区(8)
PL16	B区(9)
PL17	B区(10)
PL18	B区(11)
PL19	C区(1)
PL20	C区(2)
PL21	C区(3)
PL22	D区・E区(1)
PL23	E区(2)・F区(1)
PL24	F区(2)
PL25	F区(3)
PL26	G区(1)
PL27	G区(2)
PL28	J区(1)
PL29	J区(2)
PL30	K区(1)
PL31	K区(2)
PL32	K区(3)
PL33	L区(1)
PL34	L区(2)
PL35	L区(3)
PL36	L区(4)・M区(1)
PL37	M区(2)・N区(1)
PL38	N区(2)・O区(1)
PL39	O区(2)
PL40	O区(3)
PL41	O区(4)・P区(1)
PL42	P区(2)・Q区
PL43	A区・B区・C区・E区 出土遺物
PL44	F区・G区・J区・K区・L区・M区・N区・O区 出土遺物

第1章 経緯・経過・環境

第1節 経緯と経過

1 発掘調査に至る経緯

上強戸遺跡群の発掘調査は主要地方道足利伊勢崎線道路整備事業に伴い実施した。道路整備事業は成塚団地入り口から丸山西交差点まで、延長1.8km区間の現道両側の拡幅整備であり、この区間は北関東自動車道と交差、併行することから北関東自動車道の側道という位置づけで、中核都市間を効率的に連結する幹線としての機能の確保を目的に計画された。

本発掘調査の実施に関しては、平成13年度、県土木部と県教育委員会文化課の間で協議が行われ、本発掘調査は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が太田土木事務所からの委託を受け、平成14年度下期からの実施が予定された。道路整備事業地は埋蔵文化財包蔵地として周知されていなかったが、交差並行する北関東自動車道の路線内では、平成14年1月から埋蔵文化財調査が既に着手されており、水田跡を中心とする遺構の調査が進んでいた。この

ため北関東道に隣接、並行する本事業地にも、同様の遺構の広がりが及んでいることが予想された。

本発掘調査の実施に先立つ試掘調査は、北関東自動車道と足利伊勢崎線の立体交差予定地から以西の、埋蔵文化財の状況が不明確な事業地を対象に実施することとし、交差部以東の北関東自動車道と隣接、並行する区間については試掘調査は実施しないこととし、北関東自動車道本線の発掘調査状況を考慮して、本調査の必要範囲を判断することとした。試掘調査は平成14年11月12日から11月17日までの期日で群馬県教育委員会文化課が実施した。試掘の結果、北関東自動車道との交差部から西200m、足利伊勢崎線と南北に交差する市道までの区間で平安時代の水田跡が部分的に確認されたため、この区間について本発掘調査を必要とするとの判断がなされた。しかし市道以西については遺構、遺物の確認が無かったため、本発掘調査の不要、または工事立ち会の調査による対応となった。

発掘調査は、試掘結果に基づき、平成14年12月から工事予定の先行する、北関東自動車道と足利伊勢崎線交差部の鈞橋橋台工事区域を中心とするB区、C区を対象に着手することとなった。



(国土地理院 1:25,000 地形図「足利南部」「足利北部」「桐生」「上野境」を使用)
図1 上強戸遺跡群 位置図

2 発掘調査の経過

上強戸遺跡群は平成14年度から17年度の4年にわたり断続的に調査が実施された。

調査対象範囲が、現状の主要地方道足利伊勢崎線の南北脇であることから、調査区の設定においては現有道路に接する舗装・水路等によって分断された区画をひとつの調査区として認識し、A区からQ区までを設定した。

調査年度別にみると、次の通りになる。

平成14年度は平成14年12月2日から平成15年3月31日にかけて、B区(表面積2,476㎡。以下、表面積は略)とC区(1,051㎡)を調査した。

平成15年度は平成15年4月1日から同年6月30日にかけて、C区のうち前年度未調査部とD区(681㎡)、E区(319㎡)、F区(511㎡)、G区(372㎡)の調査を実施した。なお、H区(260㎡)とI区(402㎡)については、当初は調査区名称を付し詳細な調査を実施する予定であった。しかし、調査可能幅が1.0m未満である上に、地下からの湧水が激しく、調査区壁面が崩落する状況となった。この2つの調査区は北側0.5m程の位置に、県道を支える用壁があり、その崩落の危険性を伴うことから、明確な遺構・遺物が認識できなかったことを確認し

た上で、早急に埋め戻しを行った。

平成16年度は平成16年12月1日から平成17年3月31日にかけて、A区(3,741㎡)、J区(1,171㎡)、K区(1,208㎡)、L区(1,032㎡)の調査を実施した。

平成17年度は平成17年12月1日から平成18年3月31日にかけて、M区(692㎡)、N区(451㎡)、O区(405㎡)、P区(1,182㎡)、Q区(486㎡)の調査を実施し、これにて上強戸遺跡群の調査は完了した。

なお、各調査区における詳細工程および、配属調査担当者については一覧表にまとめた(表1)。

※

表土除去にはバックホーを用いる場合が多かったが、一部調査区(H・I区の一部)幅が狭い箇所については、人力で行う場合もあった。

調査記録は、実測図は平板による手実測図と、専用機材による機械実測、さらにはラジコンヘリによる航空測量を併用した。一方、写真記録は、銀塩カメラを用いて、35mmカラーポジ及びモノクロネガフィルム、ブローニー版カラーポジで撮影した。また、一部についてはデジタルカメラを用いて、デジタルデータの保存も実施した。

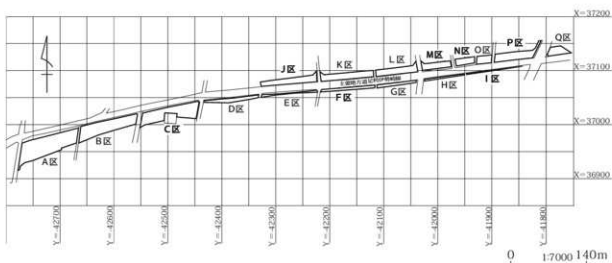


図2 調査区名称

表1 調査経過表

年度	平成14(2002)年度				平成15(2003)年度				平成16(2004)年度					平成17(2005)年度			
	平成14年				平成15年				平成16年	平成17年				平成18年			
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	12月	1月	2月	3月	12月	1月	2月	3月		
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
調査準備	■				■				■								
A区	第1面									■	■	■					
	第2面										■	■					
	第3面											■					
B区	第1面		■	■	■												
	第2面			■	■	■											
C区	第1面	■	■			■	■										
	第2面			■	■	■											
D区	第2面				■	■											
	第3面					■	■	■									
	第4面						■	■	■								
E区	第2面							■	■								
	第3面								■	■							
	第4面									■	■						
F区	第2面				■	■	■										
	第3面					■	■	■									
	第4面						■	■	■								
G区	第2面					■	■										
	第3面						■	■	■								
H区						■											
I区	第2面									■	■						
	第3面										■	■	■				
	第4面											■	■	■			
K区	第2面																
	第3面																
	第4面																
L区	第1~3面									■	■						
	第4面										■	■	■				
M区																	
N区																	
O区																	
P区																	
Q区																	
調査精収作業						■											■
調査担当者	平成14(2002)年度調査				平成15(2003)年度調査				平成16(2004)年度調査					平成17(2005)年			
渡辺・石川	■	■	■	■													
川崎・深澤					■	■	■	■									
秋・紀・井・渡辺									■	■	■	■	■	■	■	■	■
大江・桐沼																	■

3 基本土層

上強戸遺跡群における土層状況は調査地点によって異なる。だが、その基本土層は以下の通りである。

基本土層1層（以下、「基本土層」は略）は現表土であり、II層は圃場整備時の埋土である。

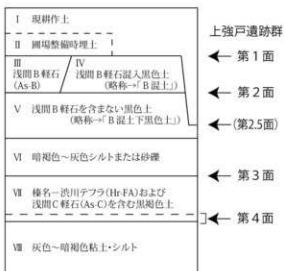
III層は1108年に噴出の浅間B軽石（As-B）層であり、IV層はその浅間B軽石を混入する黒色土である。なお、本遺跡群ではIII層の明瞭な堆積層は極めて限定的な存在である。

V層は浅間B軽石を含まない黒色土である。なお、本遺跡のV層はほとんどがIV層下に存在する層であって、所謂「テフラ（ここではIII層）直下の旧地表面」ではない。

VI層は暗褐色～灰色シルトまたは砂礫層である。

VII層は榛名～澁川テフラ（Hr-FA）および浅間C軽石（As-C）を含む黒褐色土層である。なお、本遺跡では榛名～澁川テフラ（Hr-FA）および浅間C軽石（As-C）の一次堆積層は検出されていない。

VIII層は灰色～暗褐色粘土またはシルトであり、幾重にも互層をなしている。



上強戸遺跡群の調査面について

第1面～I・II層直下の面（中世以降の時期と推定）

第2面～IV層直下の面（12世紀を前後する時期と推定）

※I・II層がV層までおよぶ箇所については第2.5面とする。

第3面～VI層直下の面（8世紀中葉～後葉の時期と推定）

第4面～VIII層下面からVIII層上面（8世紀以前と推定）

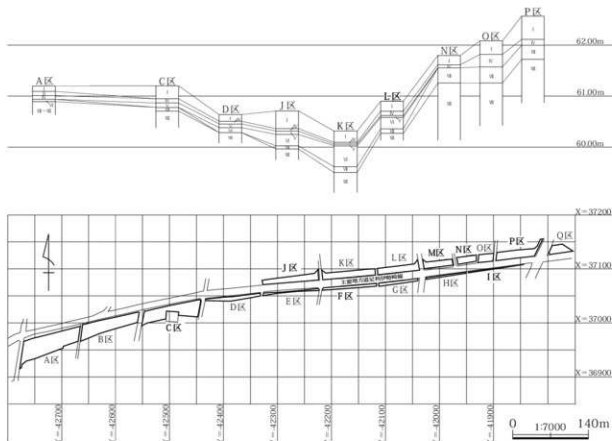


図3 基本土層（上）／各地点の土層状況（下）

第2節 環境

1 地勢的環境

上強戸遺跡群が位置する太田北部の平野部は、関東平野の北西部、群馬県桐生市から太田市にかけての、渡良瀬川右岸に沿って連なる八王子丘陵～金山丘陵に南～西接する位置にある。

この一帯は渡良瀬川が更新世に形成した「大間々扇状地（Ⅱ面）」に相当するが、上強戸遺跡群が位

置する標高 50～60 m 付近のエリアは、ちょうどその扇端部に相当する。

この扇端部一帯は大間々扇状地の自由地下水が地表面に排出され、扇状地内の伏流水が湧水として地表面に現れるエリアであり、所謂「扇端湧水帯」を形成している。

本地域の基幹河川の1つである蛇川は、その元々の源流がこの扇端湧水帯であると言われており、本地域の地勢の大きな特徴の1つといえる。

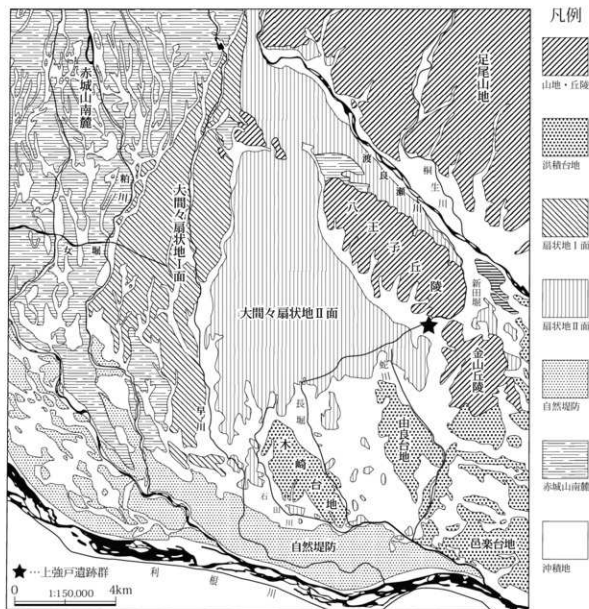


図4 上強戸遺跡群周辺の地形分類図

2 歴史的環境

旧石器時代 峯山遺跡(29)、村上遺跡(15)、強戸口峯山遺跡(31)、大鳥口遺跡(89)などが八王子丘陵や金山丘陵一帯に分布する。また、成塚住宅団地遺跡(20)、堂原遺跡(82)など、沖積地内のローム層低台地にもその存在が認められる。

縄文時代 草創期の資料は峯山遺跡で認められ、早期・貝殻条痕文系土器は堂原遺跡で出土している。前期・諸磯期の遺跡として堂原遺跡、前沖遺跡(66)など、多数存在する。中期後半・加曾利E式期の遺跡としては堂原遺跡、三枚橋南遺跡(65)などがある。後期・称名寺式、堀ノ内式、加曾利B式期の遺跡は、堂原遺跡の存在が顕著である。晩期の遺跡は太田地域全体においてもその分布が少ない。

弥生時代 太田地域には弥生時代の遺跡は少ないが、金山丘陵や八王子丘陵周辺や沖積地内の低台地上において、中期の資料が散見され、西野原遺跡(1)成塚向山古墳群(A)・西長岡東山古墳群(C)では中期後半の良好な資料が出土している。

古墳時代 古墳時代前期になると遺跡の分布は急激に増加する。東海系外系土器を多く出土する遺跡としては、大鷲遺跡群(23)、脇屋深町遺跡(79)、唐桶田遺跡(80)新田東部遺跡群(81)などがあり、樽式系・古ヶ谷式系土器を一定量出土する遺跡としては、成塚向山古墳群・西長岡東山古墳群などがある。両者の存在比率は前者の方が圧倒的に多い。

前期古墳としては成塚向山1号墳と寺山古墳(Q)および太田八幡山古墳(図外)があり、また、同時期の方形周溝墓は、成塚住宅団地遺跡、唐桶田遺跡、新田東部遺跡群、西長岡東山古墳群などに多数ある。

中期の遺跡は数多く、成塚住宅団地遺跡をはじめ、成塚石橋遺跡(21)、鳥山下遺跡(64)、前沖遺跡(66)、新田東部遺跡群、堂原遺跡などが挙げられる。

中期古墳としては 中期後半段階の築造と考えられる鶴山古墳(d)、亀山古墳(e)、中期末段階の築造と考えられる鳥崇神社古墳などがある。

後期には、金山丘陵や八王子丘陵地域における埴輪・須恵器の窯業遺跡が多く分布するようになる。

埴輪窯としては、駒形神社埴輪窯跡(10)、成塚住宅団地遺跡があげられ、須恵器窯としては、金山丘陵窯跡群があげられる。後期の集落としては成塚住宅団地遺跡、成塚石橋遺跡、新田遺跡(49)などが挙げられる。

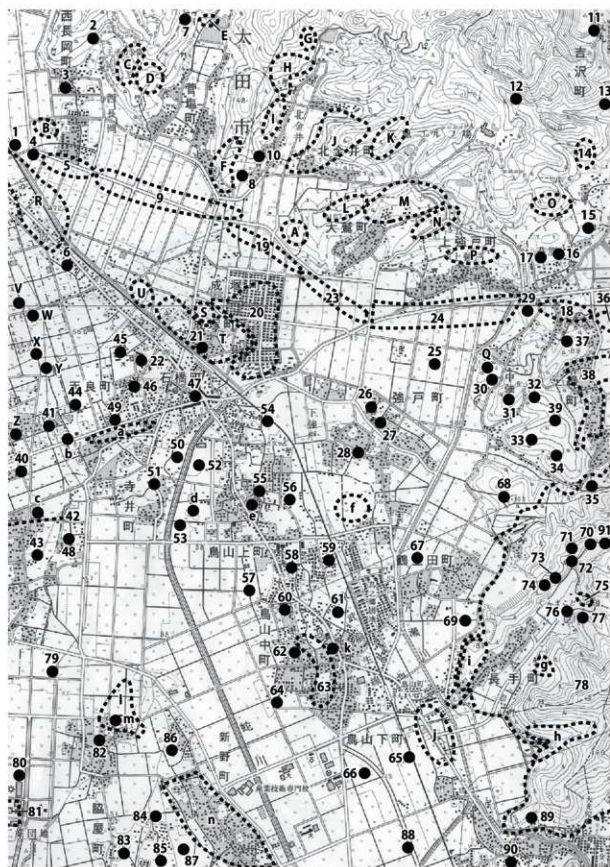
後期の古墳は、後期後半段階の築造と考えられる二ツ山1号墳(V)と二ツ山2号墳(W)、オクマン山古墳(m)、成塚向山2号墳がある。加えて、この時期から終末期にかけては、八王子丘陵・金山丘陵上や、沖積地内の低台地上に多くの群集墳が形成される。大鷲梅穴古墳群(L)、北金井御嶽山古墳群(J)、上強戸古墳群(P)、成塚街道北古墳群(U)貧乏塚古墳群(h)、三枚橋南古墳群(j)、成塚向山古墳群(A)など、枚挙にいとまがない。

飛鳥・奈良・平安時代 7世紀後半の創建と考えられる寺井庵寺(46)や新田郡衙の郡庁の可能性が極めて濃厚である天良七堂遺跡(41)、東山道駅路(42)など、新田郡の中核域を象徴する遺跡が数多く存在する。また、7世紀末～8世紀にかけては新たな産業もおこることがこの地域の特長点であり、製鉄遺跡である、西野原遺跡、峯山遺跡がそれぞれにあたる。また同じ時期に、窯業関係では、須恵器窯跡としては金山丘陵窯跡群の中でも高太郎1遺跡(72)や山去窯跡群(75)などが本格的に操業を開始し、さらに八王子丘陵にある萩原窯跡(17)などでは瓦生産が須恵器生産とともに行われるようになる。

鎌倉時代以降 中世城館跡が多く存在する。典型的な山城・金山城跡(78)をはじめ、鳥山環濠遺構群(63)、大鳥館跡(90)などがある。

参考文献・ホームページ

- ・太田市教育委員会 1995『太田市の文化財』
- ・太田市 1996『太田市史 通史編 原始古代』
- ・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003『年報遺跡・鳥山下遺跡』
- ・酒井清治 2007『群馬・金山丘陵窯跡群』駒澤大学考古学研究室
- ・群馬県教育委員会文化課 2002『群馬県文化財情報システム』web版
- ・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『成塚向山古墳群』



(国土地理院 1:25,000 地形図「相生」(「上野段」を使用))

図5 上強戸遺跡群周辺遺跡分布

表2 上強戸遺跡群周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥・平安	中世
A	成塚向山古墳群	○	○	○	○	○	○
B	西長岡古墳群				○		
C	西長岡東山古墳群			○	○		
D	菅塩西山古墳群						
E	菅塩祝人古墳群						
F	菅塩山崎古墳群						
G	西高坪古墳群						
H	北金井西山古墳群						
I	北金井山古墳群						
J	北金井御山古墳群						
K	北金井東通古墳群						
L	大塚梅ヶ丘古墳群						
M	大塚大平古墳群						
N	大塚向山古墳群						
O	古沢古墳群						
P	上強戸古墳群						
Q	寺山古墳						
R	西長岡横塚古墳群	○	○	○	○	○	○
S	菅平塚古墳群			○	○	○	○
T	成塚古墳群						
U	成塚南道北古墳群						
V	二ツ山古墳 1号墳						
W	二ツ山古墳 2号墳						
X	天良船塚古墳						
Y	新牛新古墳						
Z	尾根古墳						
a	寺井古墳群						
b	寺井南古墳						
c	松尾神社古墳						
d	嶋山古墳						
e	嶋山古墳						
f	鶴生田・下強戸古墳群						
g	大反田古墳群						
h	真芝塚古墳群						
i	長手古墳群						
j	三枚橋南古墳群						
k	鳥居神社古墳						○
l	稲屋古墳群						
m	オケマン山古墳						
n	新野古墳群						
1	西野塚遺跡		○	○	○	○	○
2	愛子山遺跡			○	○	○	○
3	長岡塚			○	○	○	○
4	鳥谷戸遺跡			○	○	○	○
5	西長岡谷遺跡			○	○	○	○
6	愛人塚遺跡						○
7	菅塩祝人塚						○
8	菅塩山谷遺跡		○	○	○	○	○
9	菅塩遺跡群		○	○	○	○	○
10	駒形神社横塚遺跡		○	○	○	○	○
11	岩神遺跡						○
12	浜内式楽跡						○
13	浜内遺跡						○
14	古沢式楽跡						○
15	村上遺跡		○	○	○	○	○
16	萩原遺跡						○
17	萩原遺跡						○
18	萩原遺跡		○	○	○	○	○
19	成塚遺跡群						○
20	成塚住毛地遺跡群		○	○	○	○	○
21	成塚石塚遺跡						○
22	寺井庵寺東遺跡						○
23	大塚遺跡群						○
24	上強戸遺跡群						○
25	寺の東遺跡		○	○	○	○	○
26	強戸の青屋						○

遺跡番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥・平安	中世
27	強戸宮西遺跡			○			
28	柳中遺跡						○
29	塚山遺跡						○
30	新倉西遺跡						○
31	強戸口塚山遺跡		○	○	○	○	○
32	新倉遺跡						○
33	越々山遺跡						○
34	菅々人塚		○	○	○	○	○
35	菅々人塚跡						○
36	古塚集平岡水田址						○
37	雷山遺跡		○	○	○	○	○
38	古水部南跡						○
39	堂ノ北西遺跡						○
40	菅松遺跡						○
41	天良七堂遺跡						○
42	鎌定東山道聖蹟 新田地区						○
43	七堂遺跡						○
44	上郷遺跡						○
45	寺井庵寺北遺跡		○	○	○	○	○
46	寺井庵寺跡						○
47	石橋地蔵久保遺跡						○
48	寺井本郷遺跡						○
49	新田遺跡						○
50	菅ノ宮遺跡						○
51	久保御遺跡						○
52	久保遺跡						○
53	八幡遺跡						○
54	寺裏遺跡						○
55	上遺跡						○
56	鳥山寺中遺跡						○
57	大光寺跡						○
58	上泉岡遺跡						○
59	中道遺跡						○
60	鳥山宿野敷遺跡			○	○	○	○
61	熊谷遺跡						○
62	鳥ヶ谷戸遺跡						○
63	鳥山岡塚遺跡群						○
64	鳥山下遺跡						○
65	三枚橋南遺跡						○
66	福中遺跡						○
67	中妻遺跡						○
68	鶴生田上遺跡						○
69	間々下遺跡						○
70	カニ方沢遺跡						○
71	高太郎遺跡						○
72	高太郎1遺跡						○
73	熊谷ヶ谷戸遺跡						○
74	高太郎2遺跡						○
75	山去楽跡群						○
76	山去・十八曲遺跡			○	○	○	○
77	長手口宮跡						○
78	御山塚跡						○
79	福原深町遺跡						○
80	唐輪山遺跡						○
81	新田東部遺跡群						○
82	堂原遺跡		○	○	○	○	○
83	岡原遺跡						○
84	福原中庭遺跡						○
85	菅谷免遺跡(福原義助前跡)						○
86	野堂遺跡						○
87	下原遺跡						○
88	年保遺跡						○
89	大島1遺跡		○	○	○	○	○
90	大島船跡						○
91	堤入遺跡						○

第2章 検出遺構と出土遺物

第1節 A区の調査

1 概要

A区では、「上強戸遺跡群第1面・第2面・第3面」の3つの遺構面の調査を実施した。

上強戸遺跡群第1面は比較的遺構の残存具合も良好であったが、第2面および第3面は部分的な範囲のみで、わずかに遺構が検出されるのみであった。

遺構種類としては、次の通りである。

第1面・溝・土坑・火葬墓・擬似水田畦畔

第2面・溝・井戸・水田畦畔

第3面・溝・土坑

2 A区第1面の調査

a. 溝

A区1号溝(図8/PL1)

平面規模 長さ25.10m～、幅0.40～1.20m。
断面規模 深さ0.52m。底面 南から北への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 2号溝と連結。帰属時期 中世以降と推定。

A区2号溝(図8/PL1)

平面規模 長さ41.50m。幅0.85～1.80m。
断面規模 深さ0.39m。底面 東から西への下

り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 A区5号溝(古)→A区2号溝(新)。A区7号溝(古)→A区2号溝(新)。A区1号溝及びA区4号溝と連結。帰属時期 中世以降と推定。

A区3号溝(図8/PL1)

平面規模 長さ2.50m～、幅0.50m。断面規模 深さ0.12m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

A区4号溝(図9/PL2)

平面規模 長さ25.10m～、幅0.45～1.42m。断面規模 深さ0.23m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 A区2号溝と連結。帰属時期 中世以降と推定。

A区5号溝(図8/PL2)

平面規模 長さ26.50m～、幅0.40～1.10m。断面規模 深さ0.11m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 A区7号溝(古)→A区2号溝(新)。帰属時期 覆土に浅間B軽石を含むことから、12世紀初頭以降と推定。

A区6号溝(図9/PL2)

平面規模 長さ2.33m。幅0.24m。断面規模 深さ0.10m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

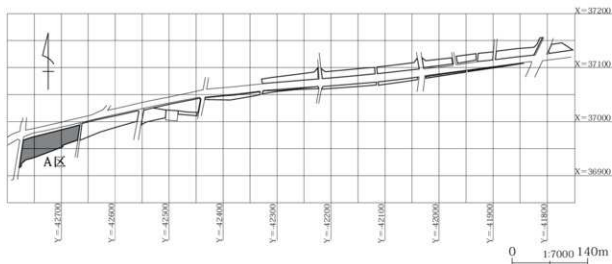


図6 A区 位置図

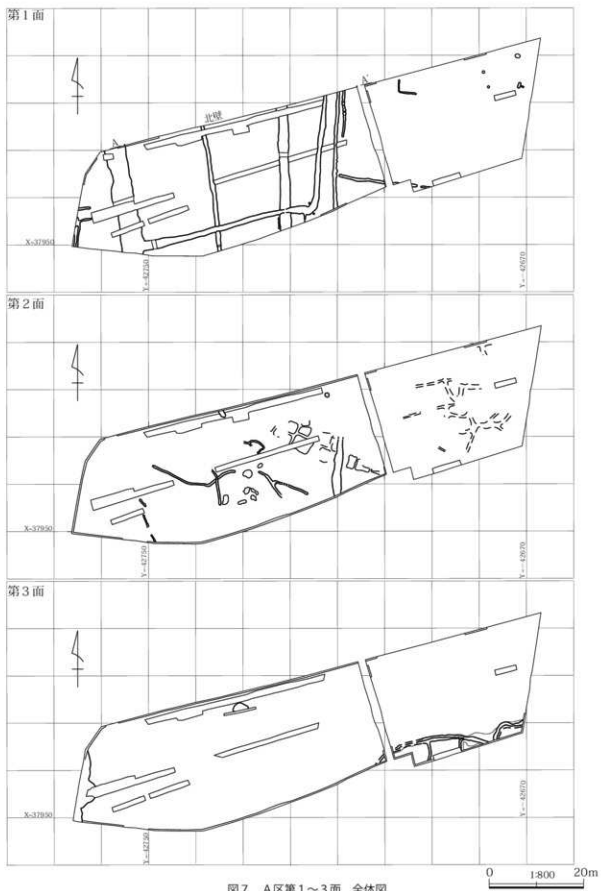


图7 A区第1~3面 全体图

A区7号溝(図9/PL2)

平面規模 長さ25.50m～。幅2.52m。断面規模 深さ0.34m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 A区7号溝(古)→A区2号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

A区8号溝(図9/PL2)

平面規模 長さ24.50m～。幅0.50～0.94m。断面規模 深さ0.10m。底面 北から南へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

A区9号溝(図9/PL2)

平面規模 長さ6.20m。幅0.30m。断面規模 深さ0.08m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。備考 平面形がL字に屈曲。

A区10号溝(図9/PL3)

平面規模 長さ6.20m。幅0.24～0.30m。断面規模 深さ0.08m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

b. 土坑

A区1号土坑(図10/PL3)

平面規模 長軸1.04m×短軸0.88m。平面形状 楕円形。断面規模 深さ0.14m。出土遺物 なし。帰属時期 中世以降と推定。

A区2号土坑(図10/PL3)

平面規模 長軸0.52m×短軸0.48m。平面形状 楕円形。断面規模 深さ0.13m。出土遺物 なし。帰属時期 中世以降と推定。

A区3号土坑(図10/PL4)

平面規模 長軸0.42m×短軸0.37m。平面形状 方形。断面規模 深さ0.18m。出土遺物 なし。帰属時期 中世以降と推定。

c. 火葬墓

A区1号火葬墓(図10/PL3)

平面規模 長軸1.21m×短軸0.45m。平面形状 長方形。断面規模 深さ0.30m。煙道部 東壁面に長さ0.75m、幅0.20mの煙道が付設。

出土遺物 人骨片。帰属時期 中世以降と推定。

d. 擬似水田畦畔

A区1号擬似畦畔(図8/PL1)

平面規模 長さ3.00m～。幅0.25～0.30m。走行方向 ほぼ東西方向。他遺構との関係 A区2号擬似畦畔と連結。帰属時期 中世以降と推定。

A区2号擬似畦畔(図8/PL1)

平面規模 長さ5.00m～。幅0.20～0.25m。走行方向 ほぼ南北方向。他遺構との関係 A区1号擬似畦畔と連結。帰属時期 中世以降と推定。

A区3号擬似畦畔(図9/PL2)

平面規模 長さ25.50m～。幅0.80～1.10m。走行方向 ほぼ南北方向に走行。他遺構との関係 A区4号溝と接して併行存在。帰属時期 中世以降と推定。

A区4号擬似畦畔(図9/PL2)

平面規模 長さ9.50m～。幅1.00m。走行方向 ほぼ南北方向。他遺構との関係 A区8号溝と接し併行存在。帰属時期 中世以降と推定。

3 A区第2面の調査

a. 溝

A区11号溝(図11/PL4)

平面規模 長さ5.30m～。幅0.16m。断面規模 深さ0.07m。底面 北から南へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

A区12号溝(図11/PL4)

平面規模 長さ19.50m～。幅0.30m。断面規模 深さ0.08m。底面 西から東へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 A区12号溝(古)→A区13号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

A区13号溝(図11/PL5)

平面規模 長さ8.00m～。幅0.31m。断面規模 深さ0.07m。底面 北から南へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 A区12号溝(古)→A区13号溝(新)。



図8 A区第I面 1～3・5号溝, 1・2号掘削跡群 平面図

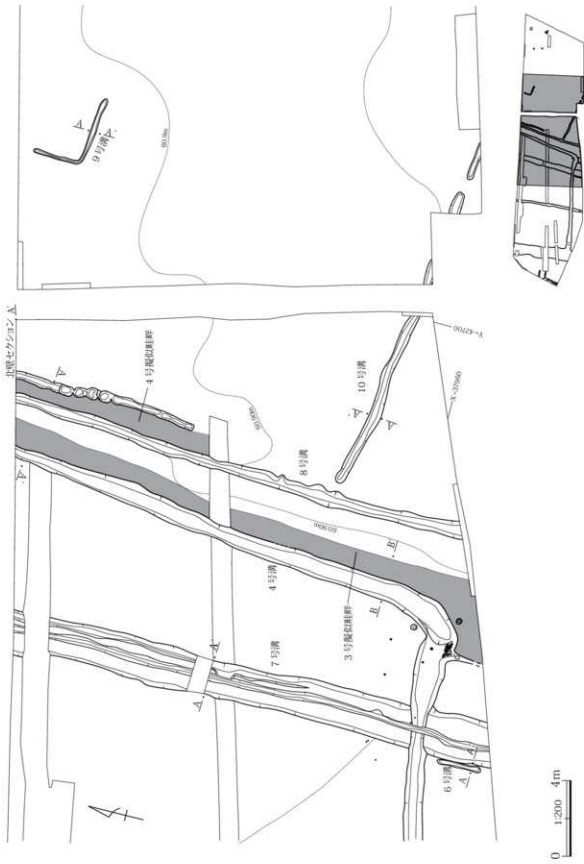
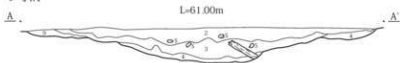


図9 A区第1面 4・6～10号溝, 3・4号類似群 平面図

第2章 検出遺構と出土遺物

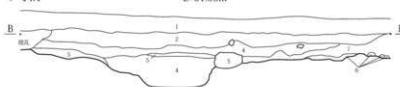
1号溝



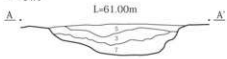
1~7・9・10号溝・2号擬似畦畔

- 1 現表土
- 2 圃場整備時の盛り土(埋土)
- 3 青灰色シルト
- 4 青灰~暗灰色砂礫
- 5 暗褐色シルト
- 6 明褐色砂礫
- 7 暗灰色シルト
- 8 灰白色シルト
- 9 暗褐色粘質土 As-Bを多く含む
- 9' 9層の再堆積土
- 10 暗褐色粘質土 As-Bを含まない

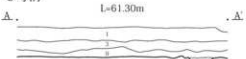
1号溝



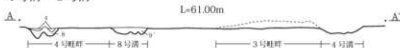
2号溝



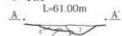
3号溝



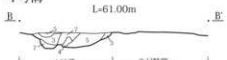
4号溝・8号溝



5号溝



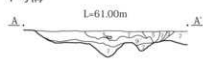
4号溝



6号溝



7号溝



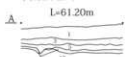
9号溝



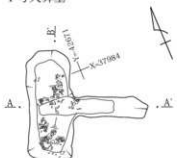
10号溝



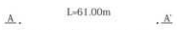
2号擬似畦畔



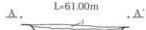
1号火葬墓



- 1号火葬墓
- 1 灰褐色砂質土
- 2 褐色砂質土
- 3 褐色土 炭化物・焼壁ブロックを含む
- 4 褐色粘質土 炭化物・焼土ブロックを多く含む
- 5 暗褐色土 灰白色を含む炭化物・骨片を多量に含む

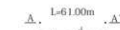
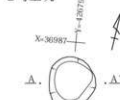


1号土坑



- 1~3号土坑
- 1 暗褐色粘質土
- 2 褐色粘質土

2号土坑



3号土坑

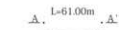
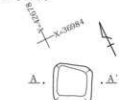


図10 A区第1面 1~10号溝・2号擬似畦畔 断面図(上) / 1号火葬墓, 1~3号土坑 平・断面図(下)

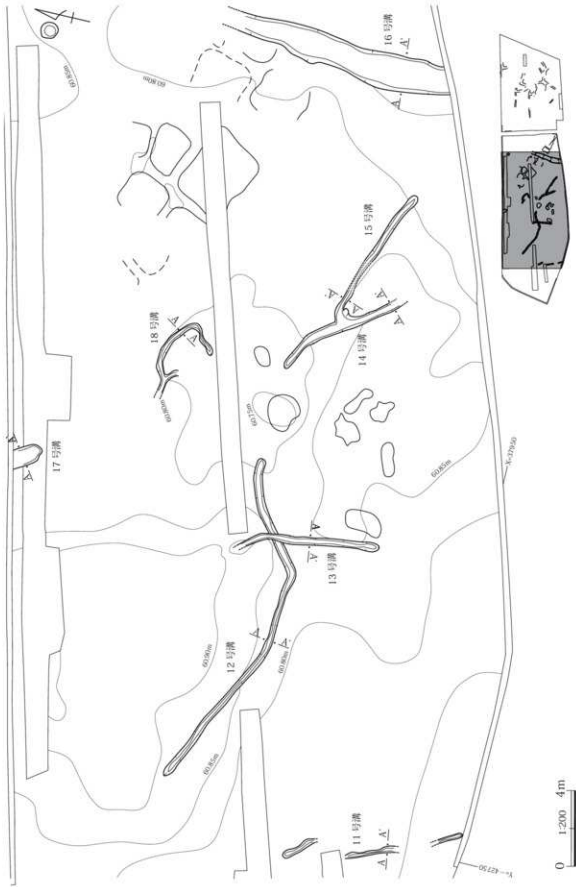


図11 A区第2面 11～18号溝 平面図

第2章 検出遺構と出土遺物

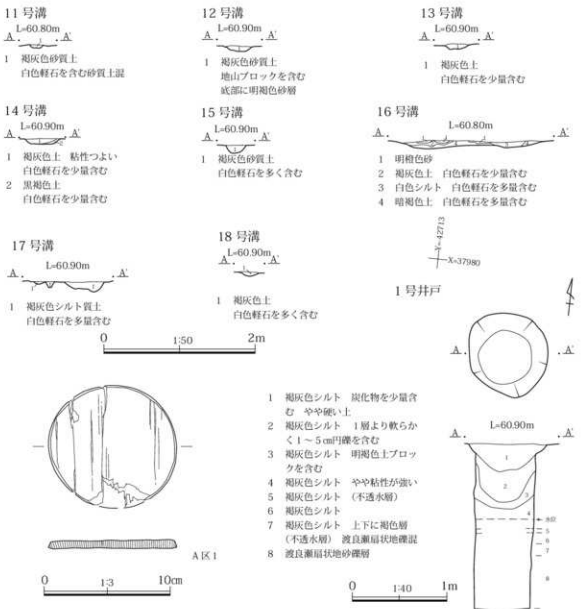


図12 A区第2面 11~18号溝 断面図(上) / A区1号井戸 平・断面図および出土遺物 実測図(下)

帰属時期 不明(中世か?)。

A区14号溝(図11/PL.5)

平面規模 長さ7.30m。幅0.46m。断面規模 深さ0.08m。底面 南東から北西へのわずかなり勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 A区15号溝と連結。帰属時期 中世と推定。

A区15号溝(図11/PL.5)

平面規模 長さ8.05m。幅0.27m。断面規模 深さ0.10m。底面 西から東へのわずかなり勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係

A区14号溝と連結。帰属時期 中世と推定。

A区16号溝(図11/PL.5)

平面規模 長さ12.2m。幅1.83m。断面規模 深さ0.10m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世と推定。

A区17号溝(図11/PL.6)

平面規模 長さ1.72m。幅0.98m。断面規模 深さ0.14m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世と推定。

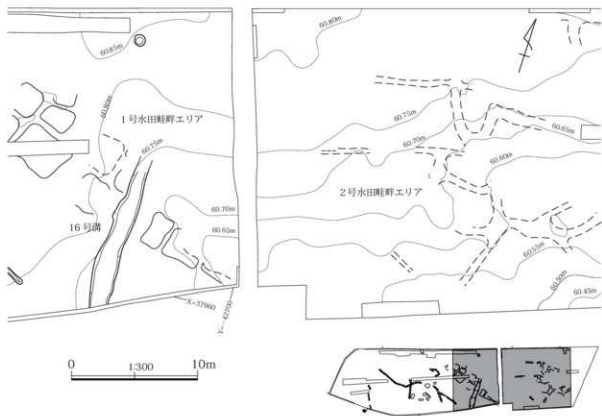


図13 A区第2面 1・2号水田畦畔エリア 平面図

A区18号溝 (図11 / PL 5)

平面規模 長さ7.00 m[~]。 幅0.25 m。 断面規模 深さ0.06 m。 底面 ほぼ水平。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 なし。 帰属時期 中世と推定。

b. 井戸

A区1号井戸 (図12 / PL 6)

平面規模 口径0.92 m、中端幅0.63 m。 平面形状 ほぼ円形。 断面規模 深さ1.76 m[~]：ほぼ円筒状。 覆土 褐灰色シルトが主体。 出土遺物 覆土中より、木製品 (A区1) が出土。 他遺構との関係 なし。 帰属時期 中世と推定。

c. 水田畦畔

A区1号水田畦畔エリア (図13 / PL 6)

検出状況 遺構平面確認時に水田畦畔の痕跡が帯状に認められ、その痕跡が平面的に連続することから水田畦畔の痕跡と判断。 畦畔走行方向 ほぼ直線に走行し、南北・東西方向にそれぞれ走行する。

畦畔平面幅 0.20 ~ 0.53 m。 畦畔高 不明。

A区2号水田畦畔エリア (図13 / PL 6)

検出状況 遺構平面確認時に水田畦畔の痕跡が帯状にわずかに認められ、その痕跡が平面的にみて断続的に連続することから畦畔痕跡と推定判断。 畦畔走行方向 直線的に走行する箇所と蛇行する箇所があるが、概ね南北・東西方向にそれぞれ走行する。 畦畔平面幅 0.20 ~ 1.30 m。 畦畔高 不明。

4 A区第3面の調査

a. 溝

A区19号溝 (図14 / PL 6)

平面規模 長さ15.10 m[~]。 幅3.50 m[~]。 断面規模 深さ0.70 m。 底面 北から南への下り勾配。 出土遺物 覆土中より円筒埴輪片 (A区1) が1点出土。 他遺構との関係 なし。 帰属時期 覆土に混入する白色軽石の存在から6世紀以降、さらに第3面を被覆する洪水層が8世紀代と推

第2章 検出遺構と出土遺物

測されることから、8世紀代以前と推定。

A区20号溝 (図15 / PL7)

平面規模 長さ21.00m。幅0.41m。断面規模 深さ0.10m。底面 西から東への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 A区21号溝と連結。帰属時期 覆土に混入する白色軽石の存在から6世紀以降、さらに第3面を被覆する洪水層が8世紀代と推測されることから、8世紀代以前と推定。備考 平面形状が弧状を呈する。

A区21号溝 (図15 / PL7)

平面規模 長さ2.50m。幅0.30m。断面規模 深さ0.08m。底面 北から南への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 A区20号溝と連結。帰属時期 覆土に混入する白色軽石の存在から6世紀以降、さらに第3面を被覆する洪水層が8世紀代と推測されることから、8世紀代以前と推定。6世紀以降と推定されるA区20号溝に連結するため、同時期を推定。

A区22号溝 (図15 / PL7)

平面規模 長さ9.50m。幅0.78m。断面規模 深さ0.18m。底面 東から南への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。

帰属時期 覆土に混入する白色軽石の存在から6世紀以降、さらに第3面を被覆する洪水層が8世紀代と推測されることから、8世紀代以前と推定。

b. 土坑

A区4号土坑 (図15 / PL7)

平面規模 長軸3.26m×短軸1.60m。平面形状 不整形円形 断面規模 深さ:0.48m。出土遺物 なし。覆土に混入する白色軽石の存在から6世紀以降、さらに第3面を被覆する洪水層が8世紀代と推測されるため、8世紀代以前と推定。

5 出土遺物 (図12 / PL43)

1は木製品・加工材。桶の底板と考えられる。平面形状はやや楕円形を呈し、直径9.5~10.0cm、厚さ0.4cm。木取りは榎目。樹種はスギ。出土位置はA区1号井戸覆土中である。

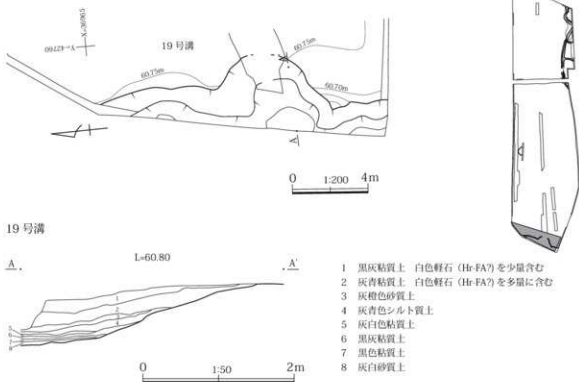


図14 A区第3面 19号溝 平・断面図

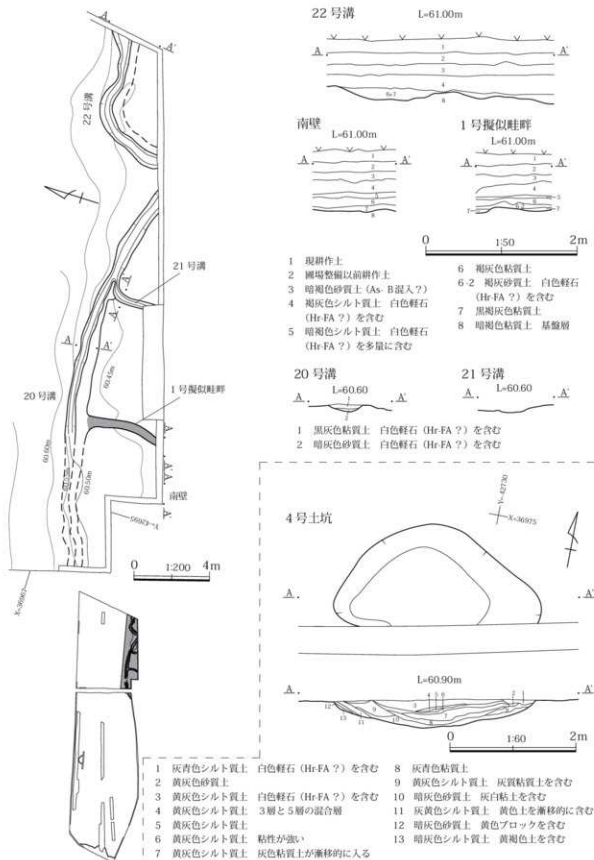


図15 A区第3面 20～22号溝 平・断面図(上) / 4号土坑 平・断面図(下)

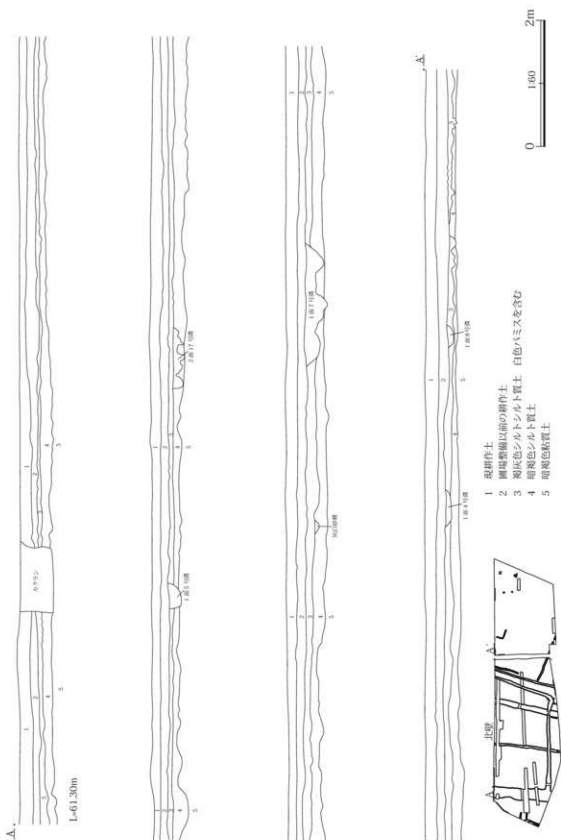


図 16 A区 北壁 断面図

第2節 B区の調査

1 概要

B区では、「上強戸遺跡群 第1面・第2面」の2つの遺構面の調査を実施した。

上強戸遺跡群第1面は遺構の残存状況も良好であったが、第2面については調査区の西側3分の1程度の範囲のみしか遺構の検出が認められなかった。

遺構種類としては、次の通りである。

第1面：溝・土坑・井戸・土壇墓・ピット・焼土痕・礫群

第2面：水田畦畔

2 B区第1面の調査

a. 溝

B区1号溝(図19/PL8)

平面規模 長さ19.00m～。幅1.61m。断面規模 深さ0.30m。底面 北から南へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区1号溝(古)→B区14号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区2号溝(図19/PL8)

平面規模 長さ12.55m～。幅0.45m。断面規模 深さ0.13m。底面 南から北へのわず

かな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区3号溝(古)→B区2号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区3号溝(図19/PL8)

平面規模 長さ26.00m～。幅1.12m。断面規模 深さ0.14m。底面 ほぼ水平。出土遺物 覆土中より土錘(B区1)が出土。他遺構との関係 B区3号溝(古)→B区2号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区4号溝(図19/PL8)

平面規模 長さ11.00m～。幅1.23m。断面規模 深さ0.10m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区4号溝(古)→B区3号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区5号溝(図19/PL9)

平面規模 長さ27.50m～。幅0.61m。断面規模 深さ0.20m。底面 南から北へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区4号溝(古)→B区3号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区6号溝(図20/PL9)

平面規模 長さ3.82m～。幅0.42m。断面規模 深さ0.19m。底面 水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

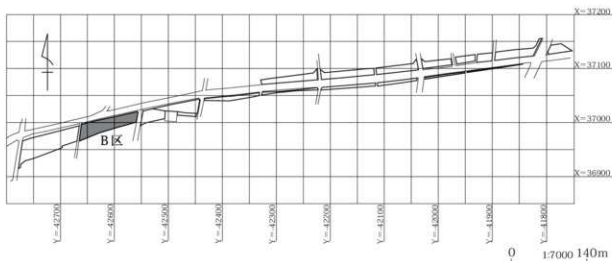


図17 B区 位置図

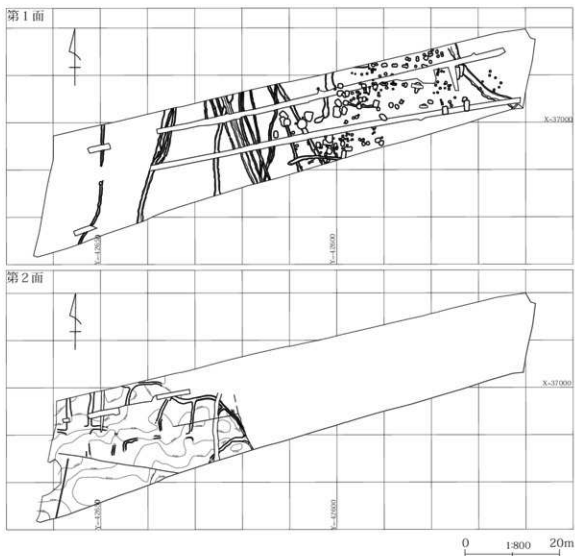


図18 B区第1・2面 全体図

B区7号溝 (図20/PL 9)

平面規模 長さ3.90 m～。幅0.52 m。断面規模 深さ0.10 m。底面 北から南へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区8号溝 (図20/PL 9)

平面規模 長さ11.50 m～。幅0.43 m。断面規模 深さ0.17 m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区8号溝(古)→B区9号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区9号溝 (図20/PL 9)

平面規模 長さ22.00 m～。幅1.28 m。断面規模 深さ0.32 m。底面 北から南への下り

勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区8号溝(古)→B区9号溝→B区10号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区10号溝 (図20/PL 9)

平面規模 長さ19.70 m～。幅1.40 m。断面規模 深さ0.40 m。底面 北から南への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区9号溝(古)→B区10号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区11号溝 (図20/PL9)

平面規模 長さ21.00 m～。幅0.29 m。断面規模 深さ0.16 m。底面 北から南への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区

13号溝(古)→B区11号溝(新)。 帰属時期 中世以降と推定。

B区12号溝(図20/PL9)

平面規模 長さ20.50m。 幅0.46m。 断面規模 深さ0.20m。 底面 北から南へのわずかな下り勾配。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 B区13・14号溝(古)→B区12号溝(新)。

帰属時期 中世以降と推定。

B区13号溝(図20/PL9)

平面規模 長さ18.50m。 幅0.42m。 断面規模 深さ0.22m。 底面 北から南へのわずかな下り勾配。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 B区13号溝(古)→B区11・12号溝(新)。

帰属時期 中世以降と推定。

B区14号溝(図20/PL9)

平面規模 長さ21.30m。 幅0.63m。 断面規模 深さ0.30m。 底面 北から南へのわずかな下り勾配。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 B区15号溝(古)→B区14号溝→B区13・16号溝(新)。B区15号溝(古)→B区39～41号土坑(新)。 帰属時期 中世以降と推定。

B区15号溝(図20/PL9)

平面規模 長さ19.50m。 幅0.70m。 断面規模 深さ0.26m。 底面 ほぼ水平。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 B区15号溝(古)→B区14・17号溝(新)。 帰属時期 中世以降と推定。

B区16号溝(図20/PL10)

平面規模 長さ19.50m。 幅0.98m。 断面規模 深さ0.33m。 底面 北から南へのわずかな下り勾配。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 B区14号溝(古)→B区16号溝→B区17号溝(新)。B区16号溝(古)→B区1号井戸(新)。

帰属時期 中世以降と推定。

B区17号溝(図20/PL10)

平面規模 長さ11.30m。 幅0.80m。 断面規模 深さ0.21m。 底面 西から東へのわずかな下り勾配。 出土遺物 覆土中より陶器・甕(B

区2)が出土。 他遺構との関係 B区15・16号溝(古)→B区17号溝(新)。 帰属時期 中世以降と推定。

b. 土坑

B区1号土坑(図21・22)

平面規模 長軸1.40m×短軸0.90m。 平面形状 方形。 断面規模 深さ0.30m。 出土遺物 底面より古銭が6枚(B区10～15)が出土。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。 備考 古銭の出土から墓塚の可能性あり。

B区2号土坑→欠番

B区3号土坑(図21・22/PL10)

平面規模 長軸1.06m×短軸0.88m。 平面形状 楕円形。 断面規模 深さ0.53m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区4号土坑(図21・22/PL10)

平面規模 長軸0.90m×短軸0.68m。 平面形状 不整形円形。 断面規模 深さ0.70m。 出土遺物 覆土中より瓦石(B区7)が出土。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区5号土坑(図21・22/PL10)

平面規模 長軸1.06m×短軸0.70m。 平面形状 楕円形。 断面規模 深さ0.26m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区6号土坑(図21・22/PL11)

平面規模 長軸1.05m×短軸0.72m。 平面形状 楕円形。 断面規模 深さ0.28m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区7号土坑(図21・22/PL11)

平面規模 長軸1.62m×短軸0.98m。 平面形状 不整形円形。 断面規模 深さ0.40m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

第2章 検出遺構と出土遺物

B区8号土坑(図21・22/PL11)

平面規模 長軸1.70m×短軸1.06m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.40m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区9号土坑(図21・22/PL11)

平面規模 長軸2.26m×短軸1.60m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.32m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区10号土坑(図21・22/PL12)

平面規模 長軸1.54m×短軸1.12m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.46m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区11号土坑(図21・23/PL12)

平面規模 長軸0.94m×短軸0.88m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.36m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区12号土坑(図21・23/PL12)

平面規模 長軸1.04m×短軸0.62m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.18m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区12号土坑(古)→B区13号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区13号土坑(図21・23/PL12)

平面規模 長軸1.18m×短軸0.86m。平面形状 方形。断面規模 深さ0.32m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区16号土坑(古)→B区12号土坑(新)。B区12号土坑(古)→B区13号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区14号土坑(図21・23/PL13)

平面規模 長軸2.44m×短軸1.08m。平面形状 方形。断面規模 深さ0.30m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区14号土坑(古)→B区15号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区15号土坑(図21・23/PL13)

平面規模 長軸2.50m×短軸0.90m。平面形状 方形。断面規模 深さ0.34m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区14号土坑(古)→B区15号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区16号土坑(図21・23/PL13)

平面規模 長軸1.32m×短軸1.12m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.50m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区16号土坑(古)→B区12号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区17号土坑(図21・23/PL13)

平面規模 長軸1.00m×短軸1.00m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.12m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区17号土坑(古)→B区71・76号ピット(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区18号土坑(図21・23/PL13)

平面規模 長軸0.98m×短軸0.78m。平面形状 方形。断面規模 深さ0.12m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区19号土坑(図21・23/PL14)

平面規模 長軸0.96m×短軸0.78m。平面形状 方形。断面規模 深さ0.34m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区20号土坑(図22・24/PL14)

平面規模 長軸2.22m×短軸1.16m。平面形状 方形。断面規模 深さ0.64m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区1号焼土(古)→B区20号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区21号土坑(図22・24/PL14)

平面規模 長軸1.02m×短軸0.96m。平面形状 方形。断面規模 深さ0.40m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。

帰属時期 中世以降と推定。

B区 22号土坑 (図 22・24 / PL14)

平面規模 長軸 1.14 m × 短軸 0.68 m。 平面形状 不整形。 断面規模 深さ 0.24 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 23号土坑 (図 22・24 / PL14)

平面規模 長軸 0.92 m × 短軸 0.76 m。 平面形状 方形。 断面規模 深さ 0.18 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 24号土坑 (図 21・24 / PL15)

平面規模 長軸 1.02 m × 短軸 0.92 m。 平面形状 不整形。 断面規模 深さ 0.40 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 B区 24号土坑(古) → B区 61号ピット(新)。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 25号土坑 (図 21・24 / PL15)

平面規模 長軸 1.02 m × 短軸 0.96 m。 平面形状 方形。 断面規模 深さ 0.24 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 26号土坑 (図 21・24 / PL15)

平面規模 長軸 1.48 m × 短軸 1.10 m。 平面形状 不整形。 断面規模 深さ 0.40 m。 出土遺物 覆土中より須恵器・坏身 (B区 3) が出土。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 27号土坑 → 欠番

B区 28号土坑 (図 21・24 / PL15)

平面規模 長軸 1.00 m × 短軸 0.50 m ~ 平面形状 不整形。 断面規模 深さ 0.46 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 29号土坑 (図 21・24 / PL15)

平面規模 長軸 0.72 m × 短軸 0.70 m。 平面形状 円形。 断面規模 深さ 0.34 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。

帰属時期 中世以降と推定。

B区 30号土坑 (図 21・25 / PL15)

平面規模 長軸 1.21 m × 短軸 0.88 m。 平面形状 不整形。 断面規模 深さ 0.22 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 31号土坑 (図 21・25 / PL15)

平面規模 長軸 1.04 m × 短軸 0.92 m。 平面形状 不整形。 断面規模 深さ 0.30 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 32号土坑 (図 21・25 / PL15)

平面規模 長軸 1.90 m × 短軸 1.71 m。 平面形状 不整形。 断面規模 深さ 0.25 m。 出土遺物 覆土中より瓦片 (B区 5) が出土。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 33号土坑 (図 21・25 / PL16)

平面規模 長軸 0.72 m × 短軸 0.66 m。 平面形状 円形。 断面規模 深さ 0.52 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 34号土坑 (図 21・25 / PL16)

平面規模 長軸 1.06 m × 短軸 0.42 m。 平面形状 不整形。 断面規模 深さ 0.54 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 35号土坑 (図 21・25 / PL16)

平面規模 長軸 0.70 m × 短軸 0.42 m。 平面形状 不整形。 断面規模 深さ 0.49 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 36号土坑 (図 21・25 / PL16)

平面規模 長軸 1.18 m × 短軸 1.06 m。 平面形状 不整形。 断面規模 深さ 0.26 m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

B区 37号土坑 (図 21・25 / PL16)

第2章 検出遺構と出土遺物

平面規模 長軸1.66 m×短軸0.86 m。平面形状 隅丸方形。断面規模 深さ0.34 m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区38号土坑(図21・25/PL16)

平面規模 長軸1.55 m×短軸0.86 m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.30 m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区39号土坑(図21・26/PL16)

平面規模 長軸2.06 m×短軸0.62 m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.52 m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区41号土坑(古)→B区39号土坑(新)。B区39号土坑(古)→B区40号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区40号土坑(図21・26/PL16)

平面規模 長軸1.44 m×短軸1.36 m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.63 m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区39・41号土坑(古)→B区40号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区41号土坑(図21・26/PL17)

平面規模 長軸1.80 m×短軸1.24 m。平面形状 方形。断面規模 深さ0.42 m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区41号土坑(古)→B区39・40号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区42号土坑(図21・26/PL17)

平面規模 長軸1.56 m×短軸1.52 m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.18 m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区45号土坑(古)→B区42号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区43号土坑(図21・26/PL17)

平面規模 長軸1.08 m×短軸0.80 m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.50 m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区44号土坑

(古)→B区43号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区44号土坑(図21・26/PL17)

平面規模 長軸0.83 m×短軸0.69 m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.62 m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区44号土坑(古)→B区43号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区45号土坑(図21・26/PL17)

平面規模 長軸2.05 m×短軸1.02 m。平面形状 方形。断面規模 深さ0.16 m。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区45号土坑(古)→B区42号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

c. 焼土

B区1号焼土(図27)

平面規模 長軸1.40 m×短軸0.96 m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.12 m。他遺構との関係 B区1号焼土(古)→B区20号土坑(新)。帰属時期 中世以降と推定。

B区2号焼土(図27)

平面規模 長軸1.20 m×短軸0.32 m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.18 m。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区3号焼土(図27)

平面規模 長軸2.24 m×短軸1.28 m。平面形状 不整形。断面規模 深さ0.28 m。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区4号焼土(図27)

平面規模 長軸1.04 m×短軸0.92 m。平面形状 不整形。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区5号焼土(図27)

平面規模 長軸0.72 m×短軸0.56 m。平面形状 不整形。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

B区6号焼土(図27)

平面規模 長軸1.80m×短軸1.20m。平面形状 不整形 他遺構との関係 B区6号焼土(古)→B区152号ピット(新)。帰属時期 中世以降と推定。

d. 井戸

B区1号井戸(図28/PL17)

平面規模 口径2.15m、中端幅1.02m。平面形状 ほぼ円形。断面規模 深さ2.00m～：ほぼ円筒状。覆土 暗褐色土・灰黄褐色土と礫層の互層。出土遺物 なし。他遺構との関係 B区16号溝(古)→B区1号井戸(新)。帰属時期

期 中世以降と推定。

e. 礫群

B区1号礫群(図28)

平面規模 長さ6.30m、幅1.30m、深さ0.25mの溝状の内部に礫が集中。出土遺物 砥石(B区8・9)が出土。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

f. ピット(図21・29～37/PL18)

B区ではピットを163基検出した。各ピットの平面規模及び深さは一覧にまとめた(表3)。出土遺物はB区84号ピット覆土から磨石(B区6)が出土。帰属時期は何れも中世以降と推定。

表3 B区ピット計測表

ピット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	ピット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	ピット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	ピット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
3	0.42	0.38	0.30	45	0.39	0.35	0.13	86	0.32	0.29	0.40	127	0.26	0.24	0.48
4	0.30	0.30	0.34	46	0.34	0.29	0.13	87	0.45	0.42	0.28	128	0.31	0.25	0.55
5	0.30	0.28	0.28	47	0.38	0.30	0.51	88	0.51	0.48	0.26	129	0.28	0.22	0.49
6	0.39	0.38	0.30	48	0.36	0.35	0.49	89	0.43	0.42	0.38	130	0.26	0.24	0.49
7	0.34	0.34	0.32	49	0.20	0.19	0.22	90	0.86	0.44	0.17	131	0.28	0.26	0.24
8	0.35	0.34	0.20	50	0.27	0.19	0.43	91	0.42	0.41	0.24	132	1.08	0.58	0.48
9	0.40	0.37	0.26	51	0.23	0.20	0.22	92	0.46	0.42	0.39	133	0.35	0.32	0.44
10	0.30	0.28	0.24	52	1.18	0.60	0.52	93	0.27	0.24	0.23	134	0.28	0.26	0.31
11	0.50	0.42	0.62	53	1.12	0.52	0.52	94	0.68	0.58	0.14	135	0.28	0.22	0.39
12	0.34	0.33	0.38	54	1.16	0.67	0.45	95	0.47	0.44	0.20	136	0.29	0.26	0.49
13	0.42	0.40	0.30	55	0.90	0.56	0.49	96	0.69	0.66	0.21	137	0.31	0.31	0.46
14	0.73	0.52	0.50	56	0.50	0.40	0.50	97	0.64	0.52	0.42	138	0.34	0.33	0.24
16	0.42	0.40	0.16	57	0.51	0.49	0.16	98	0.48	0.46	0.04	139	0.39	0.3	0.26
17	0.28	0.26	0.25	58	0.30	0.28	0.20	99	0.42	0.32	0.35	140	0.46	0.42	0.52
18	0.30	0.29	0.27	59	0.28	0.23	0.23	100	0.40	0.33	0.39	141	0.30	0.29	0.46
19	0.48	0.31	0.14	60	0.57	0.34	0.41	101	0.50	0.45	0.22	142	0.47	0.46	0.22
20	0.58	0.44	0.24	61	0.35	0.34	0.20	102	0.49	0.32	0.46	143	0.46	0.34	0.32
21	0.26	0.20	0.21	62	0.50	0.40	0.25	103	0.46	0.39	0.42	144	0.30	0.26	0.28
22	0.40	0.38	0.11	63	0.27	0.22	0.50	104	0.29	0.26	0.40	145	0.29	0.26	0.18
23	0.38	0.38	0.12	64	0.40	0.32	0.24	105	0.40	0.24	0.40	146	0.39	0.33	0.22
24	0.39	0.38	0.45	65	0.30	0.28	0.19	106	0.44	0.42	0.43	147	0.26	0.22	0.39
25	0.66	0.31	0.24	66	0.40	0.30	0.39	107	0.53	0.38	0.30	148	0.56	0.49	0.42
26	0.36	0.28	0.22	67	0.30	0.30	0.24	108	0.33	0.32	0.42	149	0.40	0.31	0.32
27	0.34	0.28	0.24	68	0.30	0.28	0.54	109	0.54	0.52	0.41	150	0.25	0.2	0.29
28	0.34	0.32	0.14	69	0.34	0.30	0.32	110	0.36	0.30	0.35	151	0.49	0.31	0.43
29	0.26	0.22	0.31	70	0.34	0.32	0.59	111	0.19	0.18	0.28	152	0.70	0.49	0.57
30	0.38	0.28	0.36	71	0.42	0.40	0.46	112	0.43	0.25	0.21	153	0.49	0.39	0.52
31	0.26	0.26	0.24	72	0.32	0.30	0.36	113	0.21	0.20	0.20	154	0.30	0.26	0.19
32	0.32	0.26	0.30	73	0.49	0.44	0.40	114	0.36	0.34	0.40	155	0.42	0.29	0.50
33	0.19	0.14	0.14	74	0.42	0.34	0.48	115	0.38	0.28	0.28	156	0.42	0.32	0.50
34	0.34	0.28	0.30	75	0.50	0.49	0.54	116	0.28	0.27	0.28	157	0.68	0.60	0.51
35	0.54	0.49	0.45	76	0.28	0.28	0.23	117	0.33	0.31	0.34	158	0.29	0.25	0.40
36	0.60	0.50	0.34	77	1.00	0.28	0.42	118	0.28	0.12	0.08	159	0.50	0.38	0.57
37	0.30	0.36	0.15	78	0.39	0.34	0.50	119	0.32	0.24	0.24	160	0.38	0.22	0.42
38	0.32	0.41	0.39	79	0.32	0.30	0.47	120	0.68	0.61	0.52	161	0.41	0.30	0.43
39	0.55	0.53	0.52	80	0.48	0.39	0.42	121	0.42	0.38	0.43	162	0.28	0.24	0.40
40	0.49	0.40	0.31	81	0.23	0.22	0.13	122	0.40	0.35	0.50	163	0.44	0.26	0.53
41	0.45	0.42	0.33	82	0.22	0.18	0.51	123	0.40	0.28	0.30	164	0.30	0.24	0.20
42	0.78	0.58	0.22	83	0.24	0.14	0.44	124	0.34	0.37	0.28	165	0.30	0.29	0.37
43	0.34	0.28	0.40	84	0.20	0.16	0.53	125	0.34	0.32	0.24	166	0.58	0.54	0.57
44	0.63	0.47	0.46	85	0.32	0.26	0.30	126	0.62	0.42	0.36				

※ 斜体数値は残存値

第2章 検出遺構と出土遺物

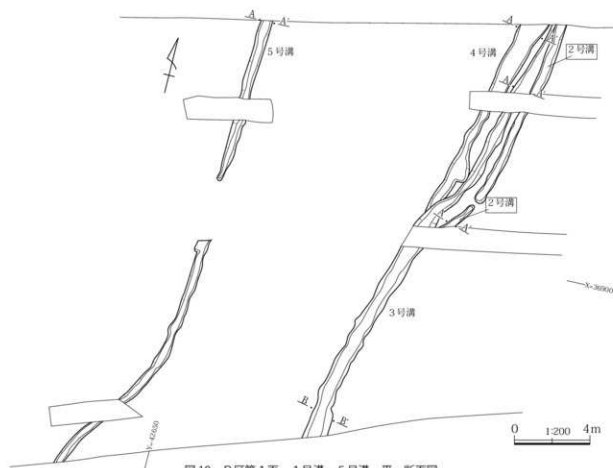
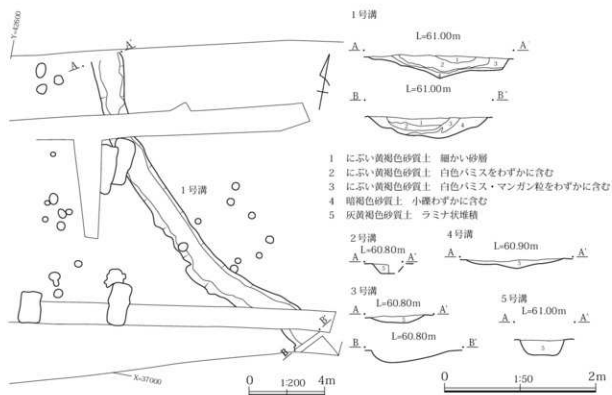
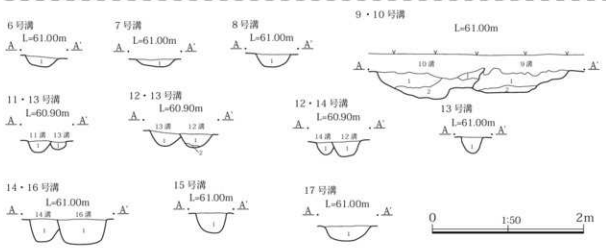
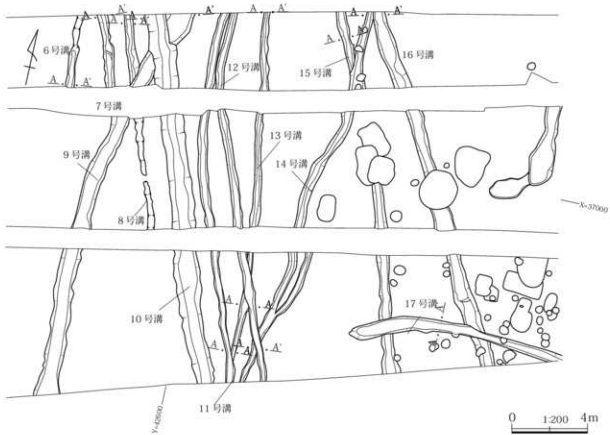


図19 B区第1面 1号溝~5号溝 平・断面図



- 6～17号溝
- 1 にぶい・黄褐色砂質土 白色バミスをわずかに含む
 - 2 黒褐色砂質土 白色バミスをわずかに含む

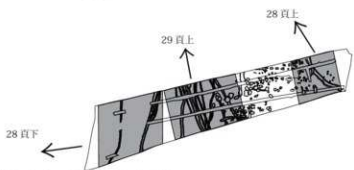


図20 B区第1面 6～17号溝 平・断面図

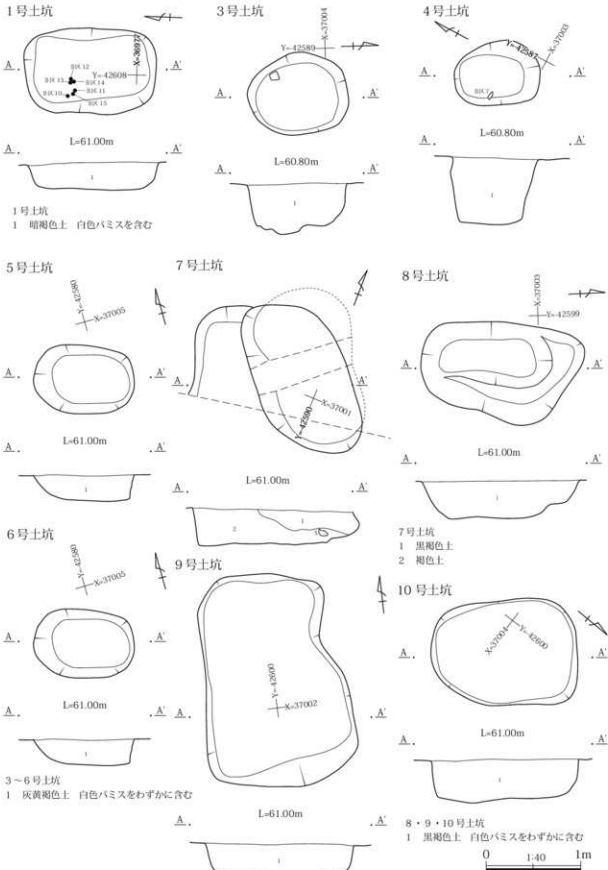
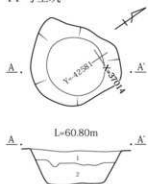


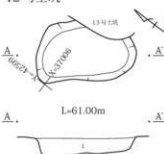
図22 B区第1面 1・3～10号土坑 平・断面図

第2章 検出遺構と出土遺物

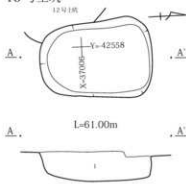
11号土坑



12号土坑



13号土坑



11号土坑

- 1 暗褐色土 白色バミスをわずかに含む
- 2 暗褐色土 しまりなし

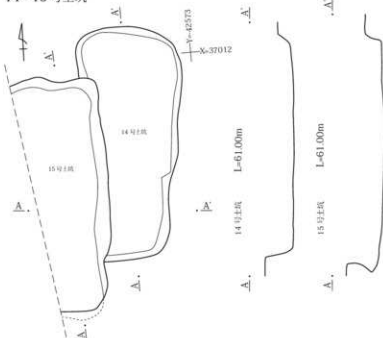
12号土坑

- 1 灰黄褐色土 白色バミスを含む

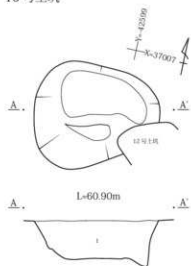
13号土坑

- 1 黒褐色土 白色バミスをわずかに含む

14・15号土坑



16号土坑



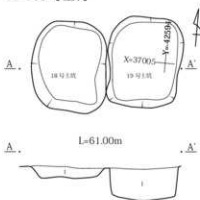
16号土坑

- 1 黒褐色土 白色バミスをわずかに含む

L=60.50m



18・19号土坑



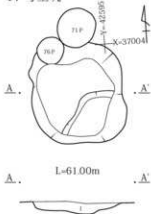
14・15号土坑

- 1 暗褐色土 白色バミスをわずかに含む
- 2 黒褐色土
- 3 暗褐色土

17・18・19号土坑

- 1 灰黄褐色土 白色バミスを含む

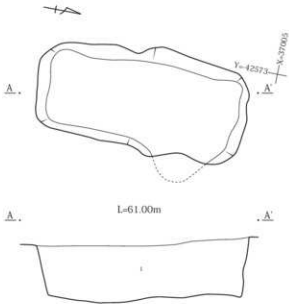
17号土坑



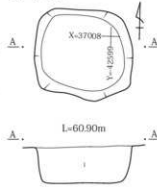
0 1:40 1m

図23 B区第1面 11～19号土坑 平・断面図

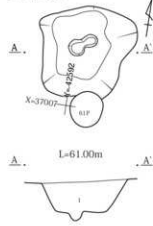
20号土坑



21号土坑



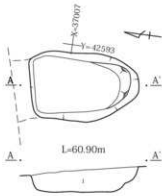
24号土坑



20号土坑
1 黒褐色土

21～25号土坑
1 灰黄褐色土 白色バミスを含む

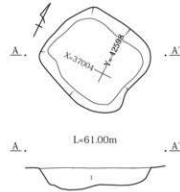
22号土坑



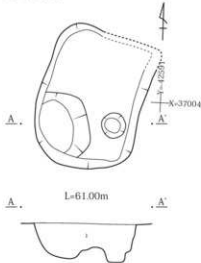
23号土坑



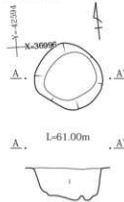
25号土坑



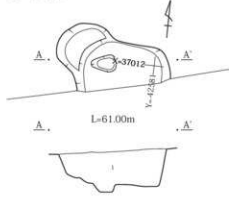
26号土坑



29号土坑



28号土坑



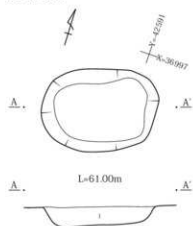
26・29号土坑
1 暗褐色土 白色バミスを含む

28号土坑
1 灰黄褐色土 白色バミスを含む

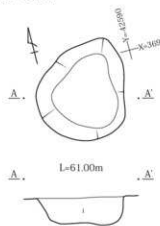


図24 B区第1面 20～26・28・29号土坑 平・断面図

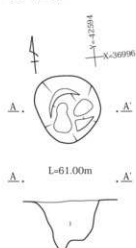
30号土坑



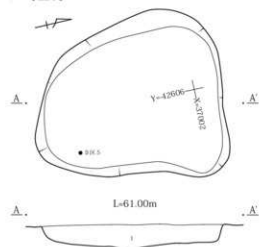
31号土坑



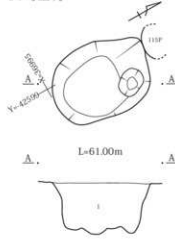
33号土坑



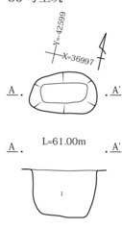
32号土坑



34号土坑



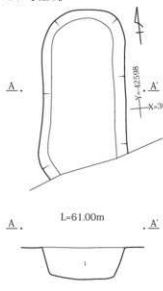
35号土坑



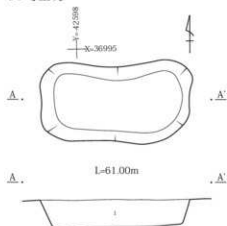
36号土坑



37号土坑



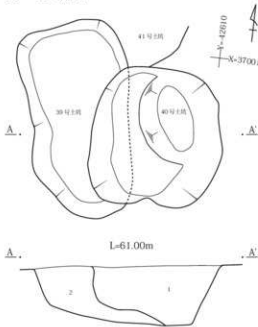
38号土坑



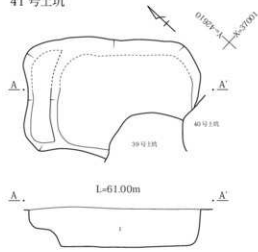
30～38号土坑
1 暗褐色土 白色バミスを含む

图25 B区第1面 30～38号土坑 平・断面図

39・40号土坑

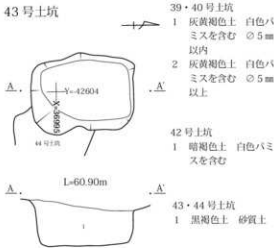


41号土坑



41号土坑
1 灰黄褐色土 白色パミスを含む

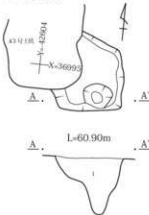
43号土坑



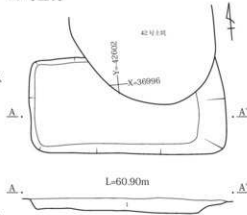
39・40号土坑
1 灰黄褐色土 白色パミスを含む
○5mm 以内
2 灰黄褐色土 白色パミスを含む
○5mm 以上
42号土坑
1 暗褐色土 白色パミスを含む

43・44号土坑
1 黒褐色土 砂質土

44号土坑



45号土坑



45号土坑
1 黒褐色土 白色パミス
をわずかに含む

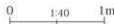


図26 B区第1面 39～45号土坑 平・断面図

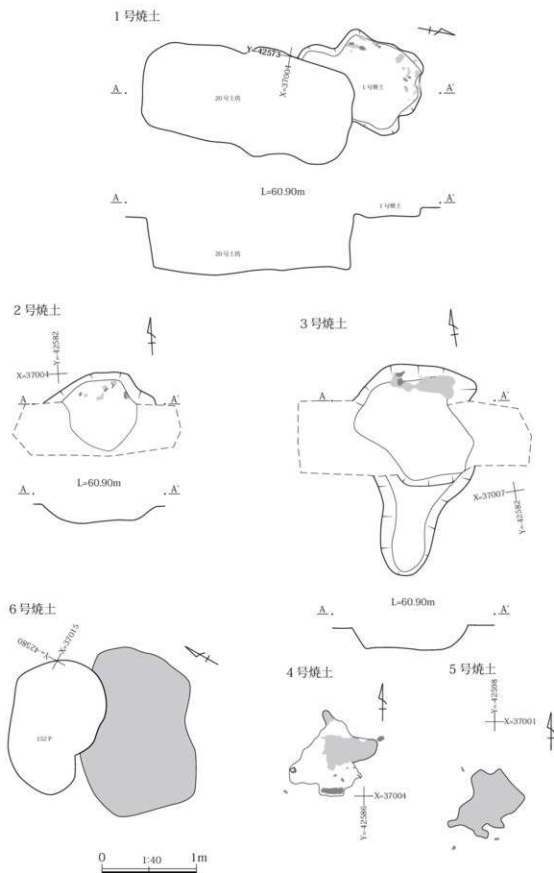
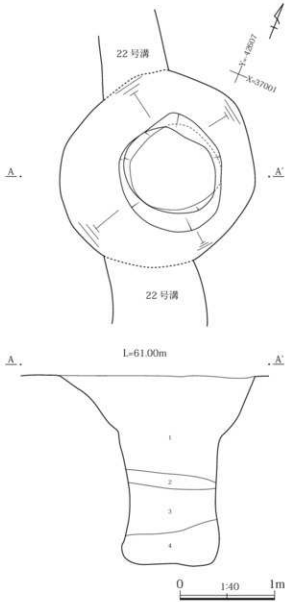


图27 B区第1面 1~6号烧土 平・断面图

1号井戸



1号井戸

- 1 暗褐色土 白色バミスを少量含む
- 2 礫層
- 3 灰黄褐色土 円礫をわずかに含む
- 4 礫層

1号礫群

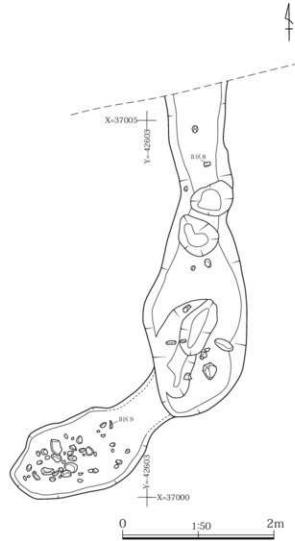


図28 B区第1面 1号井戸, 1号礫群 平・断面図

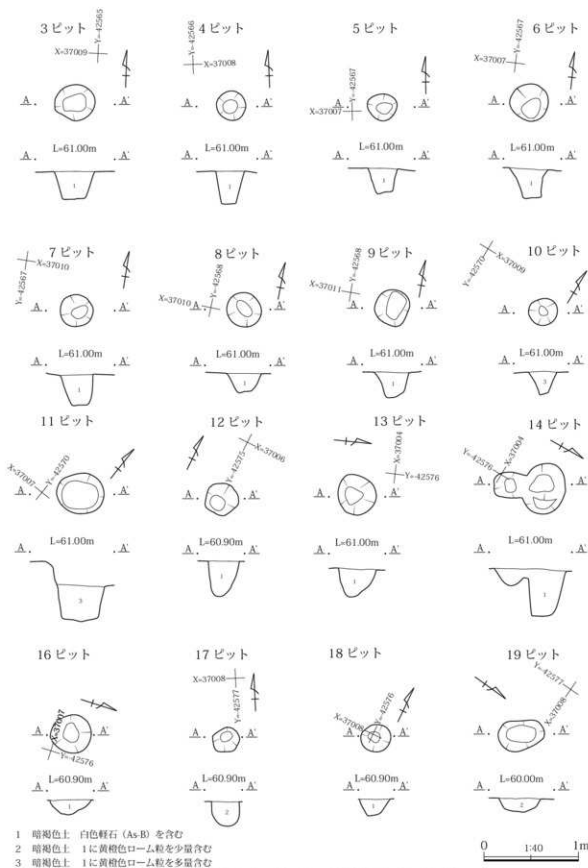


図29 B区第1面 3～14・16～19号ピット 平・断面図

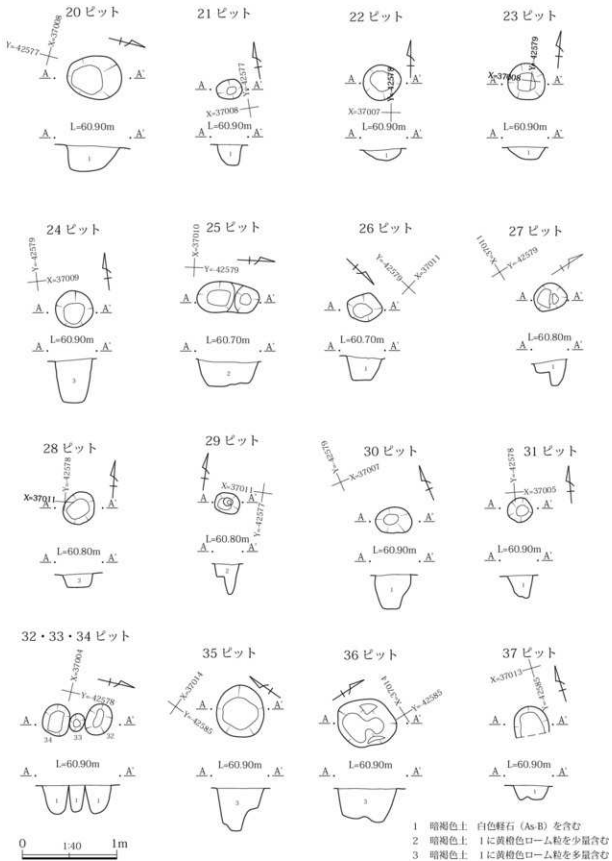


図30 B区第1面 20～37号ピット 平・断面図

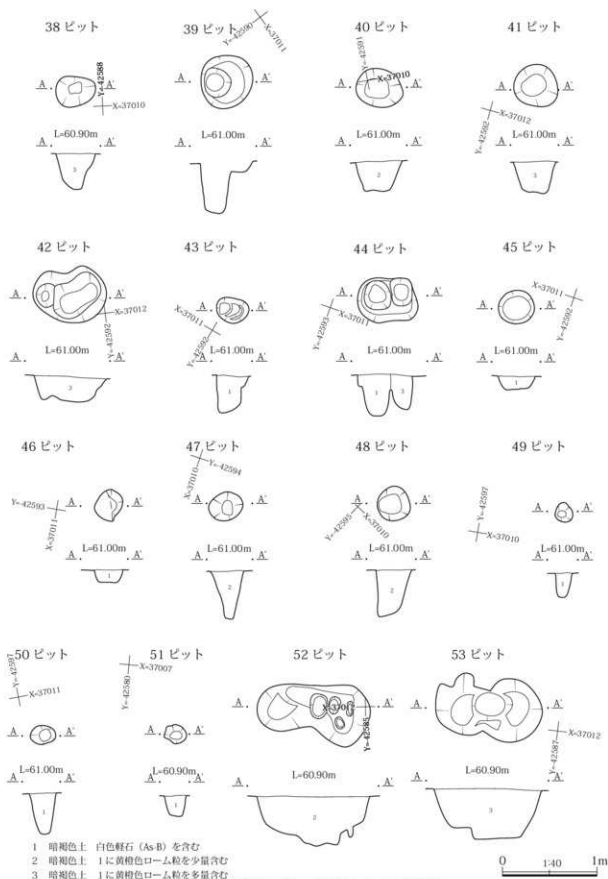


図31 B区第1面 38～53号ピット 平・断面図

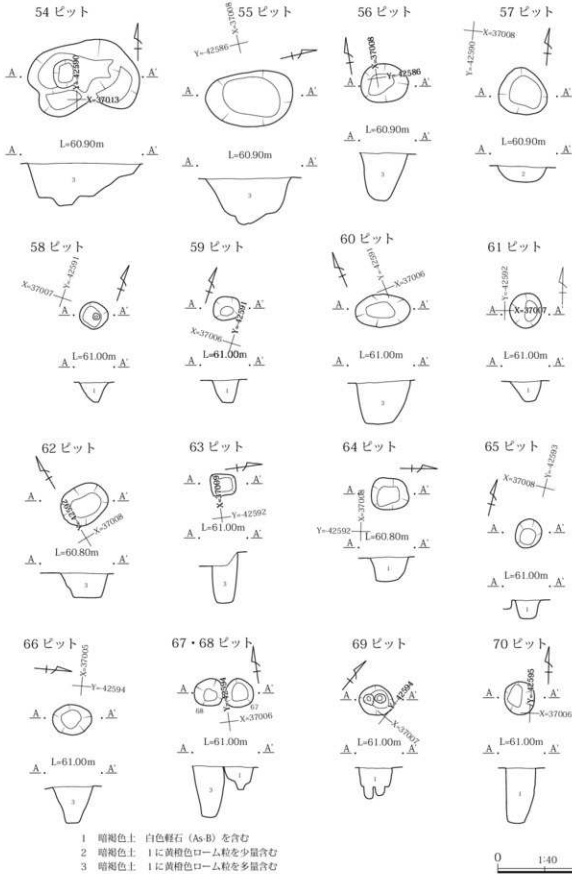
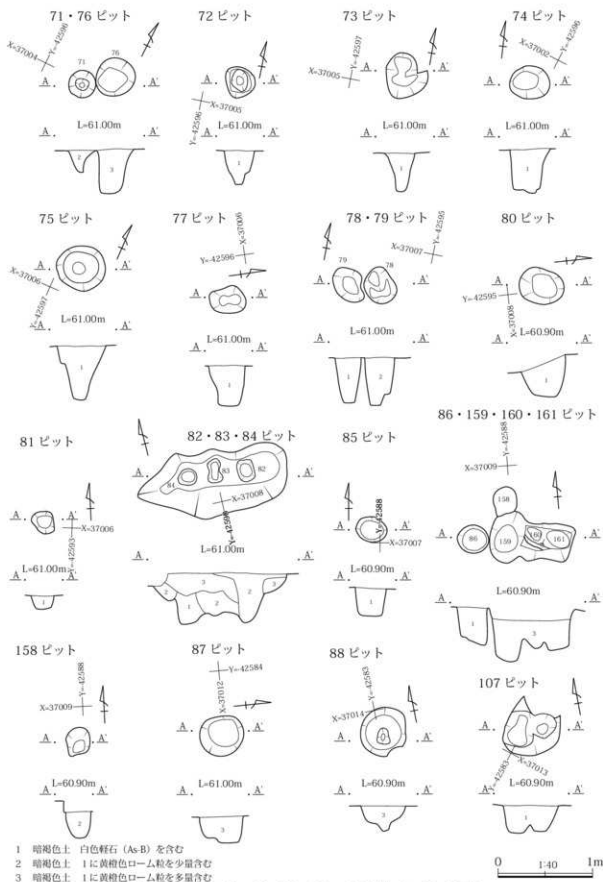


図32 B区第1面 54～70号ビット 平・断面図

第2章 検出構構と出土遺物



- 1 暗褐色土 白色軽石 (A-B) を含む
- 2 暗褐色土 1 に黄褐色ローム粒を少量含む
- 3 暗褐色土 1 に黄褐色ローム粒を多量含む

図33 B区第1面 71～88・107・158～161号ピット 平・断面図

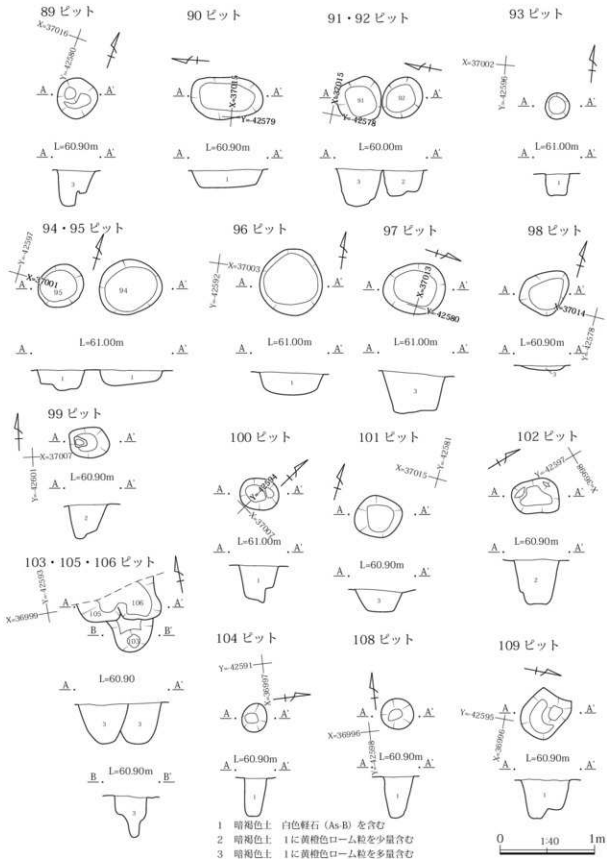


図34 B区第1面 89～106・108号ピット 平・断面図

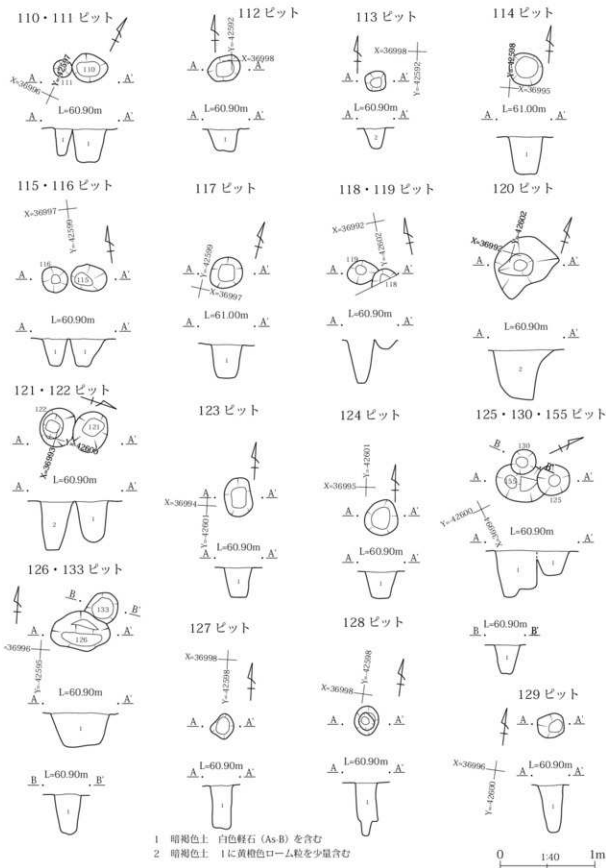
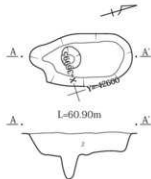


図35 B区第1面 110～130・133・155号ビット 平・断面図

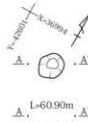
131 ビット



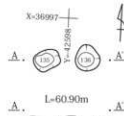
132 ビット



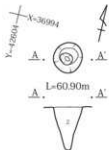
134 ビット



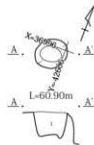
135・136 ビット



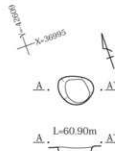
137 ビット



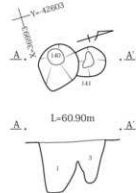
138 ビット



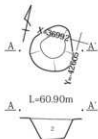
139 ビット



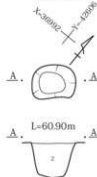
140・141 ビット



142 ビット



143 ビット



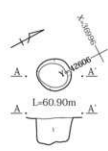
144 ビット



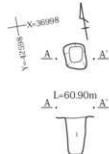
145 ビット



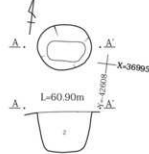
146 ビット



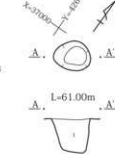
147 ビット



148 ビット



149 ビット



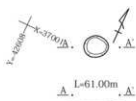
- 1 暗褐色土 白色軽石 (A&B) を含む
- 2 暗褐色土 1 に黄褐色ローム粒を少量含む
- 3 暗褐色土 1 に黄褐色ローム粒を多量含む



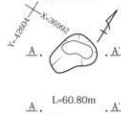
図 36 B区第1面 131・132・134～149号ビット 平・断面図

第2章 検出遺構と出土遺物

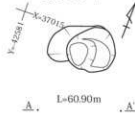
150ピット



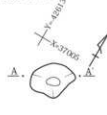
151ピット



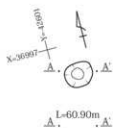
152ピット



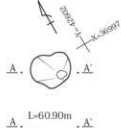
153ピット



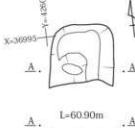
154ピット



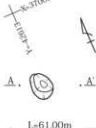
156ピット



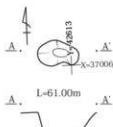
157ピット



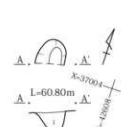
162ピット



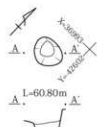
163ピット



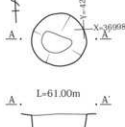
164ピット



165ピット



166ピット



- 1 暗褐色土 白色軽石 (As-B) を含む
2 暗褐色土 1 に黄褐色ローム粒を少量含む

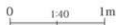


図37 B区第1面 150～154・156・157・162～166号ピット 平・断面図

3 B区第2面の調査

a. 水田面および畦畔 (図38 / PL18)

検出状況 遺構平面確認時に水田畦畔の痕跡が帯状に認められ、その痕跡が平面的に連続することから水田畦畔の痕跡と判断。畦畔走行方向 地形の傾斜に即して走行する。等高線に併行する東西方向に走行する畦畔は地形に即して蛇行。等高線に直行する南北方向に走行する畦畔はほぼ直線に走行。畦畔平面幅 0.10～0.24 m。畦畔高 0.13 m。

水口 未検出。出土遺物 田面より須恵器・環 (B区4) が出土。備考 全体的に残存不良。

4 出土遺物 (図39・40 / PL43)

1は土鍬。全長4.0cmで、最大径は1.5cmを計る。色調はにぶい橙色を呈する。出土位置は、B区3号溝の覆土中である。

2は陶器・甕。残存高は5.0cm、復元底部直径は11.2cm。平底で、球胴を呈すると推定。外面には



図 38 B区第2面 水田面および畦畔 平面図

第2章 検出遺構と出土遺物

茶褐色釉がかかる。胎土は緻密で夾雑物はほとんどなし。胎土は灰白色。出土位置はB区17号溝覆土。

3は須恵器・坏身。残存高は2.1cm、底部直径は5.5cm。底部調整は静止糸切り技法。白色粒子をわずかに含む。焼成は良好。色調は灰色。出土位置はB区26号土坑の覆土。

4は須恵器・坏身。復元口縁部直径は13.0cm、残存高は2.8cm。体部は直線的に開き、口縁端部でやや外反する。白色及び灰色粒子を含む。焼成はやや良好。色調は灰白色。出土位置は第2面水田面上。

5は瓦片。残存長は7.8cm、器厚は1.9cm。外面には格子状叩きを施し、内面には布圧痕が残る。焼成は良好。色調は灰色。出土位置はB区32号土坑覆土。

6は磨石。長軸長7.3cm、短軸長6.0cm、厚さ

は4.3cm。片面に磨き面がある。粗粒安山岩製。出土位置はB区84号ピット覆土。

7は砥石。残存長7.0cm、最大幅5.0cm。側面は全て擦り面として使用されている。砥沢石製。出土位置はB区4号土坑覆土。

8は砥石。残存長11.8cm、最大幅4.9cm。側面は全て擦り面として使用されている。砥沢石製。出土位置はB区1号磔群内。

9は砥石。残存長10.6cm、最大幅4.2cm。側面は全て擦り面として使用されている。頁岩製。出土位置はB区1号磔群内。

10・12～15は「永楽通宝」で、直径は2.4～2.5cm。出土位置はB区1号土坑底面。

11は「元豊通宝」で、直径2.4cm。出土位置は10がB区1号土坑底面。

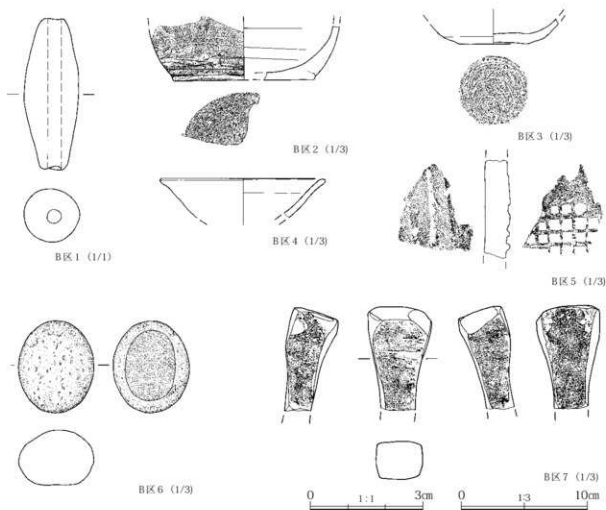
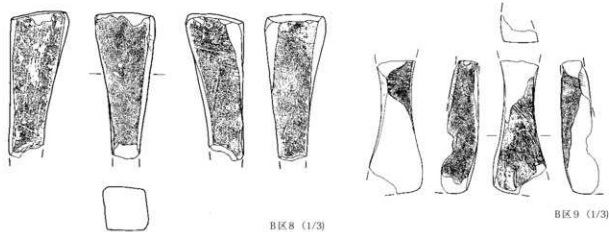


図39 B区 出土遺物 実測図(1)



B区8 (1/3)

B区9 (1/3)



B区10 (1/1)



B区11 (1/1)



B区12 (1/1)



B区13 (1/1)



B区14 (1/1)



B区15 (1/1)



図40 B区 出土遺物 実測図(2)

第3節 C区の調査

1 概要

C区では、「上強戸遺跡群 第1面・第2面」の2つの遺構面の調査を実施した。

上強戸遺跡群第1面は遺構の残存状況も良好であったが、第2面については調査区西南部2分の1程度の範囲のみしか遺構検出が認められなかった。

遺構種類としては、次の通りである。

第1面：溝・土坑・ピット・掘立柱建物・柵列

第2面：水田畦畔及び旧地表

2 C区第1面の調査

a. 溝

C区1号溝 (図43 / PL19)

平面規模 長さ14.00m～。幅1.18m。断面規模 深さ0.28m。底面 北から南へのわずかな下り勾配。出土遺物 覆土中より、土製紡錘車(C区2)、木製漆碗(C区3)が出土。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

C区2号溝 (図43 / PL19)

平面規模 長さ21.00m～。幅1.75m。断面規模 深さ0.34m。底面 北から南へのわずかな下り勾配。出土遺物 覆土中より打製石斧(C区5)が出土。他遺構との関係 なし。帰属時

期 中世以降と推定。

C区3号溝 (図44 / PL19)

平面規模 長さ24.30m～。幅0.90m。断面規模 深さ0.20m。底面 北から南へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

C区4号溝 (図44 / PL19)

平面規模 長さ3.40m～(掘乱箇所も含めると15.00m～。幅3.50m。断面規模 深さ0.68m。底面 ほぼ水平。出土遺物 覆土中より陶器・大甕(C区1)、石臼(C区4)が出土。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

備考 掘乱により、大半の箇所を喪失。

C区5号溝 (図43 / PL20)

平面規模 長さ13.40m～(掘乱箇所も含めると18.00m～。幅1.30m。断面規模 深さ0.30m。底面 北から南へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 C区5号溝(古)→C区6号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

備考 掘乱により、北半を喪失。

C区6号溝 (図43 / PL20)

平面規模 長さ13.15m～(掘乱箇所も含めると18.00m～。幅1.70m。断面規模 深さ0.40m。底面 北から南へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 C区5号溝(古)

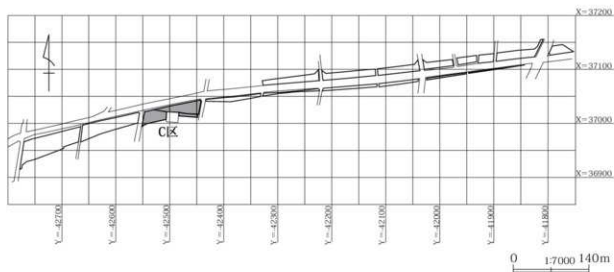


図41 C区 位置図

→C区6号溝(新)。 帰属時期 中世以降と推定。

備考 攪乱により、北半を喪失。

C区7号溝 (図44 / PL20)

平面規模 長さ5.20m。 幅0.25m。 断面規模 深さ0.07m。 底面 ほぼ水平。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 なし。 帰属時期 中世以降と推定。

C区8号溝 (図44 / PL20)

平面規模 長さ7.90m。 幅0.27m。 断

面規模 深さ0.08m。 底面 ほぼ水平。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 なし。 帰属時期 中世以降と推定。

b. 土坑

C区1号土坑 (図45 / PL20)

平面規模 長軸1.38m×短軸0.68m。 平面形状 方形。 断面規模 深さ0.48m。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 中世以降と推定。

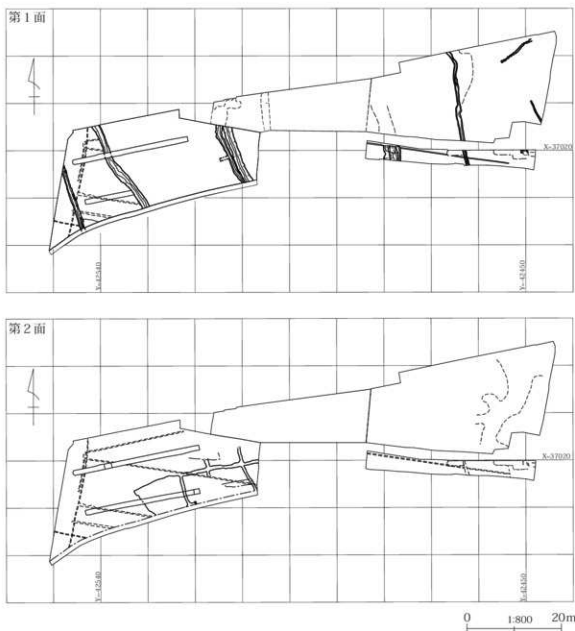
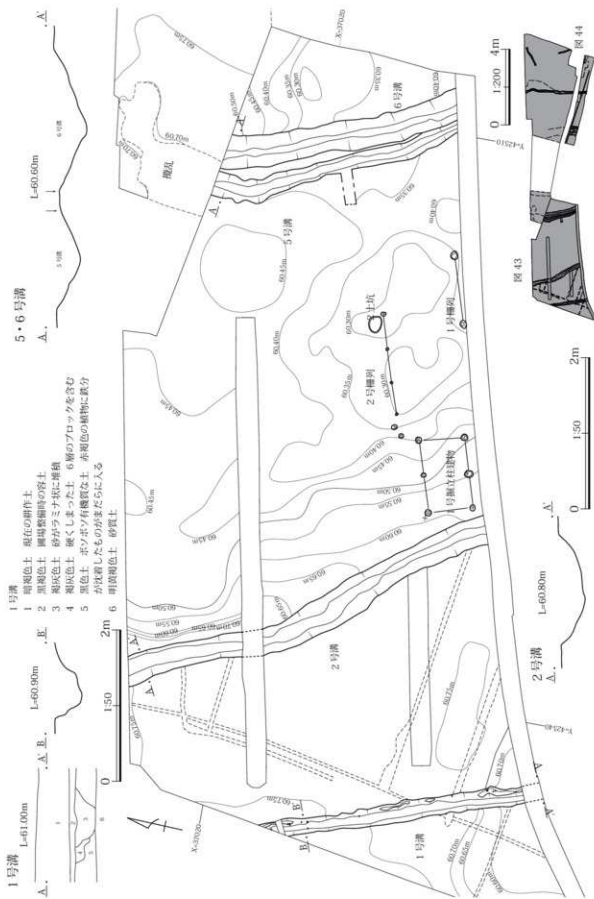
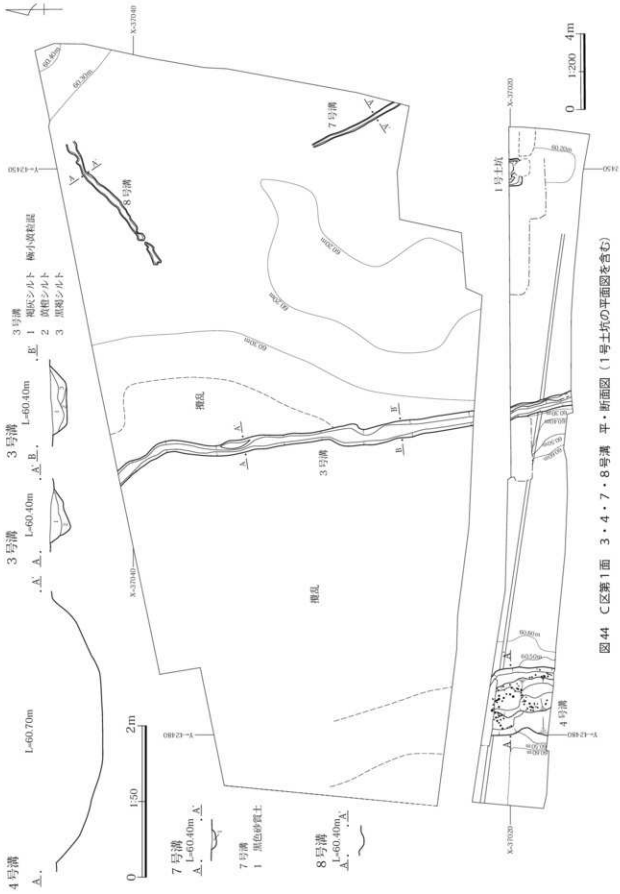


図42 C区第1・2面 全体図





第2章 検出遺構と出土遺物

C区2号土坑(図45/PL20)

平面規模 長軸0.88m×短軸0.70m。平面形状 楕円形。断面規模 深さ0.19m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

c. ビット

C区1号ビット(図45/PL20)

平面規模 長軸0.39m×短軸0.35m。平面形状 円形。断面規模 深さ0.24m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

C区2号ビット(図45/PL20)

平面規模 長軸0.45m×短軸0.35m。平面形状 楕円形。断面規模 深さ0.35m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

d. 掘立柱建物

1号掘立柱建物(図45/PL21)

平面規模 南辺3.65m×西辺2.30m:2間×1間。平面形状 ほぼ長方形:P6がわずかに張り出す。柱穴規模 P-1:直径0.36m×深さ0.26m。P-2:直径0.45m×深さ0.32m。P-3:直径0.34m×深さ0.36m。P-4:直径0.33m×深さ0.36m。P-5:直径0.26m×深さ0.27m。P-6:直径0.32m×深さ0.30m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

e. 柵列

C区1号柵列(図45/PL21)

平面規模 長さ3.70m:1間。走行方向 ほぼ東西方向。柱穴規模 P-1:直径0.44m×深さ0.20m。P-2:直径0.43m×深さ0.15m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

C区2号柵列(図45/PL21)

平面規模 長さ5.30m:3間。走行方向 ほぼ東西方向。柱穴規模 P-1:直径0.15m×深さ0.17m。P-2:直径0.13m×深さ0.08

m。P-3:直径0.15m×深さ0.10m。P-4:直径0.23m×深さ0.17m。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 中世以降と推定。

3 C区第2面の調査

a. 水田面および擬似畦畔(図46/PL21)

検出状況 遺構平面確認時に調査区の西側の一部で、水田畦畔の痕跡が帯状に認められ、その痕跡が平面的に連続することから水田畦畔の痕跡と判断。但し、畦畔については、平面での認識は可能であるものの、畦畔としての高まりは認められない。畦畔走行方向 地形の傾斜に即して走行する。等高線に併行する東西方向に走行する畦畔は地形に即して蛇行。等高線に直行する南北方向に走行する畦畔はほぼ直線に走行。畦畔平面幅 0.28~0.80m。畦畔高 不明。水口 未検出。備考 全体的に残存不良。

4. 出土遺物(図47/PL43)

1は陶器・大甕。口縁部から胴部上半までの破片。外面には茶褐色釉がかかる。胎土には砂礫を含む。焼成は良好。色調はぶい橙色。出土位置はC区4号溝覆土。

2は土製紡錘車。直径9.3cm、器厚0.9cm。円盤状を呈し、中心部に直径0.8cmの孔がある。胎土には砂礫をわずかに含む。焼成は良好。色調は橙色。出土位置はC区1号溝覆土。

3は木製品・漆碗。残存高は3.6cm、底部推定直径は9.0cm。内外面に漆塗が認められる。樹種はトチノキ。出土位置はC区1号溝覆土。

4は石臼片。残存長は21.0cm、厚さは7.0cm。粗粒安山岩製。出土位置はC区4号溝覆土。

5は打製石斧。長さ11.2cm、幅6.0cm、厚さ1.7cm。ホルンフェルス製。出土位置はC区2号溝覆土。

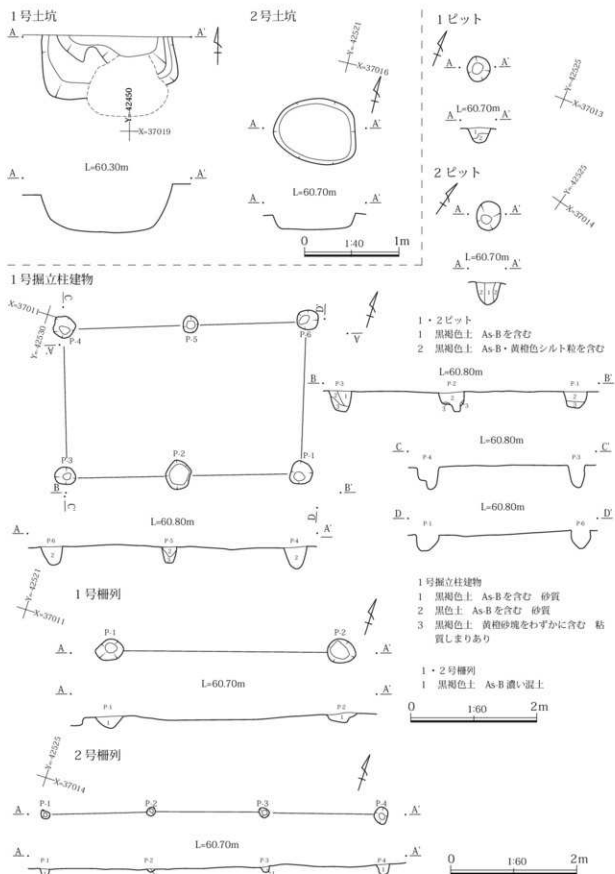
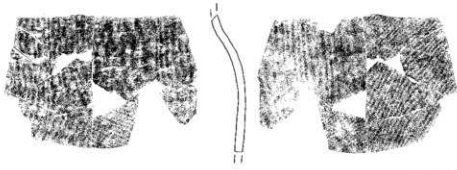
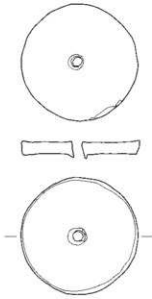


図45 1・2号土坑, 1・2号ピット, 1号掘立柱建物, 1・2号棚列 平・断面図



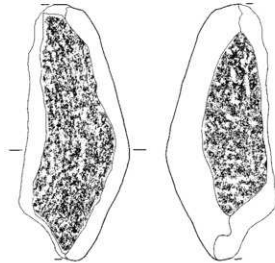
CK1 (1/6)



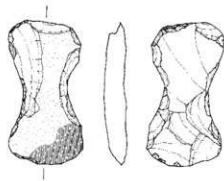
CK2 (1/3)



CK3 (1/3)



CK4 (1/3)



CK5 (1/3)

0 1.6 20cm

0 1.3 10cm

図47 C区 出土遺物 実測図

第4節 D区の調査

1 概要

D区では、「上強戸遺跡群 第2面・第3面」の2つの遺構面の調査を実施した。上強戸遺跡群第1面は表土面からの著しい攪乱によって、既に喪失しているものと考えられる。

2 D区第2面の調査

この面は、一部に著しい攪乱の痕跡が認められる

ものの、「浅間B軽石を含む黒色土（基本土層IV層）」が存在することから、その下位面を第2面と認定した。明確な遺構の検出はなく、検出面はほぼ平坦を呈している。

3 D区第3面の調査

この面は、「灰色シルト層（基本土層VI層）」が存在することから、その下位面を第3面と認定した。明確な遺構の検出はなく、検出面は東から西へわずかに傾斜していた。

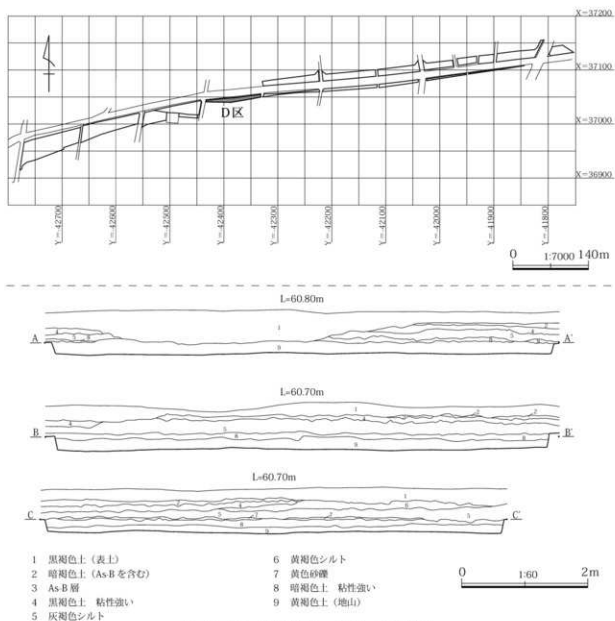


図48 D区 位置図（上）／北壁 断面図（下）

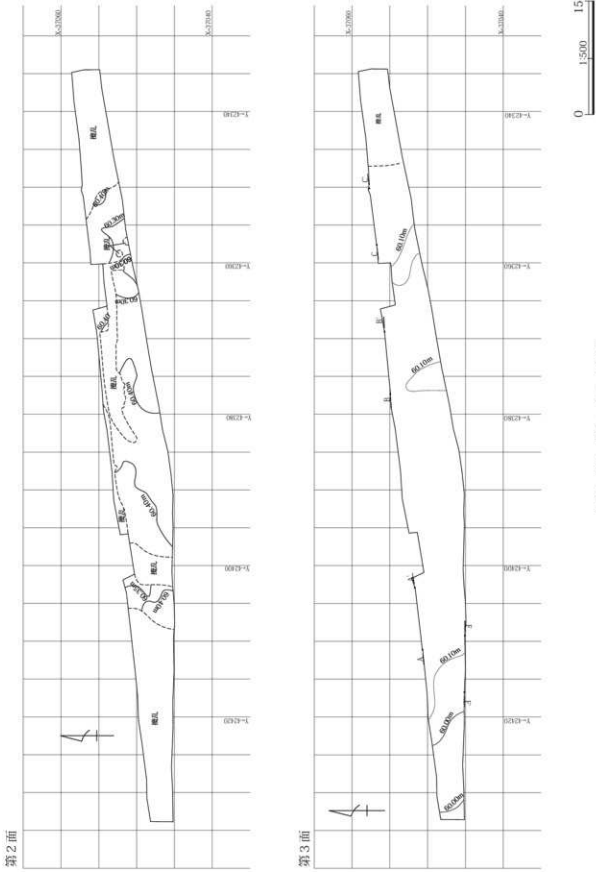


図49 D区 第2・3面 全体図

第5節 E区の調査

1 概要

E区では、「上強戸遺跡群 第2面・第3面・第4面」の3つの遺構面の調査を実施した。上強戸遺跡群第1面は表土面からの著しい攪乱によって、既に喪失しているものと考えられる。

遺構種類としては、次の通りである。

第2面：平坦面

第3面：水田面および畦畔

第4面：溝

2 E区第2面の調査

この面は、一部に攪乱の痕跡が認められるが、「浅間B軽石を含む黒色土（基本土層IV層）」が存在することから、その下位面を第2面と認定した。検出面はほぼ平坦を呈している。なお、平坦面から、古銭（E区1）が出土している。

3 E区第3面の調査

a. 水田面および畦畔（図52／PL22・23）

水田面は調査区の東側4分の1程度の範囲でのみ検出された。

畦畔規模 畦畔は幅0.30～0.85m、高さ0.05～0.15mである。最も西側にある畦畔が幅0.85

mの幅広の畦畔を呈しているものの、それ以外の畦畔は幅0.30m前後の規模のものが多く、畦畔走行方向 最も西側の幅広の畦畔はほぼ南北方向に走行。それ以外の畦畔は南西～北東方向、または南東～北西方向に走行。水口 水口は2箇所検出。いずれも、水田面の傾斜に直行する畦畔（＝等高線に併行する畦畔）中に認められる。水田面の状況 水田面は夥しい数の凸凹が存在したが、人や牛馬の明確な足跡は検出されなかった。水田面積 調査区が狭く不明。但し、畦畔の走行と水口の位置から推定すれば、1面あたり60mまたはそれ以上と推定。帰属時期 基本土層VI層に直接被覆されていることから、8世紀中葉～後葉と推定。

4 E区第4面の調査

a. 溝

E区1号溝（図52／PL23）

平面規模 長さ2.00m～、幅1.00m。断面規模 深さ0.30m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 基本土層VII層が覆土のため、8世紀以前と推定。

5 出土遺物（図52／PL43）

1は「元豊通宝」で、直径2.4cm。出土位置は第2面である。

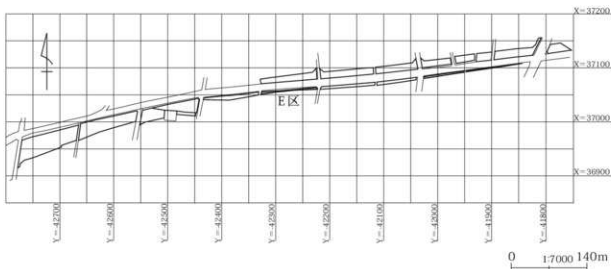


図50 E区 位置図

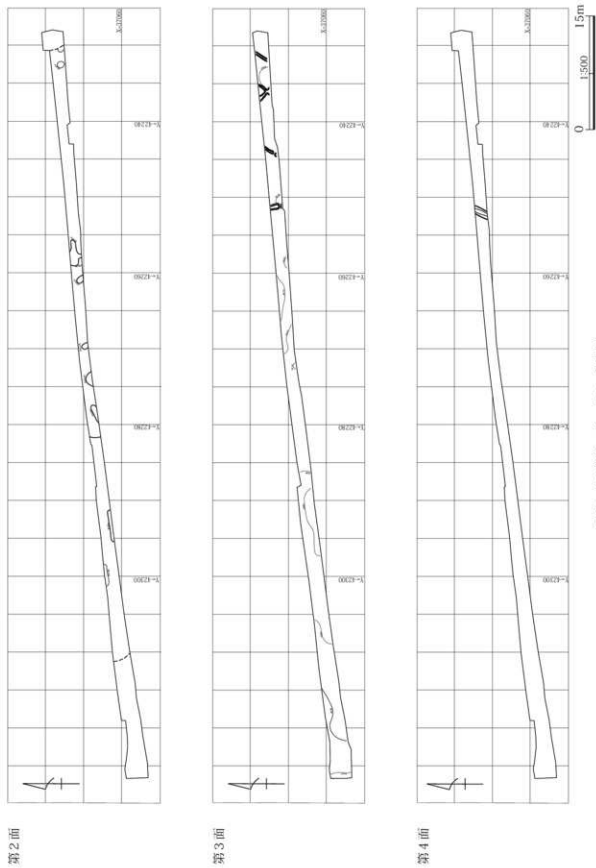


図 51 E区第2・3・4面 全体図

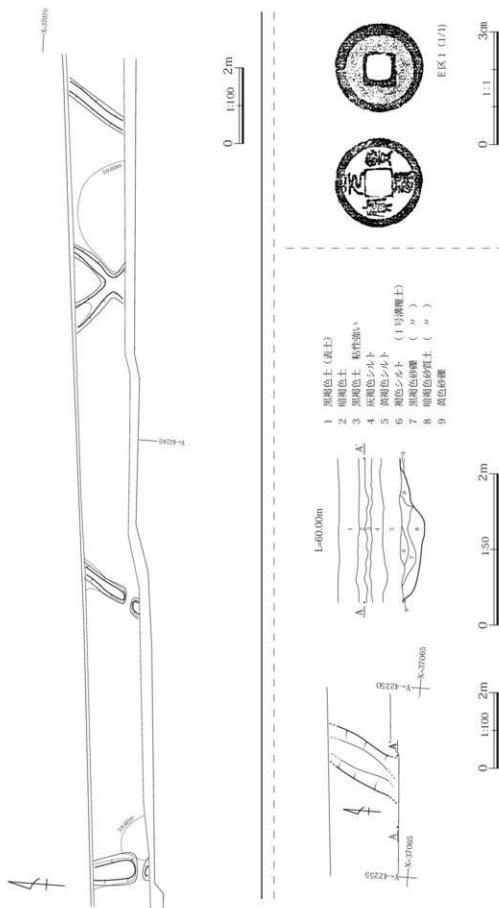


図 52 E区第3面 水田面および畦畔 平面図(上) / 第4面 1号溝 平・断面図および出土遺物 実測図

第6節 F区の調査

1 概要

F区では、「上強戸遺跡群 第2.5面・第3面・第4面」の3つの遺構面の調査を実施した。上強戸遺跡群第1面は表土面からの著しい攪乱によって、既に喪失しているものと考えられる。

遺構種類としては、次の通りである。

第2.5面：溝

第3面：溝・水田面および畦畔

第4面：溝（河道？）

2 F区第2.5面の調査

a. 遺構面の認定

この面は、一部に著しい攪乱の痕跡が認められ表土が第2面を形成する黒色土を直接被覆していたことから、本来の第2面を削平していると判断し、「第2面より下位の面であり、第3面より上位の面」という認識のもと、「第2.5面」と認定した。

b. 溝

F区1号溝（図55／PL23）

平面規模 長さ11.70m～。幅0.58m。断面規模 深さ0.10m。底面 東から西へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 中世以降と推定。

3 F区第3面の調査

a. 溝

F区2号溝（図58／PL25）

平面規模 長さ10.50m～。幅0.70m。断面規模 深さ0.13m。底面 北東から南西へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 畦畔と併行存在。帰属時期 基本土層VI層に直接被覆されていることから、8世紀中～後葉。F区3号溝（河道）（図59／PL25）

平面規模 長さ3.05m～。幅3.55m。断面規模 深さ1.08m。底面 北から南へわずかな下り勾配。出土遺物 覆土8層より須恵器高台坏（F区1）・加工材（F区3）、覆土9層より須恵器坏（F区2）が出土している。他にも自然木および伐採材等が出土。他遺構との関係 F区第3面水田面（古）→F区3号溝（新） 帰属時期 基本土層VI層に直接被覆されていることから、8世紀中葉～後葉に埋没。なお、開削時期はそれ以前と推定。F区4号溝（河道）（図59／PL25）

平面規模 長さ4.00m～。幅2.90m。断面規模 深さ0.30m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 F区第3面水田面（古）→F区4号溝（新） 帰属時期 基本土層VI層に直接被覆されていることから、8世紀中葉～後葉に埋没。なお、開削時期はそれ以前と推定。

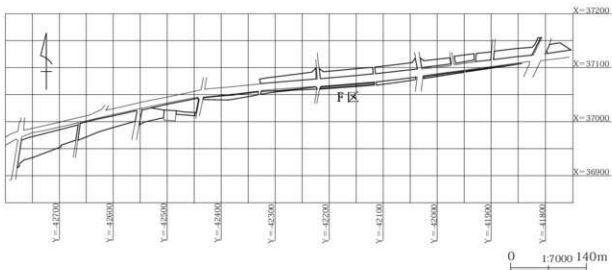


図53 F区位置図

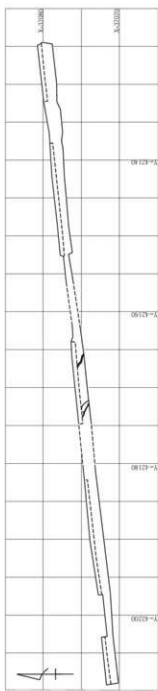
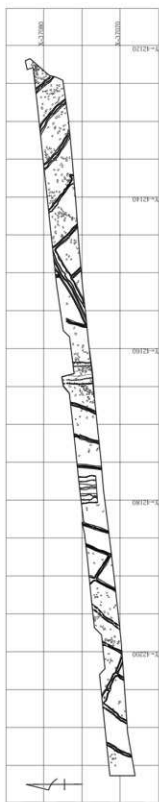
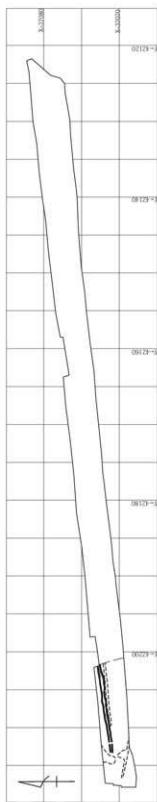


図54 F区第2.5・3・4面 全体図

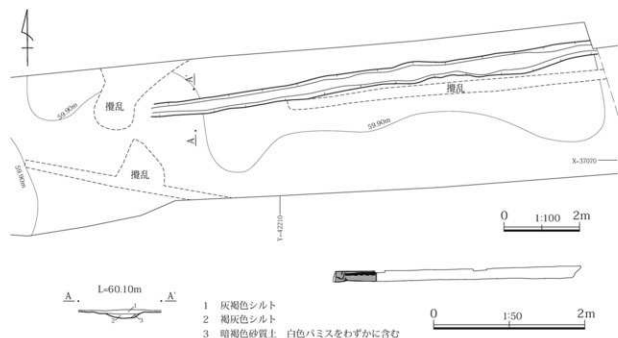


図55 F区第2.5面 1号溝 平・断面図

b. 水田面および畦畔(図57/PL24・25)

検出範囲 水田面は調査区のほぼ全域で検出された。水田面傾斜 調査区の中央付近(F区3・4号溝付近)が最も低く、その最低地点にむかい、調査区西半分は西から東へむかう下り勾配、東半分は東から西にむかう下り勾配を呈す。水田形状 調査区が狭いため、畦畔に四方が囲まれた水田単位は未検出。推定される形状は長方形を呈し、長辺10.00mまたはそれ以上、短辺4.00～5.00m程度の規模。畦畔規模 畦畔は幅0.30～1.05m、高さ0.05～0.30mである。F区2号溝と接し、併行存在する畦畔が幅1.05mの幅広の畦畔を呈しているもの、それ以外の畦畔は幅0.30～0.60m前後の規模のものが多い。畦畔走行方向 最も西側の幅広の畦畔は北東～南西方向に走行。この幅広畦畔より東側の畦畔はいずれも北西～南東方向に走行。F区3・4号溝付近の調査区内における最低地点の畦畔はほぼ南北方向に走行。F区3号溝以西の畦畔は北東～南西方向、または、それに直交するように北西～南東方向に走行。水口 水口は6箇所

で検出。水田面の状況 水田面は夥しい数の凸凹が存在し、人の足跡と思われる凹地も多数検出。なお、明確な牛馬の足跡は未検出。水田面積 調査区が狭く不明。但し、畦畔の走行と水口的位置から推定すれば、1面あたり40mまたはそれ以上と推定。帰属時期 基本土層VI層に直接被覆されていることから、8世紀中葉～後葉に埋没。なお、開墾時期はそれ以前と推定。

※F区第3面水田とF区2～4号溝との時間的關係(以下、区名は省略)

第3面水田面と2～4号溝はいずれも第3面の調査において検出された遺構である。しかし、これら共存性については、調査所見からでは第3面水田と2号溝については認められるものの、第3面水田および2号溝と3・4号溝との間には認められない。このことは3・4号溝の覆土断面をみれば明らかである。3・4号溝は第3面水田および2号溝を被覆している砂(砂質土)層を掘り込んでいることから、第3面水田および2号溝(古)→洪水層堆積→3・4号溝(新)という大局的な時差関係が認識できる。

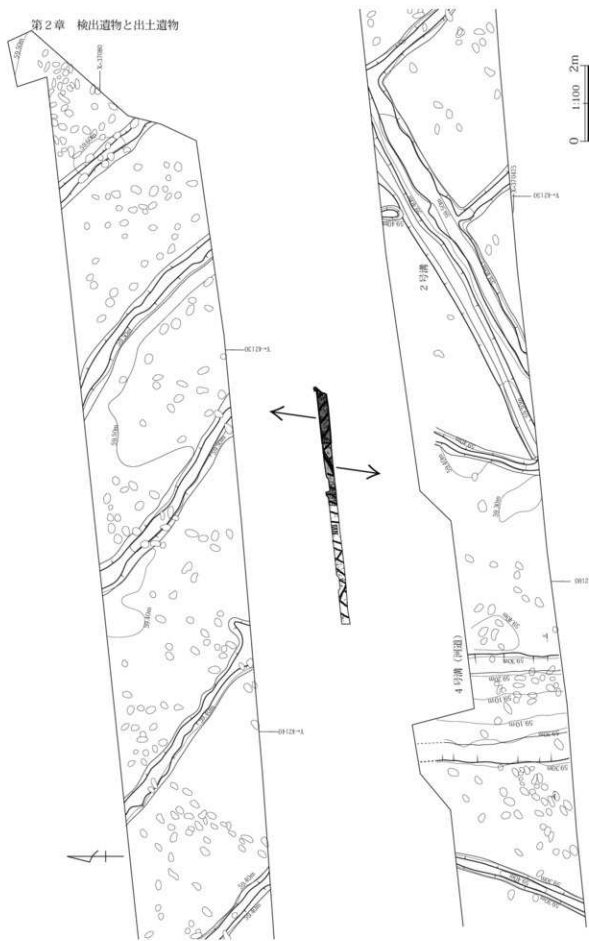


図56 F区第3面 水田面および畦畔 平面図(1)

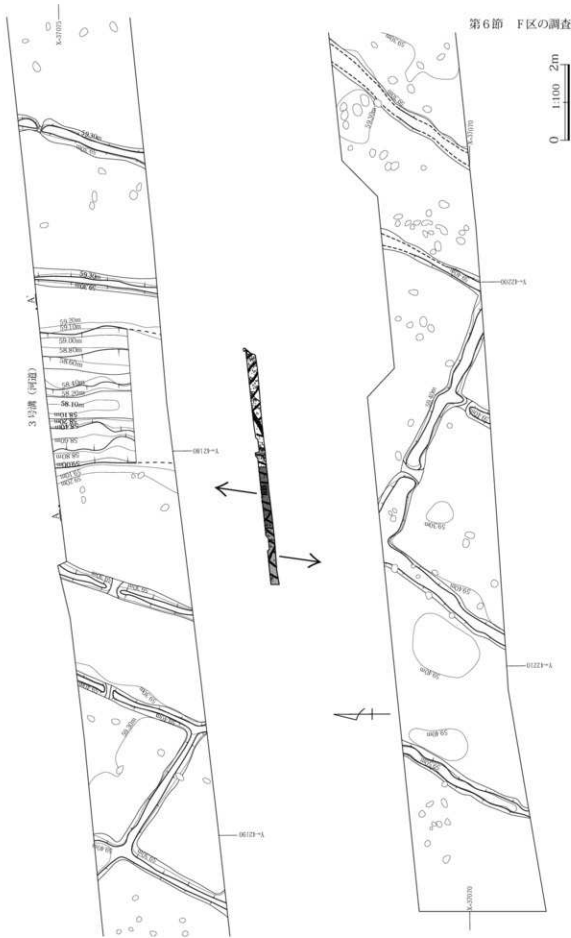


図 57 F区第3面 水田および畦畔 平面図 (2)

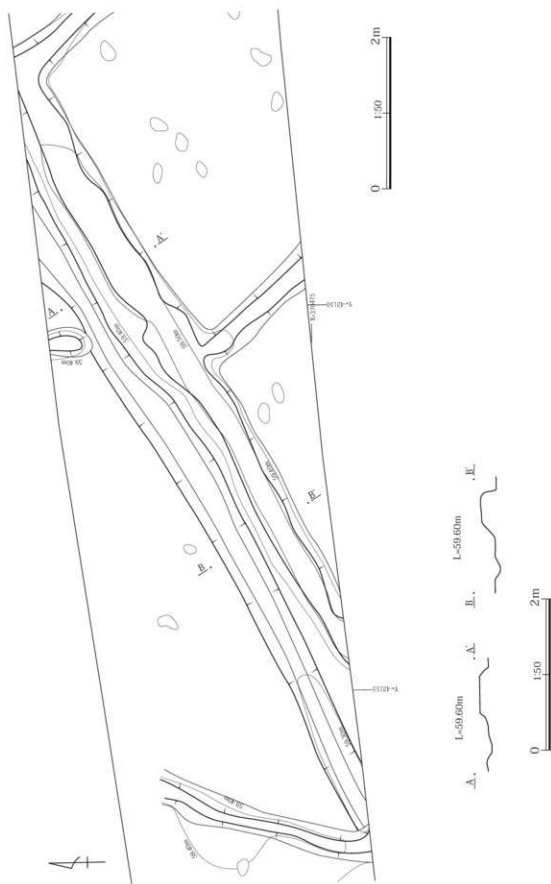
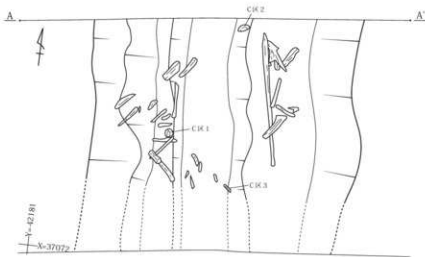
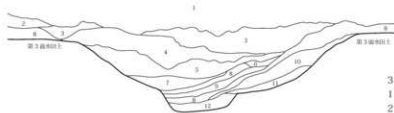


図58 F区第3面 2号溝 平・断面図

3号溝

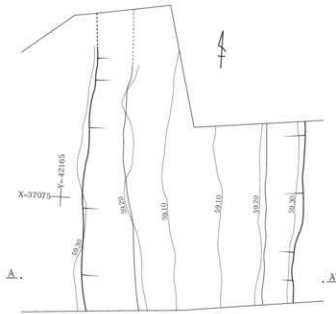


A. L=59.90m A'



- 3号溝
- 1 褐色シルト (与K区6層洪水)
 - 2 赤褐色砂 (与K区7層洪水)
 - 3 暗赤褐色砂 (")
 - 4 灰色シルト (")
 - 5 棕色砂 (")
 - 6 黒灰色砂 (与K区8層洪水)
 - 7 青灰色シルト (")
 - 8 黄棕色シルト (")
 - 9 褐色砂 (")
 - 10 褐灰色シルト (")
 - 11 黒色シルト (与K区14層洪水)
 - 12 青灰色砂 (")

4号溝



A. L=59.50m A'



- 4号溝
- 1 褐色シルト (与K区6層洪水)
 - 2 褐灰色砂質土
 - 3 黒色砂質土 木片を含む
 - 4 黄棕色砂質土
 - 5 赤褐色砂 (与K区7層洪水)
 - 6 青灰色シルト (与K区8層洪水)

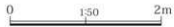


図59 F区第3面 3・4号溝 平・断面図

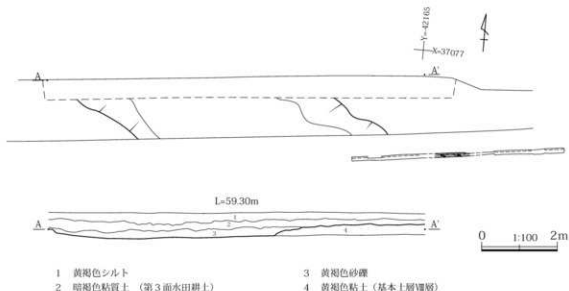


図60 F区第4面 5号溝(河道?) 平・断面図

4 F区第4面の調査

a. 溝

F区5号溝(図60)

平面規模 長さ6.00m。幅4.00m。断面規模 深さ0.60m。底面 北西から南東へのわずかな下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 基本土層Ⅶ層に直接被覆されていることから、8世紀以前と推定。備考 自然流路(=自然河道)の可能性もあり。

5 出土遺物(図61/PL44)

1は須恵器・坏。口縁部直径12.0cm、器高4.4cm。口縁~体部にかけては直線的に開き、体部と腰部の境には明瞭な屈曲をもつ。底部には短い高台が付く。底部調整には回転漉切りが認められる。胎土には砂礫を多く含む。焼成はやや良好。色調は灰色。出土位置はF区3号溝の覆土9層である。

2は須恵器・坏。口縁部推定直径16.0cm、器高4.5cm。口縁~体部にかけてはやや内湾気味に開き、体部と腰部の境には屈曲をもつ。平底で、底部調整には回転漉切りが認められる。胎土に緻密。焼成は良好。色調は灰白色。出土位置はF区3号溝の覆土8層である。

3は加工材である。器種は不明であるが、明らかな割材である。残存長は21.5cm、残存幅4.0cm、厚さ1.0cm、薄い板状でわずかに湾曲する。樹種はアスナロ。

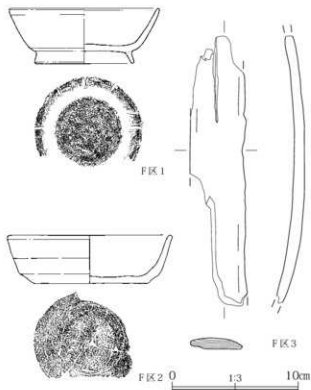


図61 F区 出土遺物 実測図

第7節 G区の調査

1 概要

G区では、「上強戸遺跡群 第2面・第3面・第4面」の3つの遺構面の調査を実施した。上強戸遺跡群第1面は表土面からの著しい攪乱によって、既に喪失しているものと考えられる。

遺構種類としては、次の通りである。

第2面：平坦面

第3面：水田面および畦畔

第4面：溝（河道？）

2 G区第2面の調査

a. 平坦面（図64／PL26）

調査区の西半分の範囲において平坦面が検出された。多くの箇所を後世の掘削によって削平されており、その攪乱坑は多く存在したが、遺構と思われる明確な掘り込み等は確認できなかった。

3 G区第3面の調査

a. 水田面および畦畔（図64／PL26）

水田面は調査区の西側6分の1程度の範囲でのみ検出された。狭い調査区のため、厳密には判断できないが、巨視的には東から西に緩やかに傾斜していると把握できる。

畦畔規模 畦畔は幅0.40～0.65m、高さ0.05～0.10mである。畦畔走行方向 北西～南東方向に走行。水口 水口は未検出。水田面の状況

水田面には凸凹がわずかに存在したが、人や牛馬の明確な足跡は検出されなかった。水田面積 調査区が狭く不明。帰属時期 基本土層Ⅶ層に直接被覆されていることから、8世紀中～後葉と推定。

4 G区第4面の調査

a. 溝

G区1号溝（図65／PL26）

平面規模 長さ23.00m～。幅1.52m。断面規模 深さ0.46m。底面 東から西への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 G区1号溝（古）→G区3号溝（新）。帰属時期 基本土層Ⅶ層に直接被覆されていることから、8世紀以前と推定。

G区2号溝（図65／PL27）

平面規模 長さ4.80m～。幅0.48m。断面規模 深さ0.11m。底面 北東から南西へのゆるい下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 基本土層Ⅶ層に直接被覆されていることから、8世紀以前と推定。

G区3号溝（図65／PL26）

平面規模 長さ5.80m～。幅1.35m～。

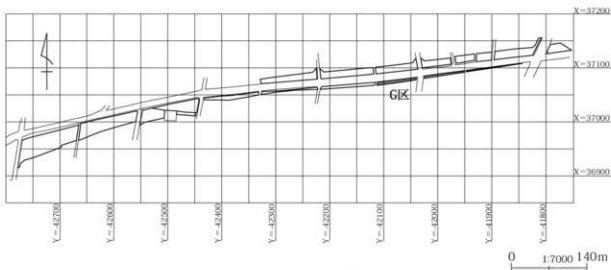


図62 G区 位置図

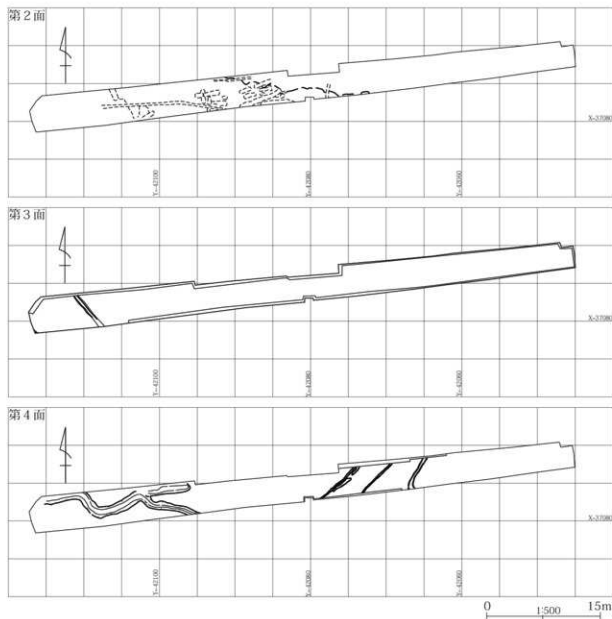


図63 G区第2・3・4面 全体図

断面規模 深さ0.20 m～。底面 東から西への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 G区1号溝(古)→G区3号溝(新)。帰属時期 基本土層Ⅶ層に直接被覆されていることから、8世紀以前と推定。

G区4号溝(図65 / PL27)

平面規模 長さ5.80 m～。幅0.22 m。断面規模 深さ0.06 m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 基本土層Ⅶ層に直接被覆されていることから、8

世紀以前と推定。

G区5号溝(図65 / PL27)

平面規模 長さ6.00 m～。幅0.17 m。断面規模 深さ0.09 m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 基本土層Ⅶ層に直接被覆されていることから、8世紀以前と推定。

G区6号溝(図65 / PL27)

平面規模 長さ4.80 m～。幅0.32 m。断面規模 深さ0.03 m。底面 ほぼ水平。出土

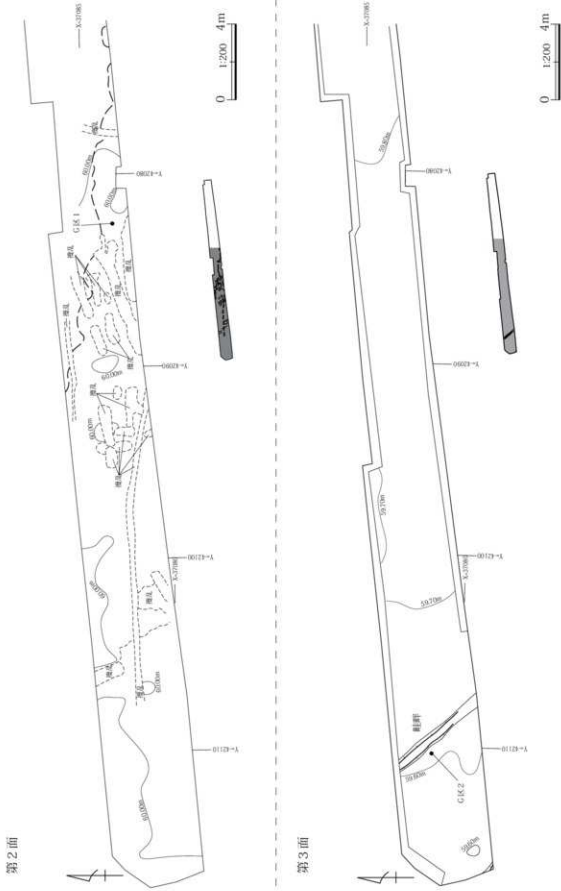


図64 G区第2面 平地面 平面図 (上) / 第3面 水田面および畦畔 平面図 (下)

遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期
基本土層Ⅶ層に直接被覆されていることから、8
世紀以前と推定。

5 出土遺物 (図66 / PL44)

1は須恵器・坏。口縁部直径12.0cm、器高4.4cm。
口縁～体部にかけては直線的に開く。底部は平底で
あり、底部調整には回転系切りが認められる。胎土

には砂礫を多く含む。焼成はやや良好。色調は灰色。
出土位置はG区第2面平坦面表面である。

2は須恵器・坏。口縁部推定直径16.0cm、器高
4.5cm。口縁～体部にかけては直線的に開き、体部
と腰部の境には屈曲をもつ。平底で、底部調整には
回転産切りが認められる。砂礫を多く含む。焼成は
やや良好。色調は灰色。出土位置はG区第3面水田
面表面である。

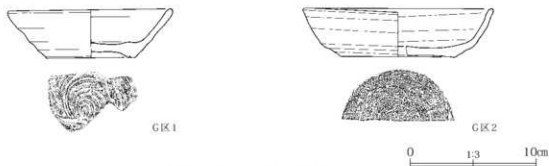


図66 G区 出土遺物 実測図

第8節 H区・I区の調査

1 H区の概要

H区については、調査範囲幅が2.0m以下と狭く、
その範囲においては、表土面からの著しい攪乱によ
り、既に大半の部分の遺構が喪失しているものと考え
られた。

2 I区の概要

I区については、調査範囲幅が1.5m以下と狭く、
その範囲において調査を実施した。だが、地下湧水
の激しい噴出に対して、調査幅が狭く、さらには現
有県道に隣接する位置的条件から十分な湧水対策を
施すことができなかった。したがって、安全性を確
保できる範囲内で遺構確認を実施したが遺構は検出
されなかった。

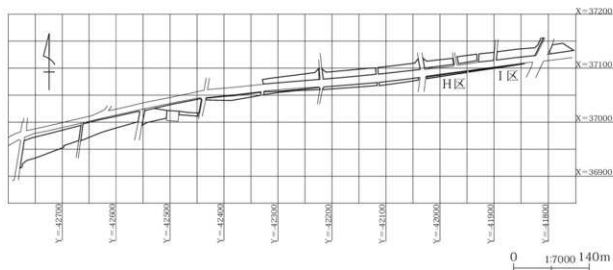


図67 H区・I区 位置図

第9節 J区の調査

1 概要

J区では、「上強戸遺跡群 第2面・第3面・第4面」の3つの遺構面の調査を実施した。上強戸遺跡群第1面は表土面からの著しい擾乱によって、既に喪失しているものと考えられる。

遺構種類としては、次の通りである。

第2面：溝・水田畦畔

第3面：水田面および畦畔

第4面：溝・水田畦畔(痕跡)

2 J区第2面の調査

a. 溝

J区1号溝(図71/PL28)

平面規模 長さ6.30m。幅0.82m。断面規模 深さ0.20m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。帰属時期 覆土にAs-Bを多く含むことから、12世紀初頭以前と推定。

b. 水田畦畔(図71/PL28)

平面規模 長さ8.00m。幅0.30～0.40m。断面規模 畦畔高0.08～0.14m 走行方向 北東～南北方向に直線的に走行。帰属時期 覆土にAs-Bを多く含むことから、12世紀初頭以前と推

定。備考 2本の畦畔が併行して存在。

3 J区第3面の調査

a. 水田面および畦畔(図71/PL28)

検出範囲 調査区の東半分で検出。水田面傾斜 西から東への下り勾配を呈す。水田形状 長方形を呈し、長辺18.00m程度、短辺4.00～5.00m程度の規模が把握可能。なお、畦畔の一部は崩壊。

畦畔規模 幅0.25～1.10m、高さ0.05～0.20m。畦畔走行方向 概ね北東～南西方向、または、それに直交するように北西～南東方向に走行。水口 水口は2箇所検出。水田面の状況 水田面には凸凹が存在。水田面積 1面あたり60～90㎡程度と推定。帰属時期 基本土層VI層に直接被覆されていることから、8世紀中～後葉と推定。

4 J区第4面の調査

a. 溝

J区2号溝(図72/PL29)

平面規模 長さ9.00m。幅0.98m。断面規模 深さ0.12m。底面 北から南への下り勾配。出土遺物 覆土中より土師器蓋(G区1)が出土。他遺構との関係 なし。帰属時期 基本土層VI層に直接被覆されていることから、8世紀中～後葉と推定。

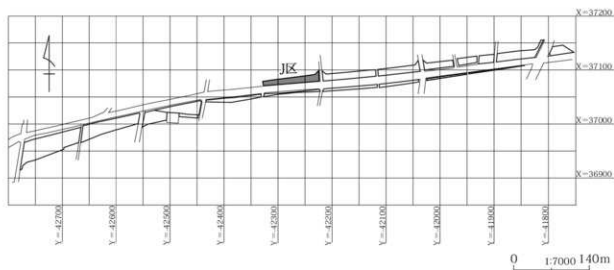


図68 J区位置図

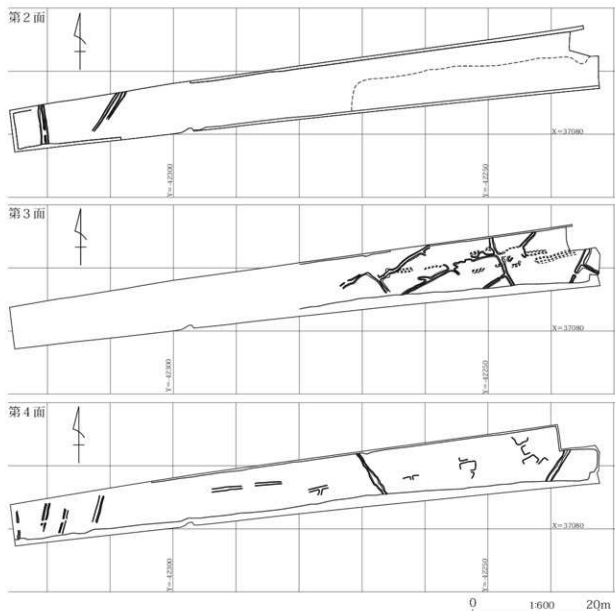


図69 J区 第1・2・3面 全体図

J区3号溝 (図72)

平面規模 長さ6.00 m。 幅0.90 m。 断面規模 深さ0.33 m。 底面 ほぼ水平。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 なし。 帰属時期 基本土層VI層に直接被覆されていることから、8世紀中～後葉と推定。

b. 水田畦畔 (図72 / PL29)

検出状況 遺構平面確認時に水田畦畔の痕跡が带状に認められ、その痕跡が平面的に連続することから水田畦畔の痕跡と判断。 畦畔走行方向 ほぼ直線に走行し、南北・東西方向にそれぞれ走行する。

畦畔平面幅 0.20～0.53 m。 畦畔高 不明。

5 出土遺物 (図70 / PL44)

1は土師器・蓋。底径13.0cm、器高5.0cm。調整は内外面ともナデ。胎土には砂礫を含む。焼成はやや良好。色調はにぶい黄褐色。出土位置はJ区2号溝覆土である。

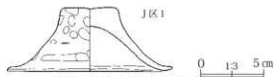


図70 J区 出土遺物 実測図

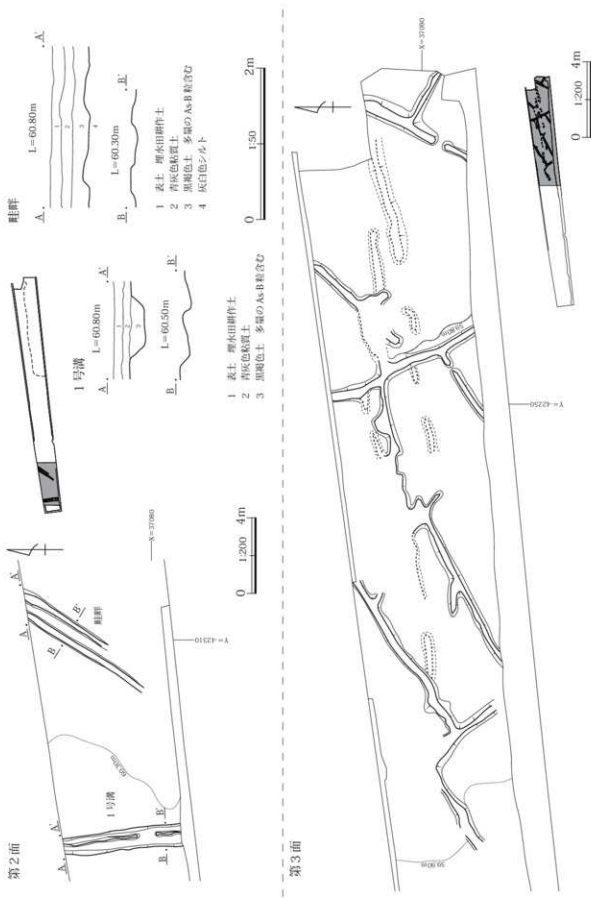


図71 J区第2面 1号溝、1号畦畔 平・断面図(上)/第3面 水田面および畦畔 平面図(下)

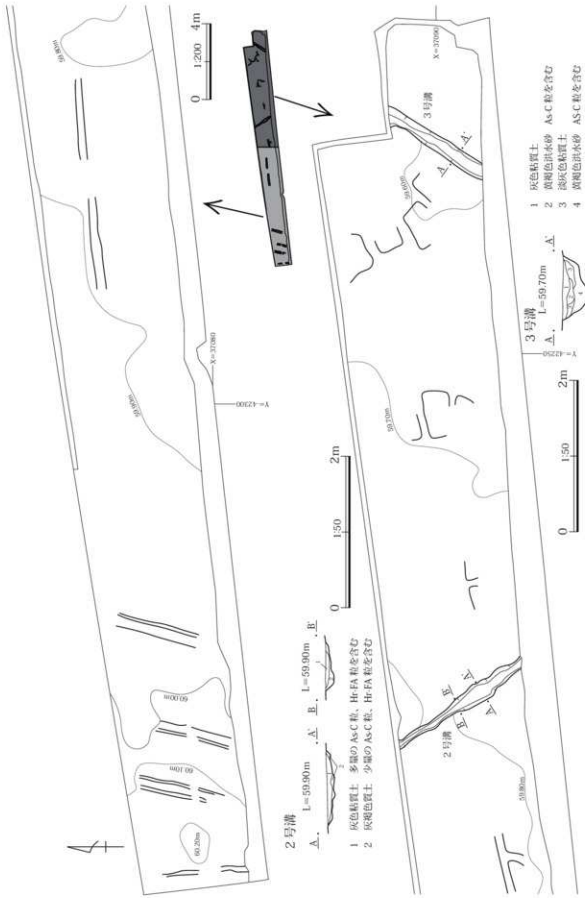


図 72 J区第4面 水田畦畔, 2・3号溝 平・断面図

第10節 K区の調査

1 概要

K区では、「上強戸遺跡群 第2面・第3面・第4面」の3つの遺構面の調査を実施した。上強戸遺跡群第1面は捜乱により喪失したと考えられる。

遺構種類としては、次の通りである。

第2面：溝・土坑・畠（サク跡）

第3面：溝・水田面および河道畦畔

第4面：水田畦畔（痕跡）

2 K区第2面の調査

a. 溝

K区1号溝（図75／PL30）

平面規模 長さ8.10m。 幅0.58m。 断面規模 深さ0.18m。 底面 ほぼ水平。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 なし。 帰属時期

覆土にAs-Bを多く含むことから、12世紀初頭以前と推定。

K区2号溝（図75／PL30）

平面規模 長さ7.00m。 幅0.80m。 断面規模 深さ0.20m。 底面 ほぼ水平。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 なし。 帰属時期

覆土にAs-Bを多く含むことから、12世紀初頭以前と推定。

b. 土坑

K区1号土坑（図75／PL30）

平面規模 長軸1.21m×短軸1.00m。 平面形状 不整形。 断面規模 深さ0.16m。

出土遺物 なし。 他遺構との関係 切り合いは、なし。 帰属時期 覆土にAs-Bを多く含むことから、12世紀初頭以前と推定。

c. 畠（サク跡）（図75／PL30）

平面形状 サク跡が5条並列。 平面規模 3.50m。 サク間隔 0.80～0.93m。 平面幅 サク跡は0.16～0.22m。 断面規模 深さ0.02～0.05m。 他遺構との関係 切り合いは、なし。

帰属時期 覆土にAs-Bを多く含むことから、12世紀初頭以前と推定。

3 K区第3面の調査

a. 溝

K区3号溝（図76／PL32）

平面規模 長さ8.00m。 幅1.50m（断面での溝上端幅は3.60m）。 断面規模 深さ0.20～0.50m。 底面 北から南へのわずかな下り勾配。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 なし。

帰属時期 6世紀以降に発生したと考えられる洪水層後に掘削され、覆土にAs-Bが含まれる事から、6世紀以降12世紀以前と推定。

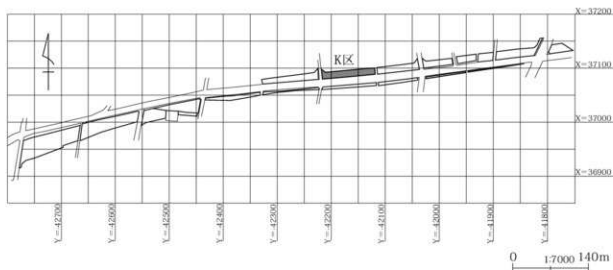


図73 K区 位置図

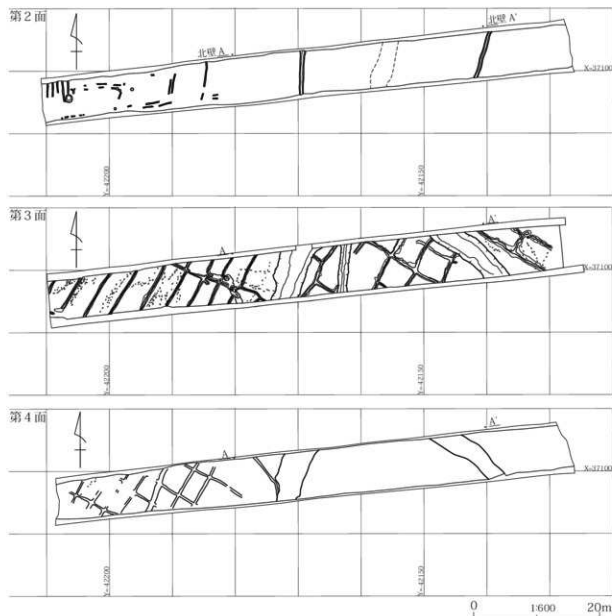


図74 K区 第2・3・4面 全体図

b. 水田面および畦畔 (図76 / PL31・32)

検出範囲 調査区のほぼ全域で検出。水田面傾斜 調査区の中央付近が最も低く、その最低地点に向かい、調査区西半分は西から東にむかう下り勾配、東半分は東から西にむかう下り勾配を呈す。水田形状 確認できる形状は長方形を呈し、長辺10.00mまたはそれ以上、短辺4.00～5.00m程度の規模。

畦畔規模 畦畔は幅0.30～1.05m、高さ0.05～0.30mである。畦畔走行方向 最も西側の幅広い畦畔は北東～南西方向に走行。この幅広い畦畔よ

り東側の畦はいずれも北西～南東方向に走行。最低地点の畦畔はほぼ南北方向に走行。それ以西の畦畔は北東～南西方向、または、それに直交するように北西～南東方向に走行。水口 水口は7箇所で検出。水田面の状況 水田面は夥しい数の凸凹が存在し、人の足跡と思われる凹地も多数検出。水田面積 四方を畦畔で囲まれた区画は未検出だが、1面あたり40～90㎡またはそれ以上と推定。帰属時期 基本土層VI層に直接被覆されていることから、8世紀中～後葉と推定。

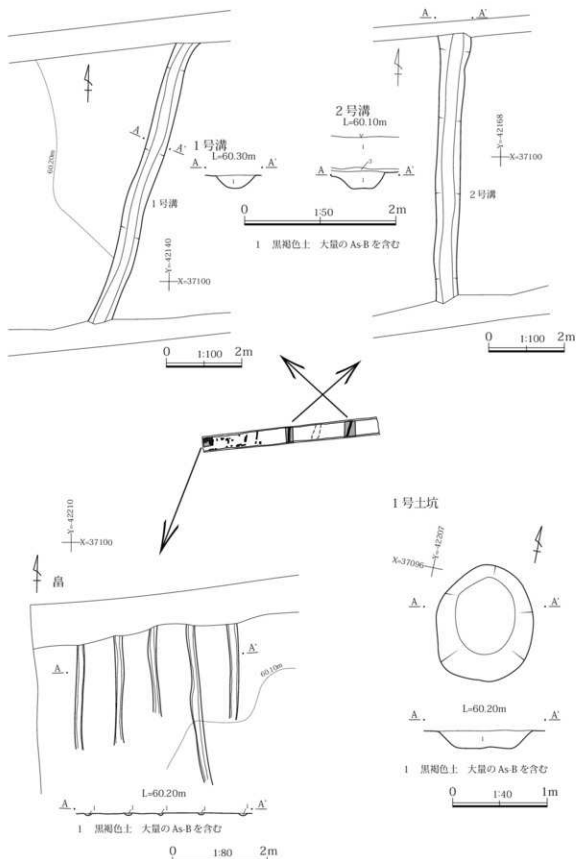


図75 K区第2面 1・2号溝, 畝, 1号土坑 平・断面図

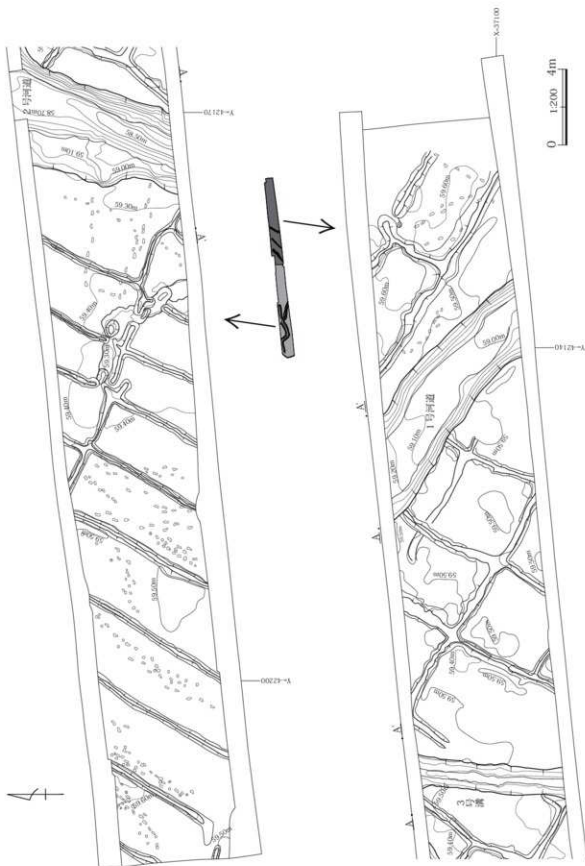


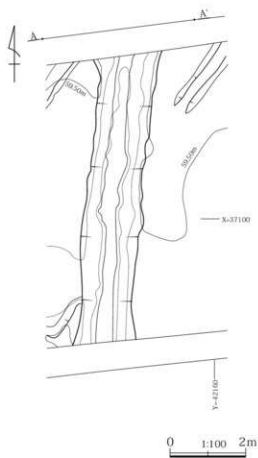
図76 K区第3面 水田および畦畔 平面図 (3号溝, 1・2号河川の平面図を含む)

第2章 検出遺物と出土遺物

c. 河道

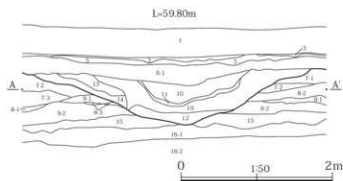
K区1号河道 (図76・78 / PL32)

平面規模 長さ12.50 m。幅4.00 m。断面規模 深さ1.20 m。底面 北西から南東への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 K区第3面の水田畦畔(古)→K区1号河道(新)。K区2号河道と連結と推定。帰属時期 6世紀以降に発生したと考えられる洪水層後に掘削され、覆土にAs-B下黒色土形成時には完全埋没しているの、8世紀以降12世紀以前と推定。



K区2号河道 (図76・79 / PL32)

平面規模 長さ10.50 m。幅5.00 m。断面規模 深さ0.85 m。底面 北東から南西への下り勾配。出土遺物 覆土中より土師器環(K区1)が出土。他遺構との関係 K区第3面の水田畦畔(古)→K区2号河道(新)。K区1号河道と連結と推定。帰属時期 6世紀以降に発生したと考えられる洪水層後に掘削され、覆土にAs-B下黒色土形成時には完全埋没しているの、6世紀以降12世紀以前と推定。



- 1 現水田耕作土
- 2 茶褐色粘質土 少量のAs-B粒を含む
- 3 黒褐色粘質土 少量のAs-B粒を含む
- 4 As-B一次堆積 下位に灰色火山灰の付く粗粒スコリア
- 5 黒色粘質土 As-B水田耕作土
- 6-1 灰オリーブ色シルト 多量の白色バミス含む
- 6-2 赤褐色洪水砂
- 7-1 明黄褐色・灰色シルト
- 7-2 明黄褐色・赤褐色洪水砂 1~10mmの礫含む
- 7-3 明黄褐色・赤褐色洪水砂 1~3mmの礫含む
- 7-4 黒灰色洪水砂
- 8-1 青灰色シルト
- 8-2 赤褐色洪水砂
- 8-3 灰色シルト
- 9-1 灰褐色粘質土と洪水砂の混土 復旧水田耕作土
- 9-2 灰褐色粘質土 多量のHr-FA粒、As-C粒含む水田耕作土
- 10 青灰色シルト (K区3号溝覆土)
- 11 淡黄褐色シルト (#)
- 12 灰色シルト (#)
- 13 黄褐色洪水砂 (#)
- 14 暗灰色シルト (#)
- 15 暗灰色シルト 少量のAs-C粒含む
- 16-1 淡小豆色粘土
- 16-2 黒色粘土

図77 K区第3面 3号溝 平・断面図

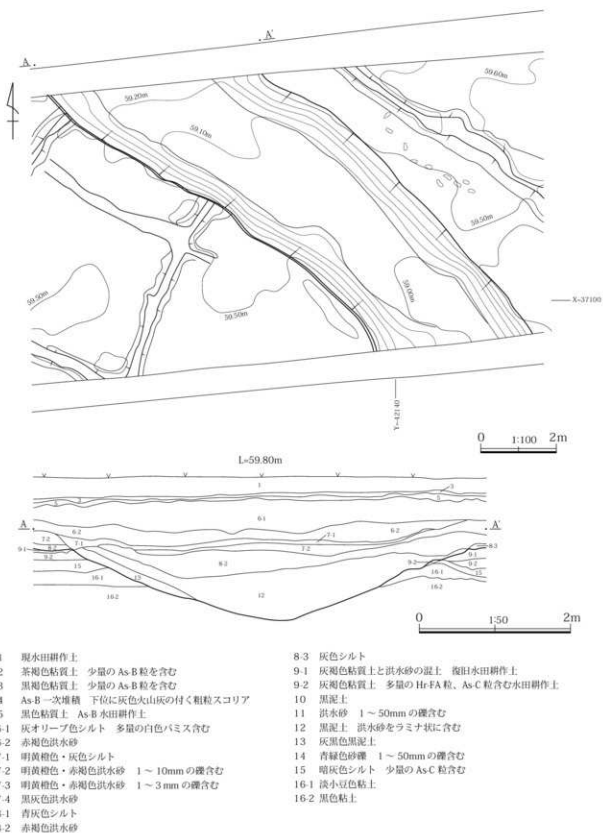


図78 K区第3面 1号河道 平・断面図

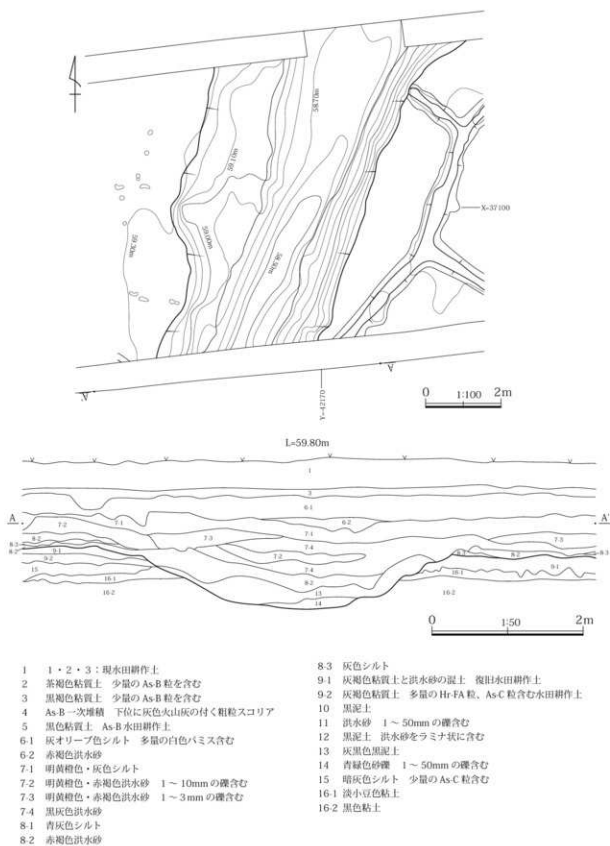


図79 K区第3面 2号河道 平・断面図

4 K区第4面の調査

a. 水田畦畔 (図80 / PL32)

検出状況 調査区の西半分の範囲で検出。遺構平面確認時に水田畦畔の痕跡が带状に認められ、その痕跡が平面的に連続することから水田畦畔の痕跡と

判断。平面形状 長辺5.00m×短辺3.00mほどの小区画水田面を形成。畦畔走行方向 ほぼ直線に走行し、南西～北東方向、または北西～南東にそれぞれ走行。畦畔平面幅 0.25～0.80m。畦畔高 不明。水口 未確認。

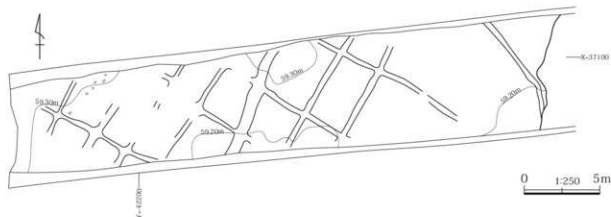


図80 K区第4面 水田畦畔 平面図

5 出土遺物 (図81 / PL44)

1は土師器・坏。復元口径12.0cm。復元器高4.0cm。調整は口縁部内外面はナデ、体部外面はケズリ。焼成はやや良好。胎土には砂礫を含む。色調は灰黄褐色。出土位置はK区2号河道覆土中である。

2は軟質陶器・内耳焙烙。器高は5.2cm、推定口

径は33.0cm、推定底径は29.0cm。外面には焼しがあり。胎土には暗褐色鉛物を含む。焼成は軟。色調は灰黄褐色土。出土位置は第2面表面(掘乱中?)。

3は陶器・ひょうそく。残存高2.3cm、底径4.4cm。色調はにぶい黄橙色。出土位置は第2面表面(掘乱中?)。

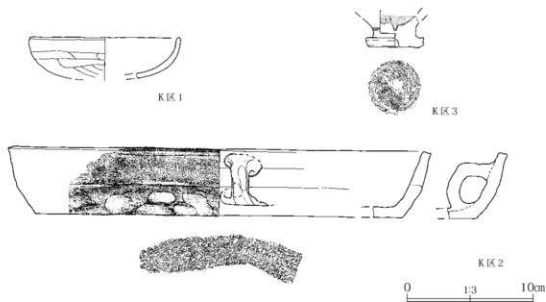
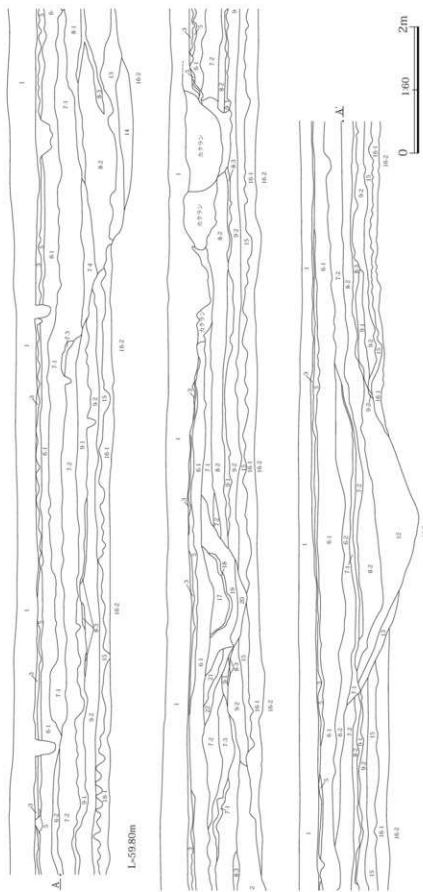


図81 K区 出土遺物 実測図



- | | | | | | |
|-----|----------------------------|-----|---------------|------|-------------------|
| 1 | 1・2・3：畑水田耕作土 | 8.1 | 青灰色シルト | 16.1 | 油小豆色粘土 |
| 2 | 茶褐色粘質土 | 8.2 | 赤褐色粘水砂 | 16.2 | 黒色粘土 |
| 3 | 黒褐色粘質土 | 8.3 | 灰色シルト | 17 | 青灰色シルト |
| 4 | As-B-2冲積 下に灰色Aa/Bの付く粗粒スコリア | 9.1 | 灰褐色粘質土と部水砂の混土 | 18 | 淡黄褐色シルト (K区3号溝覆土) |
| 5 | 黒色粘質土 As B 水田耕作土 | 9.2 | 灰褐色粘質土 | 19 | 灰褐色シルト (n) |
| 6.1 | 灰オリーブ色シルト | 10 | 黒泥土 | 20 | 黄褐色粘水砂 (n) |
| 6.2 | 赤褐色粘水砂 | 11 | 洪水砂 | 21 | 暗灰色シルト (n) |
| 7.1 | 明黄褐色・灰色シルト | 12 | 黒泥土 | 22 | 暗灰色シルト (n) |
| 7.2 | 明黄褐色・赤褐色粘水砂 | 13 | 灰黒色黒泥土 | | |
| 7.3 | 明黄褐色・赤褐色粘水砂 | 14 | 青緑色砂礫 | | |
| 7.4 | 黒灰色粘水砂 | 15 | 暗灰色シルト | | |
10. 黒泥土 1～50mmの礫を含む
 11. 洪水砂 1～50mmの礫を含む
 12. 黒泥土 洪水砂をミナリ粒に含む
 13. 灰黒色黒泥土
 14. 青緑色砂礫 1～50mmの礫を含む
 15. 暗灰色シルト 少量のAs-C粒を含む
9. 多量のHr-FA粒、As-C粒含む水田耕作土
16. セクションポイントの高層は図74 平面図に参照。

図82 K区 北壁 断面図

第11節 L区の調査

1 概要

L区では、「上強戸遺跡群 第2面・第3面」の2つの遺構面の調査を実施した。なお、上強戸遺跡群第1・4面については、明確な遺構面が検出されなかった。

遺構種類としては、次の通りである。

第2面：溝・水田畦畔

第3面：溝・河道・水田畦畔（痕跡）

2 L区第2面の調査

a. 溝

L区1号溝（図86／PL33）

平面規模 長さ9.50m～。幅1.08m。断面規模 深さ0.20m。底面 北から南への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 覆土にAs-Bを多く含むことから、12世紀初頭以前と推定。

L区2号溝（図86／PL33）

平面規模 長さ9.00m～。幅0.50m。断面規模 深さ0.18m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。

帰属時期 覆土にAs-Bを多く含むことから、12世紀初頭以前と推定。

b. 水田畦畔（図85／PL33）

検出状況 水田畦畔は調査区の北東端でのみ、わずかに検出。水田面傾斜 検出範囲が狭いため厳密には判断できないが、巨視的には北東から南西に向い緩やかに傾斜していると推定。畦畔規模 畦畔は幅0.40～0.60m、高さ0.05～0.15m。畦畔走行方向 北～南方向、または、東～西方向に走行。水口 水口は未検出。帰属時期 覆土にAs-Bを多く含むことから、12世紀初頭以前と推定。

3 L区第3面の調査

a. 溝

L区3号溝（図89／PL34・35）

平面規模 長さ12.00m～。幅0.45m。断面規模 深さ0.10m。底面 ほぼ水平。出土遺物 覆土中より土師器・甕（L区1）が出土。他遺構との関係 L区3号溝（古）→L区4号溝（新）。帰属時期 基本土層VI層に直接被覆されていることから、埋没は8世紀中～後葉と推定。

L区4号溝（図89／PL34・35）

平面規模 長さ18.20m～。幅0.40m。断面規模 深さ0.07m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 L区3号溝（古）→L区4号溝（新）。L区4号溝（古）→L区6号溝（新）。

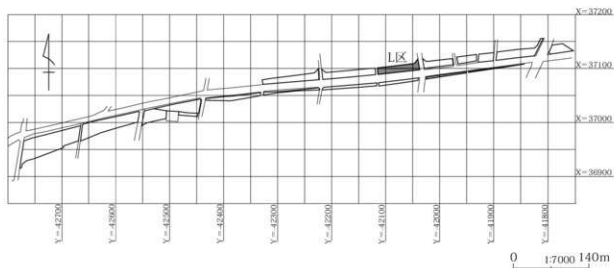


図83 L区 位置図

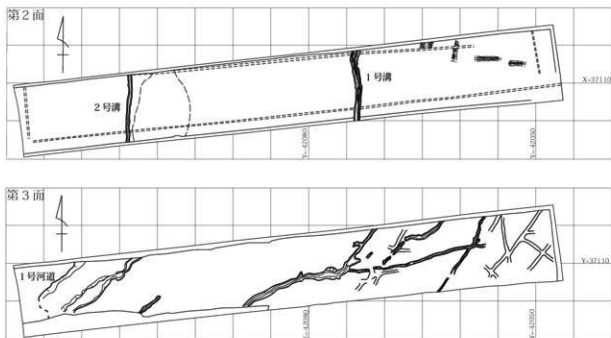


図84 L区 第2面・3面 全体図

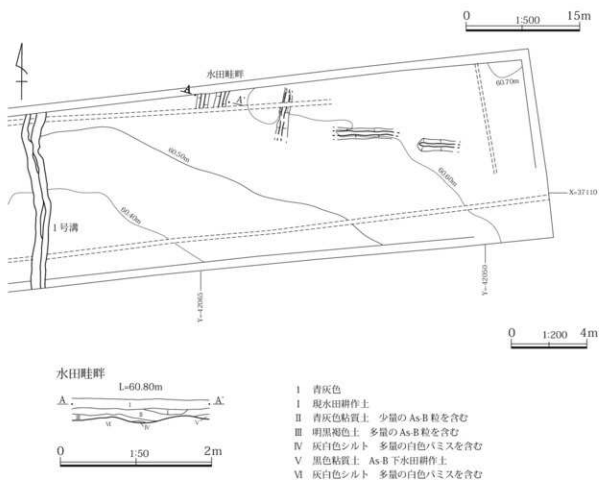


図85 L区第2面 水田畦畔 平・断面図

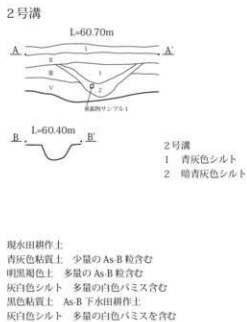
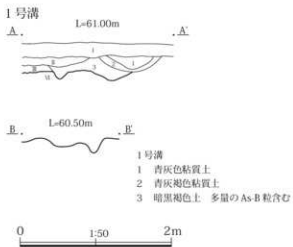
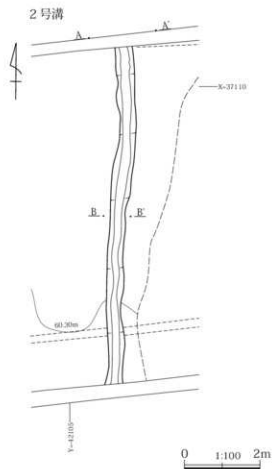
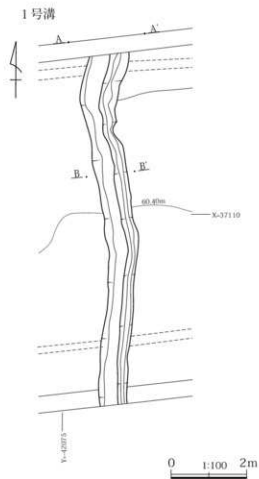


図 86 L 区第 2 面 1・2号溝 平・断面図

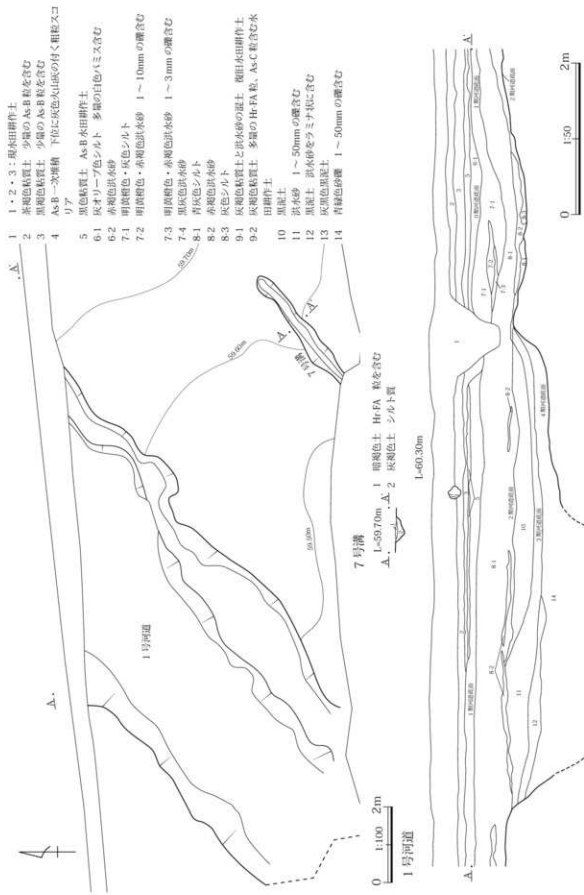


図87 L区第3面 7号溝、1号河道 平・断面図

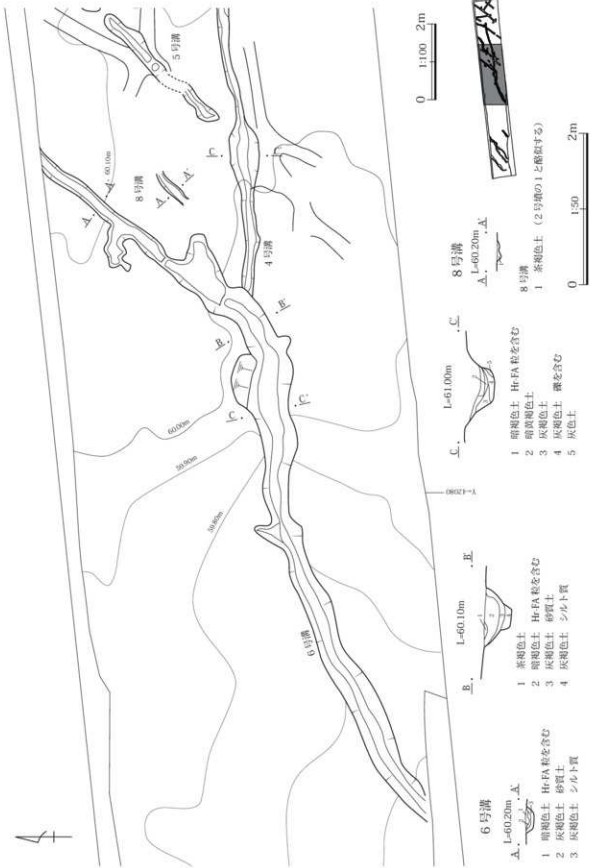


図 88 L区第3面 4～6・8号坑 平・断面図

L区5号溝 (図88・89 / PL34・35)

平面規模 長さ7.50m～。幅0.62m。断面深さ0.15m。底面 北東から南西への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 覆土にHr-FAを含んでいることから、6世紀以降と推定。

L区6号溝 (図88 / PL35)

平面規模 長さ22.00m～。幅1.05m。断面深さ0.36m。底面 北東から南西への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 L区4号溝(古)→L区6号溝(新)。帰属時期 覆土にHr-FAを含んでいることから、6世紀以降と推定。

L区7号溝 (図87 / PL35)

平面規模 長さ3.50m～。幅0.60m。断面深さ0.13m。底面 北東から南西への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 覆土にHr-FAを含んでいることから、6世紀以降と推定。

L区8号溝 (図88)

平面規模 長さ1.10m～。幅0.30m。断面深さ0.06m。底面 南西から北東への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 覆土にHr-FAを含んでいることから、6世紀以降と推定。

b. 水田畦畔 (図89 / PL35)

検出状況 調査区の西半分範囲で検出。遺構平面確認時に水田畦畔の痕跡が帯状に認められ、その痕跡が平面的に連続することから水田畦畔の痕跡と判断。平面形状 長辺5.00m×短辺3.00mほどの小区画水田面を形成。畦畔走行方向 ほぼ直線に走行し、南西～北東方向、または北西～南東にそれぞれ走行。また、それらに斜行する畦畔痕跡もあり。畦畔平面幅 0.20～0.50m。畦畔高 不明。水口 未確認。

c. 河道

L区1号河道 (図87 / PL36)

平面規模 長さ12.80m～。幅5.50m。断面規模 深さ1.50m～。底面 南西から北東へ

のり勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 本遺構は複数時期の洪水層が確認されており、このことから、長期間にわたる河道の機能時期が考えられる。

河道の時期はI～V期が想定される。なお、詳細な検討は後述「第4章 まとめ」を参照。

I～II期河道は、8世紀中葉以前、4～5世紀代の可能性がある。

III期河道は、8世紀中葉の可能性はある。

IV期河道は、8世紀中葉以降で9世紀後半以前であることから、8世紀後半から9世紀前半となり、9世紀前半であるとすれば弘仁9(818)年の可能性もある。

V期河道は、9世紀後半の可能性はある。

一連の河道は、As-B 或いは B 混土下の黒色土の段階には平坦化し、水田耕作土となっていることから、少なくとも As-B の段階には既に河道の機能は失っている。また、L区では河道の中心は西から東へ移動しており、最も東側のV期河道の底面が埋没の最後の窺みである。

4 出土遺物 (図90 / PL44)

1は土師器甕。底部片のみの残存である。残存高は6.7cm、底径は9.2cm。器面の荒れが激しく、調整は不明瞭。胎土には砂礫を多く含む。焼成はやや軟。色調は黄橙色。出土位置はL区3号溝覆土中からである。

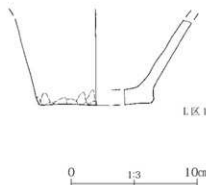


図90 L区 出土遺物 実測図

第12節 M区の調査

1 概要

M区では、「上強戸遺跡群 第1面・第4面」の2つの遺構面の調査を実施した。このうち「第4面」については部分的ではあるが、その下層（仮称・第5面）よりさらに別遺構を検出した。なお、上強戸遺跡群第2・3面については、明確な遺構面が検出されなかった。

遺構種類としては、次の通りである。

第1面：溝

第4面：溝・水田畦畔（痕跡）

仮称・第5面：水田畦畔（痕跡）

2 M区第1面の調査

a. 溝

M区1号溝（図94／PL37）

平面規模 長さ8.40m～。幅0.88m。断面規模 深さ0.26m。底面 北から南への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 M区5号溝（古）→M区1号溝（新）。M区1号溝（古）→M区2号溝（新）。帰属時期 近世以降と推定。

M区2号溝（図94／PL37）

平面規模 長さ8.10m～。幅0.64m。断面規模 深さ0.30m。底面 ほぼ水平。出土

遺物 覆土中より、平瓦片（M区1）が出土。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 近世以降と推定。

M区3号溝（図94／PL37）

平面規模 長さ11.50m～。幅0.80m。断面規模 深さ0.22m。底面 北西から南東へ、北から南への下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 近世以降と推定。

M区4号溝（図94／PL37）

平面規模 長さ17.50m～。幅0.45m。断面規模 深さ0.13m。底面 東から西への下り勾配。出土遺物なし。他遺構との関係 切り合いは、なし。帰属時期 近世以降と推定。

3 M区第4面の調査

a. 溝

M区5号溝（図95／PL36）

平面規模 長さ9.30m～。幅0.68m。断面規模 深さ0.16m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 M区5号溝（古）→M区1号溝（新）。帰属時期 覆土にHr-FA・As-Cを含むことから、6世紀初頭以降と推定。

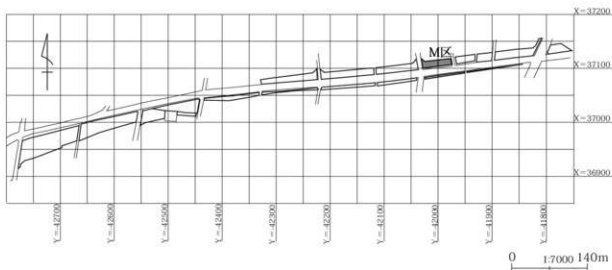


図91 M区 位置図

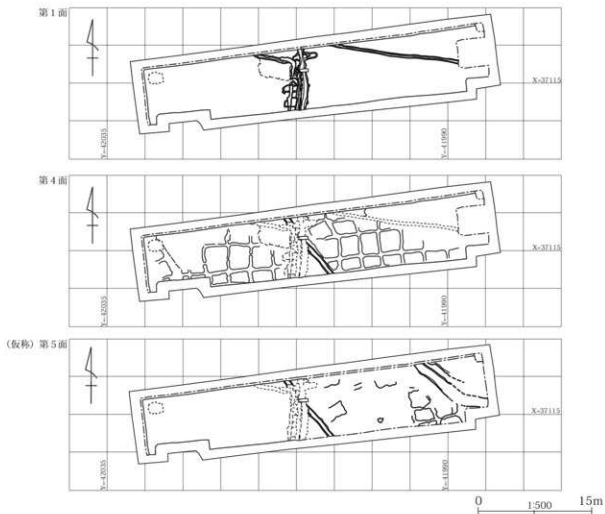


図92 M区 第1・4・5面 全体図

b. 水田畦畔 (図95 / PL36)

検出状況 水田畦畔は調査区のおぼろげな全域で検出。水田面傾斜 北東から南西にむかい緩やかに傾斜していると推定。平面形状 長辺3.00m×短辺2.00mほどの小区画水田面を形成。畦畔規模 畦畔は幅0.30～0.55m、高さは不明。畦畔走行方向 北～南方向、または、東～西方向に走行。水口 南北方向に走行する畦畔内に4箇所検出。帰属時期 8世紀以前と推定。

4 M区 (仮称) 第5面の調査

a. 水田畦畔 (図95 / PL37)

検出状況 調査区の東半分範囲で検出。第4面を約10cm掘り下げた結果、検出。平面形状 長辺3.00m×短辺2.00mほどの小区画水田面を

形成。畦畔規模 畦畔は幅0.20～0.50m、高さは不明。畦畔走行方向 北～南方向、または、東～西方向に走行。水口 未確認。

5 出土遺物 (図93 / PL44)

1は軒棧瓦と思われる瓦片。垂れ部は剥離しているものの、その貼り付け用の線刻が剥離痕跡部分に数条認められる。色調は青灰色。焼成は良好。出土位置はM区2号溝覆土中である。



図93 M区 出土遺物 実測図

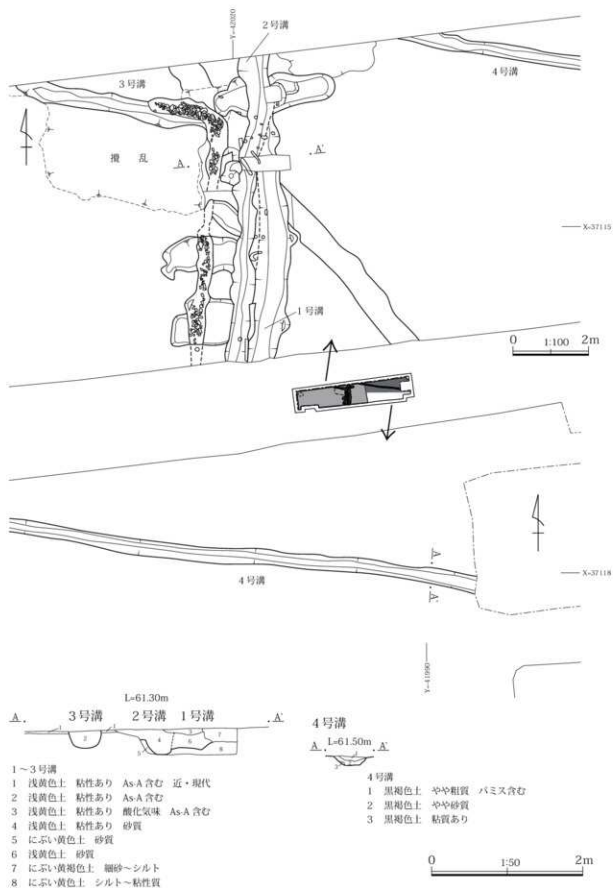
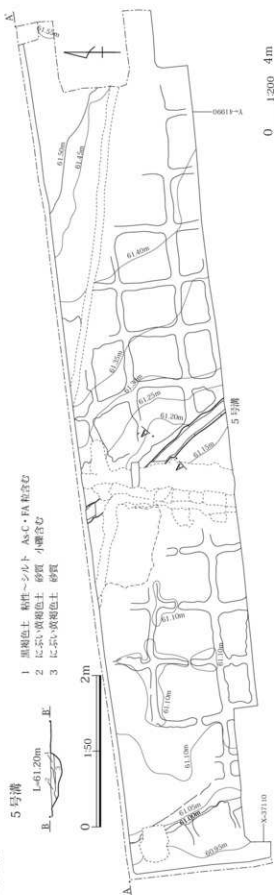


図94 M区第1面 1～4号溝 平・断面図

第4面



(仮称) 第5面

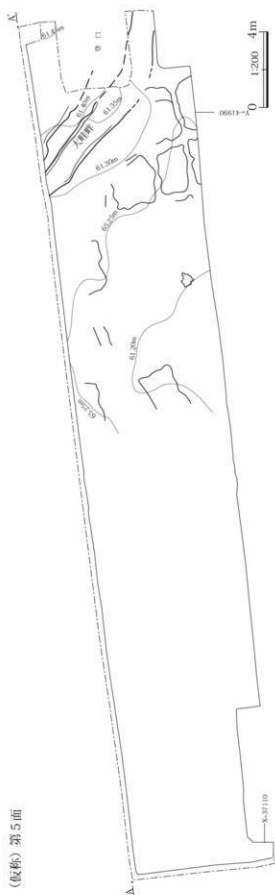
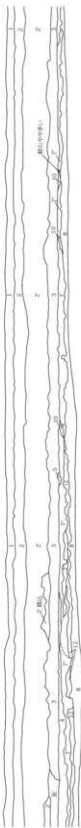


図95 M区第4面 水田畦畔, 5号溝 平・断面図 (上) / (仮称) 第5面 水田畦畔 平面図

A.

L=62.20m



- 1 黒褐色土 客土 耕地表層水田上
- 2 淡黄色土 水田耕土 圃場表層客土 2 同様 水田か 2 は耕作化せず
- 3 におい・黄褐色土 水田耕作 粗砂質 As-A粒含む 3' As-Aなし 砂質 As-A粒を含む 3' 3に同じ
- 4 におい・黄褐色土 水田耕作下層 粘土(とこつち) 上面酸化 4は畦下か As粒を含む
- 5 黒褐色土 粘性あり 黒味あり As-B下田耕土の粘性里に似る
- 6 におい・黄褐色土 粘性 砂質の同方の質感 FA・As-C混り 6 軽石や少ない 6' さらに少ない
- 7 黒褐色土 黒味 粘性 FA・As-C混入る 7 軽石混 7 FA多 7' ラミス状固アッシュを土とする
- 8 におい・黄褐色土 粘性 砂質の同方 軽石混 強還元
- 9 におい・黄褐色土 砂~シルト 軽石混えず
- 10 灰黄褐色土 黒味あり 粘性 As-C FA混入る
- 11 におい・黄褐色土 砂と礫 流水
- 12 黒褐色土 軽石わずかに入る 粘性~シルト質

本M区北壁断面の平面ポイント位置は図95の平面図にあり。

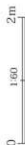


図 96 M区 北壁 断面図

第13節 N区の調査

1 概要

N区では、「上強戸遺跡群 第1～4面」やそれに相当する明確な遺構面は検出されていない。

このN区では、「上強戸遺跡群 第1～4面」を認定するための明確な被覆層が確認できなかったため、Hr-FAおよびAs-C混じり土の面を遺構確認面とした。但し、この面においても、圃場整備時の重機攪乱が顕著であり、遺構の識別が困難であった。なお、この調査面より下層の状況については、3箇所のトレンチを設定し、土層断面による確認を実施した。

遺構種類としては、溝がある。

2 N区検出遺構の調査

a. 溝

N区1号溝 (図98/PL37・38)

平面規模 長さ7.20m。 幅0.97m。 断面規模 深さ0.24m。 底面 ほぼ水平。 出土遺物 なし。 他遺構との関係 N区2号溝(古)→N区1号溝(新)。 帰属時期 中世以降と推定。

N区2号溝 (図98)

平面規模 長さ7.20m。 幅1.70m。 断面規模 深さ0.50m。 底面 北から南への緩

い区台勾配。 出土遺物 覆土中から砥石(N区1)が出土。 他遺構との関係 N区2号溝(古)→N区1号溝(新)。 帰属時期 中世以降と推定。

3 N区遺構面下層の調査

a. トレンチの土層状況

N区第1トレンチ (図99/PL38)

土層は、上層より、現代耕作土面(図99土層注記の1層、以下同じ)、黄橙色バミス(≒ Hr-FAまたはAs-C)を多量に含む黒褐色粘質土(3層)、灰白色粘質土(4層)、にぶい黄褐色粘質土(5層)、灰白色粘質土(6層)、褐灰色粘質土(7層)、青灰色土(8層)が堆積が安定した土層となる。

N区第2トレンチ (図99/PL38)

土層は、上層より、現代耕作土面(1層)、灰白色粘質土(13層)、浅黄橙色土(2層)、黄橙色バミス(≒ Hr-FAまたはAs-C)を多量に含む黒褐色粘質土(3層)、灰白色粘質土(4層)、褐灰色粘質土(7層+14層)、グライ化した青灰色土(8層)となる。

N区第3トレンチ (図99/PL38)

土層は、上層より、現代耕作土面(1層)、灰白色粘質土(13層)、浅黄橙色土(2層)、灰白色粘質土(15層)、黄橙色バミス(≒ Hr-FAまたはAs-C)を多量に含む黒褐色粘質土(3層)、にぶい

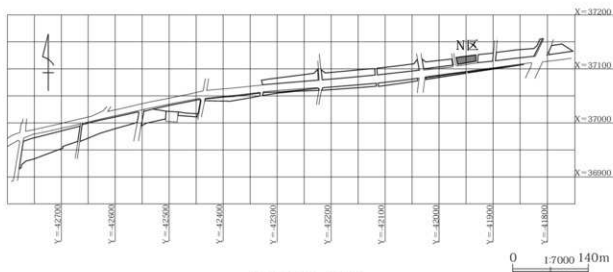
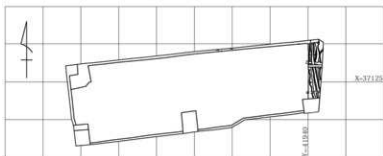


図97 N区 位置図

遺構確認面

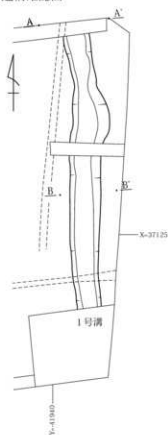


遺構確認面下層

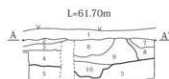
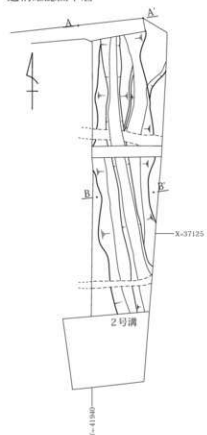


0 1:500 15m

遺構確認面



遺構確認面下層



- 1 黒褐色土 現水田耕作土
- 2 黒褐色土 圃場整備客土
- 3 黒色土 粘性 As-B下水田
- 4 鈍黄棕色土 砂とシルト 小礫
含む(2号溝覆土)
- 5 鈍黄棕色土 砂とシルト 粘性あり
- 6 明黄褐色土 砂と小礫含む(1号溝
覆土)
- 7 にぶい黄棕色土 粗砂
- 8 にぶい黄棕色土 粗砂 粘性あり
- 9 褐灰色土 粗砂 粘性上(2号溝
覆土)
- 10 褐灰色土 粗砂 (2号溝覆土)

0 1:100 2m

0 1:50 2m

図98 N区 全体図(上) / 1・2号溝 平・断面図(下)

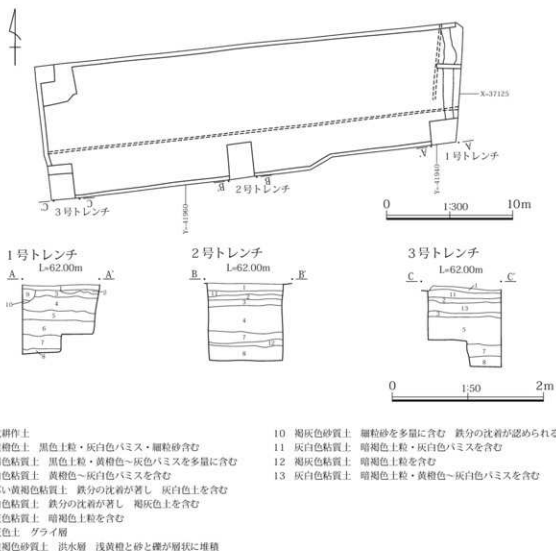


図99 N区 トレンチ 平・断面図

黄褐色粘質土（5層）、褐灰色粘質土（7層）、グライ化した青灰色土（8層）となる。

B. 遺構面に相当する土層の認定

各トレンチの土層内容においては、黄棕色バミス（≒ Hr-FA または As-C）を多量に含む黒褐色粘質土（3層）が所謂「Hr-FA または As-C 混入土」（上強戸遺跡群第4面相当土）と考えられる。

なお、この層より上層には明確な遺構面と想定される土層は確認できず、また、この層より下層にも遺構面に相当する層は認められない。

5 出土遺物（図100 / PL44）

1は砥石。残存長は5.0cm、最大幅は2.9cm。側面は全て砥ぎ面として使用。砥石片裂。出土位置は2号溝覆土である。

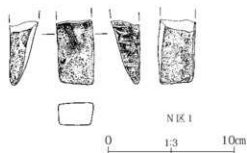


図100 N区 出土遺物 実測図

第14節 O区の調査

1 概要

O区では、表土から地山面までの層厚が他の地区に比べて薄く、そのため「上強戸遺跡群 第1～4面」を認定するための明確な被覆層が確認できなかった。よって、「上強戸遺跡群 第1～4面」に相当する明確な遺構面は検出されていない。

しかし、検出された遺構面が1面存在し、溝・土坑・ピットが検出された。

2 O区検出遺構の調査

a. 溝

O区1号溝 (図103/PL38・39)

平面規模 長さ11.50m～。幅5.00m～。断面規模 深さ1.20m。底面 北から南へわずかな下り勾配。出土遺物 覆土及び底面から杭材(O区3・7・8)及び加工材(O区4～6)が出土。なお、杭材は覆土中層から打設状態で出土。他遺構との関係 なし。 帰属時期 Hr-FAを主体的に含む層が覆土上位に存在するため、6世紀初頭以前の開削であり、6世紀初頭ころには大半が埋没していたと推定。

O区2号溝 (図103/PL39)

平面規模 長さ2.60m～。幅0.70m。断

面規模 深さ0.22m～。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。 他遺構との関係 O区9号溝(古)→O区2号溝(新) 帰属時期 中世以降と推定。

O区3号溝 (図103/PL39)

平面規模 長さ12.50m～。幅3.80m。断面規模 深さ0.20m～。底面 不明。出土遺物 なし。 他遺構との関係 不明。 帰属時期 中世以降と推定。

O区4号溝 (図104/PL39)

平面規模 長さ5.60m～。幅0.75m。断面規模 深さ0.18m。底面 南から北へわずかな下り勾配。出土遺物 なし。 他遺構との関係

O区4号溝(古)→O区10号溝(新)。 帰属時期 中世以降と推定。

O区5号溝 (図104/PL39)

平面規模 長さ4.00m～。幅0.50m。断面規模 深さ0.15m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。 他遺構との関係 O区10号溝(古)→O区5号溝(新)。 帰属時期 中世以降と推定。

O区6号溝 (図104/PL39)

平面規模 長さ11.00m～。幅1.05m。断面規模 深さ0.44m。底面 西から東への下り傾斜。出土遺物 なし。 他遺構との関係 O区9・11号溝(古)→O区6号溝(新)。 帰属時期 O区9号溝より新しいことから、中世以降と推定。

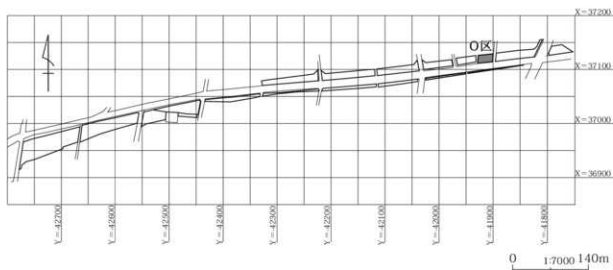


図101 O区 位置図

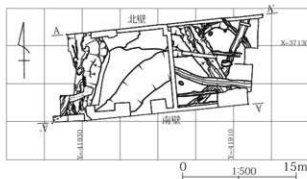


図102 O区 全体図

O区7号溝 (図104 / PL39・40)

平面規模 長さ5.40 m²。幅0.50 m。断面規模 深さ0.04 m。底面 東から西への下り傾斜。出土遺物 なし。他遺構との関係 O区10号溝(古)→O区7号溝(新)。帰属時期 O区9・10号溝より新しいことから、中世以降と推定。

O区8号溝 (図104 / PL39・40)

平面規模 長さ5.20 m²。幅0.30 m²。断面規模 深さ0.05 m。底面 不明。出土遺物 なし。他遺構との関係 O区10号溝(古)→O区8号溝(新)。帰属時期 O区9・10号溝より新しいことから、中世以降と推定。

O区9号溝 (図104 / PL39・40)

平面規模 長さ10.45 m²。幅1.80 m²。断面規模 深さ0.30 m。底面 北西から南東へのゆるい下り傾斜。出土遺物 なし。他遺構との関係 O区11号溝(古)→O区9号溝(新)。O区9号溝(古)→O区6号溝(新)。帰属時期 覆土上層にAs-B下の黒色土が存在することから12世紀初頭以前の開削および埋没と推定。

O区10号溝 (図104 / PL39・40)

平面規模 長さ13.50 m²。幅1.00 m。断面規模 深さ0.28 m。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 O区4号溝(古)→O区10号溝(新)。O区10号溝(古)→O区5・7・8・11号溝(新)。帰属時期 O区9・10号溝より古いことから、12世紀初頭以前と推定。

O区11号溝 (図104 / PL39・40)

平面規模 長さ10.05 m²。幅0.75 m。断面規模 深さ0.30 m²。底面 南から北への緩やかな下り傾斜。出土遺物 なし。他遺構との関係 O区11号溝(古)→O区9号溝(新)。帰属時期 O区9号溝より古いことから、12世紀初頭以前と推定。

O区12号溝 (図104 / PL39)

平面規模 長さ3.40 m²。幅1.20 m²。断面規模 深さ0.25 m²。底面

南西から北東への緩やかな下り傾斜。出土遺物 なし。他遺構との関係 新旧関係は不明。

帰属時期 不明(中世以降?)

b. 土坑

O区1号土坑 (図105 / PL40)

平面規模:長軸1.32 m×短軸0.82 m 平面形状:楕円形 断面深さ:0.16 m。出土遺物 なし。帰属時期 不明(中世以降?)。

c. ビット

O区1号ビット (図105 / PL40)

規模形状 平面規模 長軸0.36 m×短軸0.32 m 平面形状 不整形円形 断面深さ 0.08 m。出土遺物 なし。帰属時期 不明(中世?)。

O区2号ビット (図105 / PL40)

平面規模 長軸0.52 m×短軸0.42 m 平面形状 不整形円形 断面深さ 0.18 m。出土遺物 なし。帰属時期 近現代?

O区3号ビット (図105)

平面規模 長軸0.58 m×短軸0.20 m² 平面形状 不整形円形? 断面深さ 0.13 m。出土遺物 なし。帰属時期 不明(中世?)。

O区4号ビット (図105)

規模形状 平面規模:長軸0.60 m×短軸0.42 m。平面形状:不整形円形? 断面深さ:0.06 m。出土遺物 なし。帰属時期 不明(中世?)。

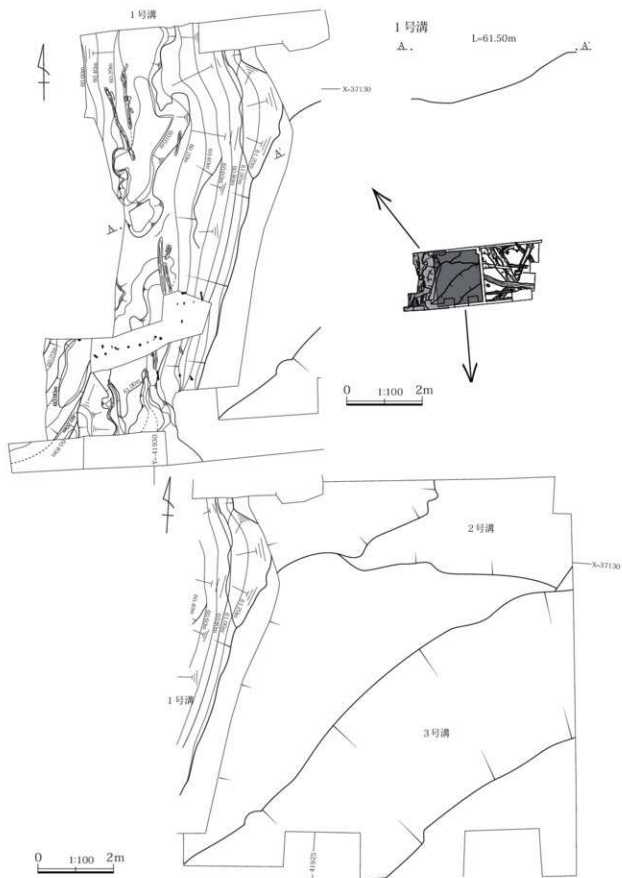


图 103 O区 1~3号溝 平・断面図



6号溝

L=61.90m



6号溝

- 1 褐灰色土 還元 砂質だが粘性気もあり
- 2 褐灰色土 1よりさらに還元 2は傾直しか
- 3 褐灰色土 黄色ブロック入り 粘性 還元質
- 4 褐灰色土 やや耕土質の粗質感あり

7号溝

L=61.80m



7・8号溝

- 1 黒褐色土 粗質 近・現代

8号溝

L=61.80m



11号溝

L=62.10m



11号溝

- 1 にぶい黄褐色土 As-Cかパミス入る 締まる
- 2 にぶい黄褐色土 粘性 As-C見えず やや還元
- 3 灰黄褐色土 粘性 As-C見えず やや還元

9号溝

L=62.10m



9号溝

- 1 黒褐色土 粘性 As-Bの下の黒色 9号溝埋土
- 2 灰黄褐色土 砂質 流水か 9号溝埋土
- 3 灰黄褐色土 粘性 As-C粒入る
- 4 灰黄褐色土 粘性 As-C粒入る 3より黒ずむ
- 5 灰黄褐色土 粘性 As-C粒見えず 4より黒ずむ 少し砂入る
- 6 灰黄褐色土 粘性 As-C粒見えず

10号溝

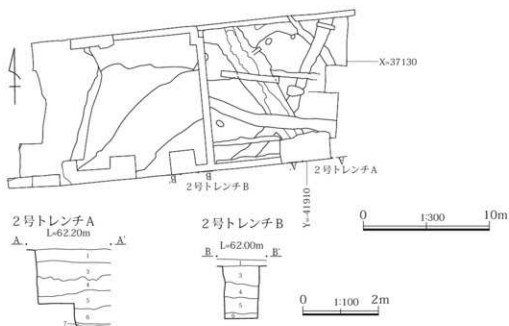
L=62.10m



10号溝

- 1 灰黄褐色土 細砂質下方に流水の砂質感あり
- 2 灰黄褐色土 荒砂を主とし酸化 流水
- 3 灰黄褐色土 砂質 荒砂入り 弱酸化硬化
- 4 黄褐色土 砂質 荒砂入り 強酸化硬化

図104 O区 4～12号溝 平・断面図



- 1 現在耕作土
- 2 黒褐色粘質土 黒色土を大層に含む 黄褐色バミスを多層に含む 灰白色バミスを含む しまりあり
- 3 灰白色粘質土 黄褐色バミスと灰白色バミスを少量含む マンガンの沈着が認められる 鉄分の沈着が認められる しまりあり
- 4 にくい黄褐色粘質土 鉄分の沈着が著しい 灰白色土をブロック状に含む しまり強い
- 5 灰黄褐色粘質土 鉄分の沈着が著しい 褐灰色土をブロック状に含む しまり強い
- 6 褐灰色粘質土 暗褐色土をブロック状に含む しまり強い
- 7 青灰色土 グライ層

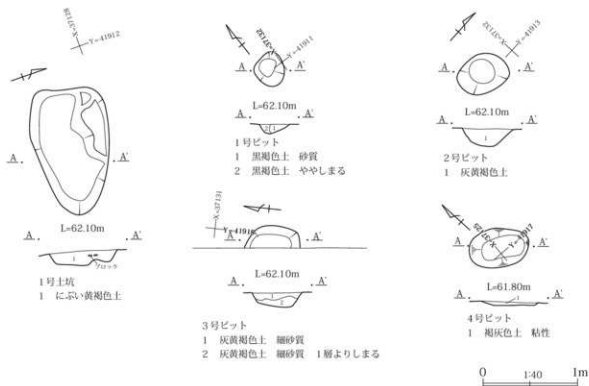


図 105 O区 トレンチ 平・断面図(上) / 1号土坑、1~4号ピット 平・断面図(下)

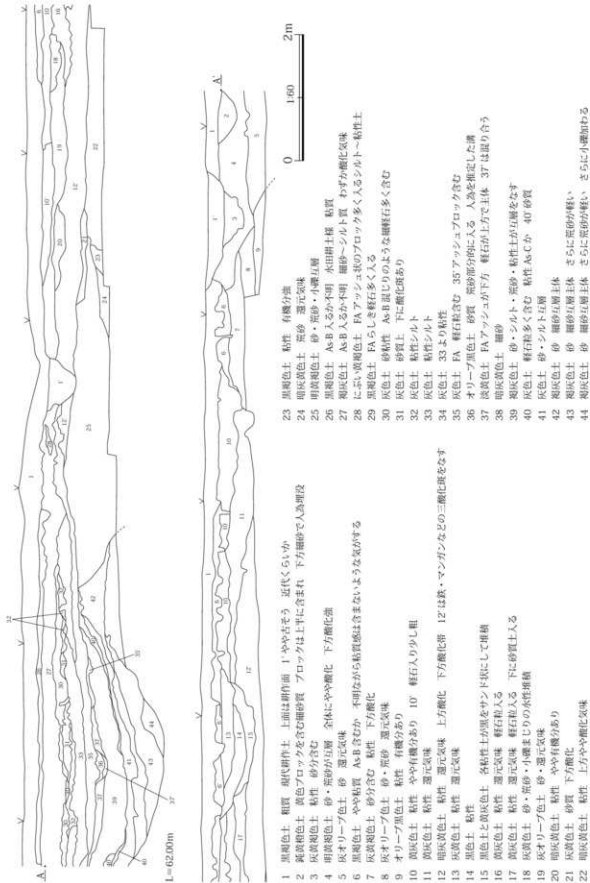


図 106 O 区 北壁 断面図

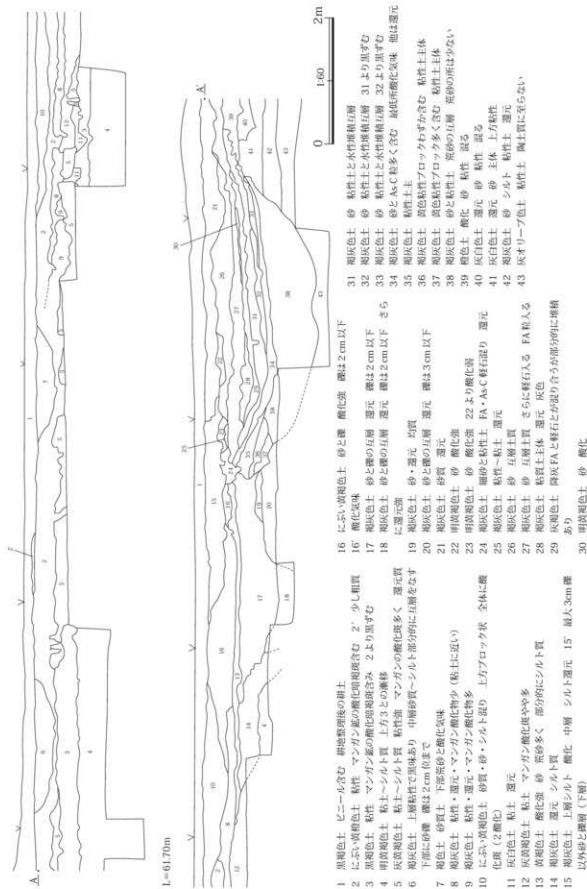


図 107 O区 南壁 断面図

3 出土遺物 (図 108・109 / PL44)

1は土師器甕。復元口径14.0cm、残存高8.0cmである。口縁部は直線的に開く単口縁であり、頸部はくの字の屈曲し、胴部は球胴を呈すると推定。器面外面は斜縦位のハケ後、頸部を除いてナデを施し、器面内面は口縁部はミガキ、胴部にはナデを施す。胎土中には砂礫を多く含む。焼成はやや良好。色調は浅黄色。出土位置はO区6号溝覆土中から出土。

2は土師器甕。口縁部の小破片、分量は不明。口縁部はやや内湾気味に開く単口縁である。器面外面は斜縦位のハケ後、頸部を除いてナデを施し、器面内面は口縁部はミガキ、ナデを施す。胎土中には砂礫を多く含む。焼成はやや良好。色調は淡黄色。出土位置はO区7号溝覆土中から出土。

3は杭材。残存長10.6cm、直径4.2cm。外面には樹皮が残る。直径4.2cmの材の一方の端部を尖らすように切断している。樹種はコナラ属クヌギ節。出土位置はO区1号溝覆土中層である。

4は加工材。残存長22.8cm、直径4.8cm。外面には樹皮が残る。樹種はアオダモ類。出土位置はO

区1号溝覆土中層である。

5は加工材。残存長35.5cm、幅9.3cm、厚さ6.4cm。半割材で、表面は一部炭化する。樹種はコナラ属アカガシ亜属。出土位置はO区1号溝底面である。

6は杭材。残存長34.0cm、直径4.4cm。直径4.2cm。樹種はツバキ属。出土位置はO区1号溝覆土下層である。

7は杭材。残存長35.1cm、直径4.7cm。外面には樹皮が残る。材の一方の端部を尖らすように切断している。樹種はコナラ属クヌギ節。出土位置はO区1号溝覆土下層である。

8は杭材。残存長27.7cm、直径3.6cm。外面には樹皮が残る。材の一方の端部を尖らすように切断している。樹種はコナラ属クヌギ節。出土位置はO区1号溝覆土下層である。

9は加工材。残存長14.4cm、幅13.9cm、厚さ5.5cm。木取りは柾目。側面を切断して、直方体様の加工を施している。樹種はコナラ属コナラ節。出土位置はO区2号トレンチ。

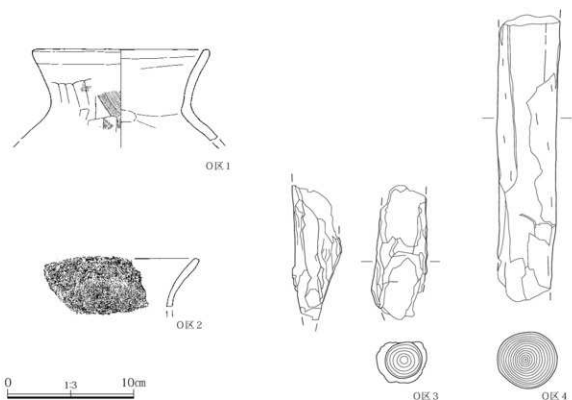


図 108 O区 出土遺物 実測図 (1)

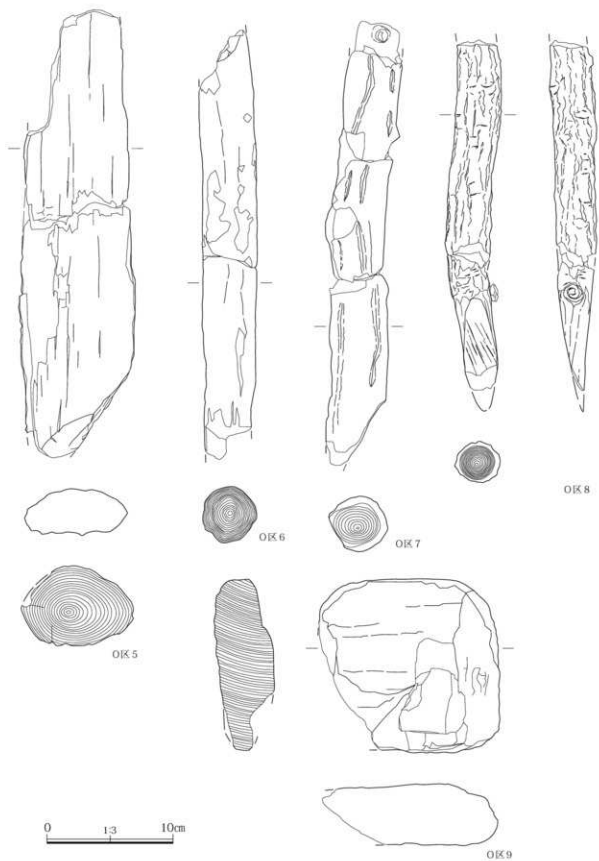


図109 O区 出土遺物 実測図(2)

第15節 P区の調査

1 概要

P区では、表土から地山面までの層厚がやや薄く、そのため「上強戸遺跡群 第1～4面」を認定するための被覆層が調査区全域に渡って検出されることはなく、それらが部分的に検出されるにとどまった。よって、調査時の遺構確認面は1面のみであったが、各検出された遺構の覆土の状況から「上強戸遺跡群 第1面・第2面・第4面」に相当すると思われる溝がそれぞれ検出された。

なお、この調査面より下層の状況については、3箇所のトレンチを設定し、土層断面による確認を実施した。

2 P区第1面相当遺構の調査

a. 溝

P区1号溝 (図111 / PL42)

平面規模 長さ1.50m～。幅1.10m。断面規模 深さ0.55m～。底面 ほぼ水平。出土遺物 なし。他遺構との関係 P区1号溝(古)→P区2号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

P区2号溝 (図111 / PL42)

平面規模 長さ9.50m～。幅3.60m～。断面規模 深さ1.50m～。底面 北から南への

下り勾配。出土遺物 なし。他遺構との関係 P区1号溝(古)→P区2号溝(新)。帰属時期 中世以降と推定。

3 P区第2～4面相当遺構の調査

a. 溝

P区3号溝 (図112 / PL41)

平面規模 長さ25.00m～。幅6.00m。断面規模 深さ0.85m。底面 西から東への下り傾斜。出土遺物 なし。他遺構との関係 なし。

帰属時期 Hr-FA層を削って溝が存在するため、開削時期は6世紀初頭以降と考えられる。また、覆土上層にAs-Bの1次堆積層と考えられる層が存在することから、溝の埋没は12世紀初頭以前と考えられる。

b. 水田畦畔 (図113 / PL41)

検出状況 調査区の西側の一部分の範囲で検出。遺構平面確認時に水田畦畔の痕跡が帯状に認められ、その痕跡が平面的に方形区画を呈することから水田畦畔の痕跡と判断。平面形状 長辺3.00m×短辺2.70mほどの小区画水田面を形成。畦畔走行方向 ほぼ直線に走行し、南西～北東方向、または北西～南東にそれぞれ走行。畦畔平面幅 0.20～0.50m。畦畔高 不明。水口 未確認

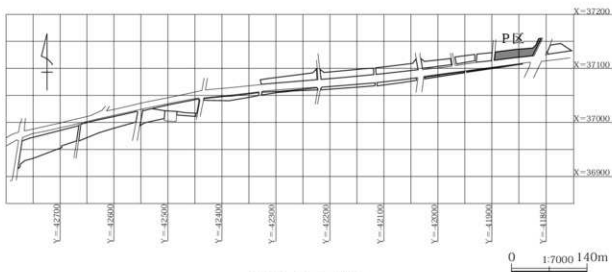
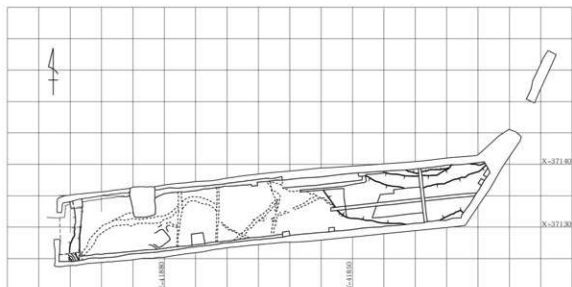
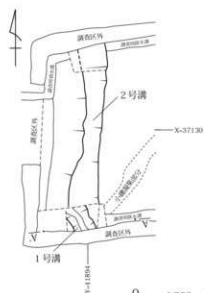


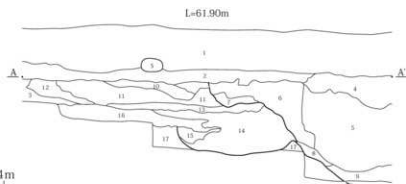
図110 P区位置図



0 1500 20m



0 1200 4m



0 1:50 2m

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1・2号溝 | 10 黒褐色土 砂主体やや酸化 |
| 1 黒褐色土 現代容土 | 11 黄灰色土 砂 細砂 やや還元気味 |
| 2 浅黄色土 粗砂質 現代水田耕作土 | 12 黄灰色土 砂 細砂 シルト互層 やや還元気味 |
| 3 にぶい褐色土 粘性・シルト・鉄・マンガンの酸化鉄斑を含む | 13 黒褐色土 砂と土と小礫互層 |
| 4 黒褐色土 粗質 | 14 灰オリーブ色土 砂質互層 炭砂 砂 |
| 5 黒褐色土 粗質 現代 有機質でさらに黒ずみビニール入る | 15 オリーブ黒色土 細砂 砂 |
| 6 黒褐色土 粗質 現代 有機質 | 16 オリーブ黒色土 細砂 砂質 |
| 7 黒褐色土 粘性 下方に砂入り流水の型跡 | 17 オリーブ黒色土 細砂 砂質 さらに粘性 |
| 8 黒褐色土 粘性 近代 近世か | |
| 9 黒褐色土 砂・シルト交える 近代・近世か | |

図111 P区 全体図(上) / 1・2号溝 平・断面図(下)

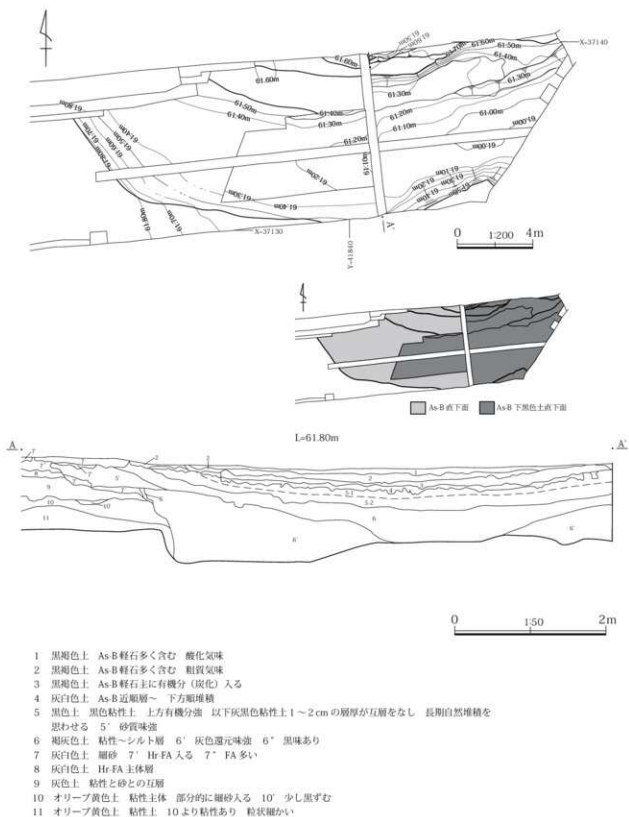


図112 P区 3号溝 平・断面図

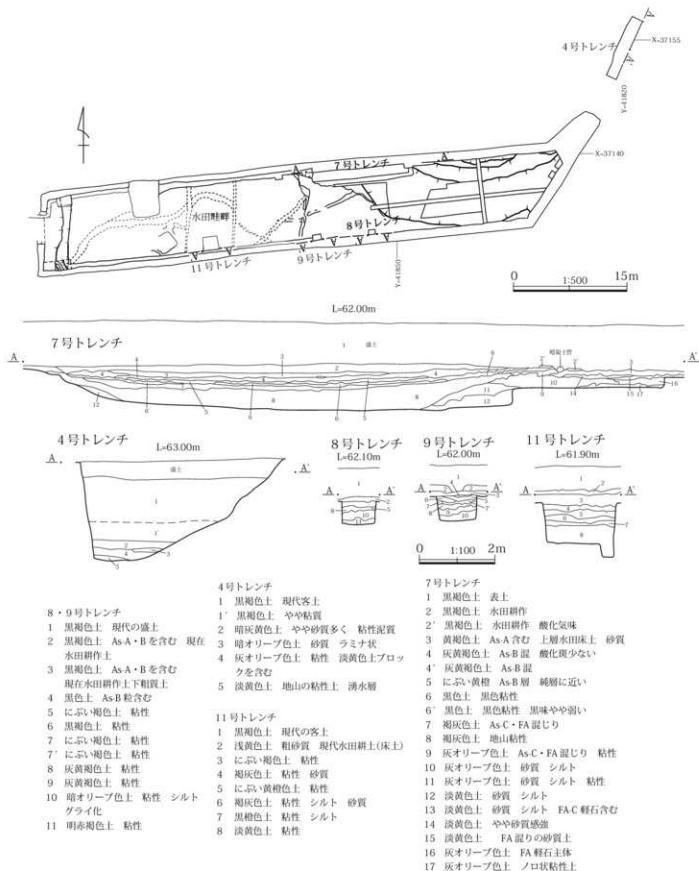


図113 P区 水田畦畔, トレンチ 平・断面図

第16節 Q区の調査

1 概要

Q区では、表土から地山面までの間に攪乱土と思われる土砂が多量に存在することが確認された。そのため「上強戸遺跡群 第1～4面」を認定するためのトレンチを設定し、土層断面による確認を実施した。

2 Q区トレンチ調査

1号トレンチ (図114 / PL42)

トレンチは約2.00m程度の掘り下げを実施した。その結果、表土より1.90m下までは、攪乱土が堆積し、その下より基盤層（基本土層Ⅷ層）が検出された。

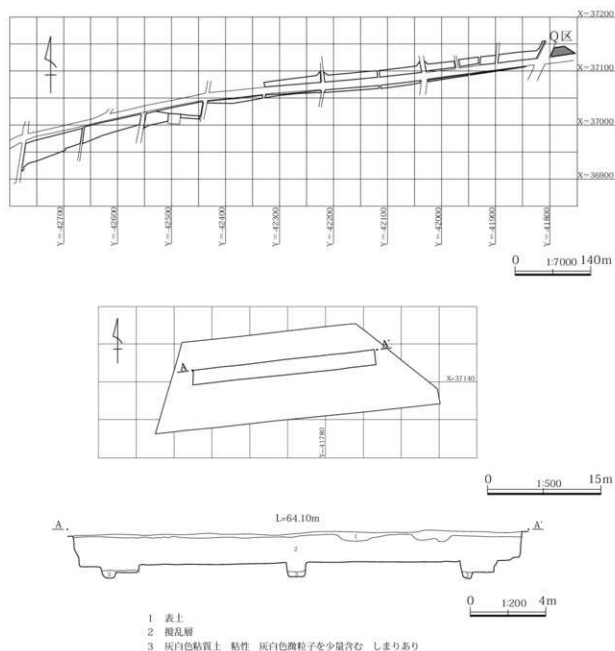


図114 Q区 位置図(上) / トレンチ 平・断面図

第3章 自然化学分析

第1節 上強戸遺跡群の土層とテフラ

1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層が認められた太田市上強戸遺跡群においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析を行って指標テフラの層位を把握し、土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、K区北壁、K区北壁（西）、K区南壁の3地点である。

2. 土層層序

(1) K区北壁

K区北壁では、下位より灰白色シルト層（層厚3cm以上）、黒泥層（層厚12cm）、砂混じり暗灰色泥層（層厚5cm）、桃灰色シルト層（層厚4cm）、白色軽石混じり灰色砂層（ブロック状、最大層厚3cm、軽石の最大径9mm）、白色軽石混じり暗灰色泥層（層厚3cm、軽石の最大径4mm）、白色軽石混じり暗灰色泥層（層厚17cm、軽石の最大径4mm）、灰色砂層（層厚6cm）、ラミナが発達した灰色砂質シルト層（層厚6cm）、ラミナが発達した褐色砂礫層（層厚19cm、礫の最大径12mm）、灰色シルト層（層厚6cm）、白色軽石混じり黄色砂層（層厚2cm、軽石の最大径3mm）、白色軽石混じりで砂を含む灰色シルト層（層厚20cm、軽石の最大径4mm）、暗灰色泥層（層厚4cm）、灰色粗粒火山灰

層（層厚2cm）、褐色砂質土（層厚3cm）、砂混じり灰色土（層厚3cm）、黄色土（層厚11cm）、灰色水田作土（層厚18cm）が認められる（図115-1）。

(2) K区北壁（西）

K区北壁（西）では、下位より暗灰色泥層（層厚7cm以上）、灰色泥層（層厚0.5cm）、白色軽石混じり灰色砂層（層厚4cm、軽石の最大径5mm）、白色軽石混じり暗灰色泥層（層厚15cm以上、軽石の最大径5mm）が認められる（図115-2）。

(3) K区南壁

K区南壁では、下位より黒泥層（層厚8cm以上）、白色粗粒火山灰を少し含む黒泥層（層厚4cm）、黒泥層（層厚5cm）、桃色がかった灰色シルト層（層厚8cm）が認められる（図115-3）。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

K区北壁、K区北壁（西）、K区南壁から採取された試料のうち9点を対象に、テフラ粒子の量や特徴を見るためにテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表4に示す。K区北壁では、試料6と試料1に軽石が含まれている。試料6に含まれる軽石は、さほど発泡の良くない白色軽石（最大径5.2mm）と、スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石（最大径2.1mm）である。前者の斑品には角閃石や斜方輝石、後者の斑品には斜方輝石や単斜輝石が認められる。火山ガラスとしては、これらの軽石の細粒物が比較的多く含まれている。試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径

2.2mm)や、その細粒物の淡褐色の軽石型ガラスがとくに多く含まれている。この軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料10、試料8、試料7には、無色透明の軽石型ガラスが少量ずつ含まれている。

K区北壁(西)の試料2には、スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石(最大径2.1mm)が比較的多く含まれている。この軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。火山ガラスとしては、これらの軽石の細粒物が多く含まれている。

K区南壁では、軽石粒子は検出されなかった。わずかに試料5と試料3に、無色透明の軽石型ガラスが少量ずつ含まれている。

4. 考察

テフラ検出分析で検出された軽石のうち、スポンジ状に良く発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石や、その細粒物である火山ガラスは、その特徴から4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000)に由来すると考えられる。これらの粒子が多く認められることから、K区北壁(西)の試料2付近にAs-Cの降灰層のある可能性が考えられる。

この軽石も認められるK区北壁の試料6により多く含まれている、さほど発泡が良くなく、斑晶に角閃石や斜方輝石をもつ白色軽石やその細粒物である火山ガラスは、その特徴から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳澁川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)、あるいは6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。可能性としては、周辺遺跡の状況から前者の可能性がより高いように思われる。したがって、試料6についてはHr-FA降灰後に発生した洪水堆積物の可能性が考えられる。K区北壁(西)の試料1が採取された砂層も同様の層相

をもち、さらに層位も考慮すると、同じ洪水堆積物と考えられる。

K区北壁の試料1が採取された灰色粗粒火山灰層については、含まれるテフラ粒子の特徴から、1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に同定される。

なお、K区北壁やK区南壁の最下部で認められた黒泥層については、As-Cより下位にある。

5. 小結

上強戸遺跡群において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より浅間C軽石(4世紀初頭)、榛名二ツ岳澁川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)または榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)を検出することができた。さらにHr-FAより上位でAs-Bより下位の複数の層間に洪水堆積物を認めることができた。

文献

- ・新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- ・新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- ・荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地質研報, no.45, 65p.
- ・町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- ・町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- ・坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土層と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群-荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- ・早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.
- ・友廣哲也(1988)古式土師器出現期の榛名と浅間山C軽石。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.
- ・若狭 徹(2000)群馬の弥生土器が載るとき。かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く-古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

表4 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
K区北壁	1	+++	淡褐	2.2	++++	pm	淡褐
	6	++	白>灰白	5.2,2.1	++	pm	白、灰白
	7	-	-	-	+	pm	透明
	8	-	-	-	+	pm	透明
	10	-	-	-	+	pm	透明
K区北壁(西)	2	++	灰白	2.1	+++	pm	灰白
K区南壁	2	-	-	-	-	-	-
	3	-	-	-	+	pm	透明
	5	-	-	-	+	pm	透明

++++:とくに多い, +++:多い, ++:中程度, +:少ない, -:認められない, 最大径の単位は, mm, bw:バブル型, pm:軽石型.

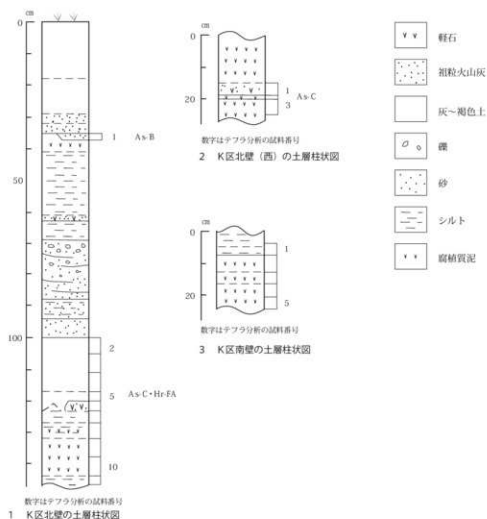


図115 K区の土層柱状図

第2節 上強戸遺跡群における プラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。

2. 試料

試料は、A区およびK区から採取された計12点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラ

スビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10 - 5g) をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。イネの換算係数は 2.94 (種実重は 1.03)、ヒエ属 (ヒエ) は 8.40、ヨシ属 (ヨシ) は 6.31、ススキ属 (ススキ) は 1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は 0.48 である。

4. 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な 5 分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表 5 および図 116 に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

水田跡 (稲作跡) の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料 1g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している (杉山, 2000)。ただし、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。

(1) A区

3層 (As-B 混土, 1面, 試料 1)、8層相当 (灰色洪水層, 試料 2)、9-2層 (第3面耕作土, Hr-FA, As-C 混?, 試料 3)、15層上部 (灰褐色粘質土, 試料 4)、15層下部 (第4面耕作土, As-C 混?, 試料 5)、15層上面相当 (Hr-FA 直下耕作土?, 試料 6) について分析を行った。

その結果、15層上部 (試料 4) を除く各試料からイネが検出された。このうち、3層 (試料 1)、9-2層 (試料 3)、15層上面相当 (試料 6) では、

第3章 自然化学分析

密度が3,000～3,800個/gと比較の高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

その他の試料では、密度が1,500～2,300個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

(2) K区

3層(As-B混土, 1面, 試料1)、6-1層(灰オリーブ洪水層, 試料2)、9-1層(洪水層下, 復旧面, 試料3)、9-2層(第3面耕作土, Hr-FA,As-C混?, 試料4)、15層(3面耕作土, As-C混?, 試料5)、16-2層(黒色粘土, 試料6)について分析を行った。

その結果、3層(試料1)、6-1層(試料2)、9-2層(試料4)、15層(試料5)からイネが検出された。このうち、9-2層(試料4)と15層(試料5)では、密度が6,100個/gおよび5,200個/gと高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の試料では、密度が800～2,300個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、耕作土とされるA区の9-2層(第3面, Hr-FA,As-C混?, 試料3)と15層上面相当(Hr-FA直下, 試料6)、K区の9-2層(第3面, Hr-FA,As-C混?, 試料4)と15層(第4面, As-C混?, 試料5)では、イネが多量に検出され、各層準で稲作が行われていたことが分析的に検証された。

また、A区の3層(As-B混土, 1面, 試料1)でも、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。さらに、A区の8層相当(試

料2)と15層下部(第4面, As-C混?, 試料5)、K区の3層(As-B混土, 1面, 試料1)と6-1層(試料2)でも、稲作が行われていた可能性が認められた。

文献

- ・杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)、考古学と植物学、同成社、p.189-213.
- ・藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法―、考古学と自然科学、9、p.15-29.
- ・藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オパール分析による水田地の探査―、考古学と自然科学、17、p.73-85.

表5 群馬県、上強戸遺跡群におけるプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: × 100 個/g)		A区						K区					
分類群	地点・試料	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
イネ	<i>Oryza sativa</i>	30	23	38		15	38	23	8		61	52	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	22		8	38	23	8	15	8		15	7	113
ススキ属型	<i>Miscanthustype</i>	37	38	30	30	53	30		8	15	38	30	23
タケ亜科	Bambusoideae	165	256	129	129	234	128	30	68	105	91	120	23

推定生産量 (単位: kg / m ² ・cm)		A区						K区					
分類群	地点・試料	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.88	0.66	1.10		0.44	1.10	0.67	0.22		1.78	1.54	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	1.42		0.47	2.40	1.43	0.47	0.96	0.47		0.96	0.47	7.12
ススキ属型	<i>Miscanthustype</i>	0.46	0.47	0.37	0.36	0.66	0.37		0.09	0.19	0.47	0.37	0.28
タケ亜科	Bambusoideae	0.79	1.23	0.54	0.62	1.12	0.61	0.15	0.33	0.51	0.44	0.58	

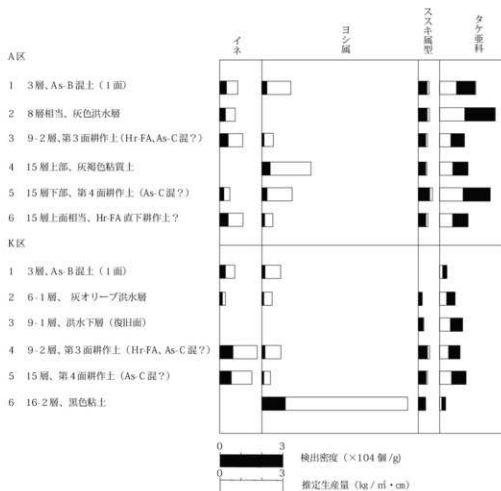
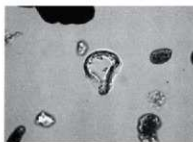


図116 上強戸遺跡群におけるプラント・オパール分析結果



イネ
A区3



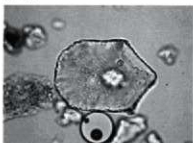
イネ
A区6



イネ
A区6



ヨシ属
A区1



ヨシ属
K区2



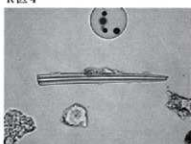
ススキ属型
K区4



ネザサ節型
A区2



ネザサ節型
A区5



海綿骨針
K区2

50 μm

写真1 植物珣酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

第3節 上強戸遺跡群出土木製品の 樹種同定

1. はじめに

群馬県太田市強戸町に位置する、上強戸遺跡群から出土した17点の樹種同定結果を報告する。上強戸遺跡群からは、溝や井戸が検出されており、これらの遺構内から出土した曲物底板と、漆塗碗、杭材、加工木について樹種同定を行った。

2. 方法

木取りを観察した後、木材から直接片刃の剃刀を用いて材の横断面(木口)・接線断面(板目)・放射断面(柃目)の3方向を薄くそぎ取ってスライドガラスの上に並べ、ガムクロラールで封入し永久プレパラートを作製した。作製したプレパラートは当社所蔵の現生標本と比較し、光学顕微鏡下で同定した。

同定を行った試料のうち、分類群を代表する試料の図版を添付し、その材組織の解剖学的な記載や材質、分布を結果に記載した。なお、プレパラートは(株)パレオ・ラボに保管されている。

3. 結果および考察

表6に樹種同定の結果を示した。同定の結果、アスナロとスギの針葉樹2分類群、コナラ属コナラ節(以下コナラ節)と、コナラ属クヌギ節(以下クヌギ節)、コナラ属アカガシ亜属(以下アカガシ亜属)、ケヤキ、ツバキ属、トチノキ、アオダモ類の広葉樹7分類群が産出した。

以下に遺構別の出土樹種とその点数をあげる。

C区1号溝出土の漆塗碗は、トチノキであった。トチノキは木目が美しく、材質が均質で加工がし易いことから碗の材料として一般的に用いられることが知られている。

O区1号溝出土の杭材13点はクヌギ節が7点と最も多く、アオダモ類が2点、コナラ節、アカガシ亜属、ケヤキ、ツバキ属がそれぞれ1点みいだ

された。ほとんど直径15cm以下の木材を使用しており、アカガシ亜属が半割、ケヤキが板目で用いられているほかはすべて芯持丸木であった。これらの樹種は周辺の植生を反映していることが考えられる。

F区3号溝の板材はアスナロであった。板材は片面が自然面のため、加工の痕跡ははっきりしない。アスナロは割り裂きや加工がしやすく、板材として用いるには適した樹種といえる。A区1号井戸の曲物底板はスギであった。スギも板を得るのに適しており、曲物底板として一般的に用いられる樹種である。

O区2号トレンチから出土した加工木(両端切断材)はコナラ節であった。両端が切断されていることから、何らかの製品などを作製するために分断した残りと考えられる。コナラ節は群馬県内において弥生時代以降古代に至るまで、建築材、土木材、器具用材として用いられていることから(山田, 1993)、周辺に生育し、活用される樹種であることが明らかとなっている。

次に同定された樹種の記載を行う。

(1) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don スギ科 写真2 1a-1c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部は量多く明瞭。樹脂細胞は早材の終わりから晩材に散在する。分野壁孔はスギ型で大きく、1分野にふつう2個。

スギは高木になる常緑針葉樹で、天然分布は年間降水量の多い地域に限られ、日本海側にはまとまった分布域が多い。生育地は湿地周辺や谷部、尾根沿いなど幅広く、低地から比較的高標高のブナ林までみられる。材は通直で軽軟、保存性は中庸、適度な強度があり割裂性と加工性に優れる。

(2) アスナロ *Thujaopsis dolabrata* Sieb. et Zucc. ヒノキ科 写真2 2a-2c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部はしばしば量多い。分野壁孔はヒノキ型〜トウヒ型で小さく、孔口は狭く、1分野に

2-4 個。放射組織には内容物が多い。

アスナロは主に温帯に分布する高木になる常緑針葉樹で、耐陰性が高い。材は通直、軽軟で割製・加工容易。耐朽性は良好で水湿に強い。

(3) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 写真2 3a-3c

年輪の始めに大型の丸い道管が単独で1-2列に並び、晩材では小型でやや角張った道管が火災状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性のものに大型の広放射組織が混在する。

いわゆるナラ類の材で、温帯下部～暖温帯に分布するコナラ、暖温帯に点在して分布するナラガシワなどが含まれる。いずれも重硬で弾性を持つ材で、保存性は中庸、割製・加工は困難である。

(4) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 写真3 4a-4c

大型の丸い道管が単独で1-数列ならび、晩材部では丸く厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性のものに広放射組織を交える。

クヌギ節にはクヌギとアベマキが含まれる。いずれも暖温帯の適湿な向陽地にみられる高木になる落葉広葉樹である。材は重硬で弾性があり、割製・加工は困難である。

(5) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 写真3 5a-5c

中型で丸い厚壁の道管が単独でやや斜めに連なって放射方向に配列する放射孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、単列のものに広放射組織が混じる。

いわゆるカシ類の材であり、アカガシやシラカシ、アラカシなどが含まれる。種によって分布は異なるが、いずれも高木になる常緑広葉樹で暖温帯の主要な樹種である。材は日本産の木材の中で最も重硬で強靱な部類に入り、加工は困難、割製性は中庸である。

(6) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 写真3 6a-6c

年輪のはじめに大型の丸い道管が単独で1-2列に並び、晩材部では小型の薄壁で角張った道管が多数集合して接線方向あるいは斜めに帯をなす環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端のみ直立細胞からなる異性で、しばしば結晶を含む。

ケヤキは高木になる落葉広葉樹で、谷泊いや河畔の肥沃な土壤にみられ温帯に広く分布する。材はやや重硬で靱性もあり、均質で切削加工は容易、割製性は中庸で保存性に優れる。

(7) ツバキ属 *Camellia* ツバキ科 写真4 7a-7c

小型でやや角張った道管がほぼ単独で、年輪内でゆるやかに径を減して散在する散孔材。道管の穿孔は階段状で間隔やや広く、10本程度。放射組織は異性で1-3列程度、しばしば結晶を含む。

ツバキ属にはヤブツバキやサザンカなどが含まれるが、現在サザンカは山口県と、四国、九州にのみ分布していることから、ツバキ属の材の母植物はヤブツバキであると考えられる。ヤブツバキは小高木～高木になる常緑広葉樹で、暖温帯の山地林内にみられる。材質は重硬で強靱、耐朽性もあり、加工・割製は困難である。

(8) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科 写真4 8a-8c

小型で丸い道管が、単独もしくは放射方向に数個複合してやや密に分布する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性、層階状に配列する。

トチノキは高さ20～30mになる落葉高木で、北海道(南部)・本州・四国・九州に分布し、主として渓谷沿いの肥沃地に生育する。材はやや軽軟で、切削そのほかの加工はきわめて容易である。

(9) アオダモ類 *Fraxinus* cf. *lanuginosa* Koidz. モクセイ科 写真4 9a-9c

やや大型で丸い道管が年輪のはじめに一列にやや散漫に並び、晩材部ではごく小型で厚壁の道管が単独または2-3個複合してまばらに分布する環孔材。木部柔細胞は周囲状。道管の穿孔は単一。放射組織

第3節 上強戸遺跡群出土木製品の樹種同定

は同性で、1-3列。

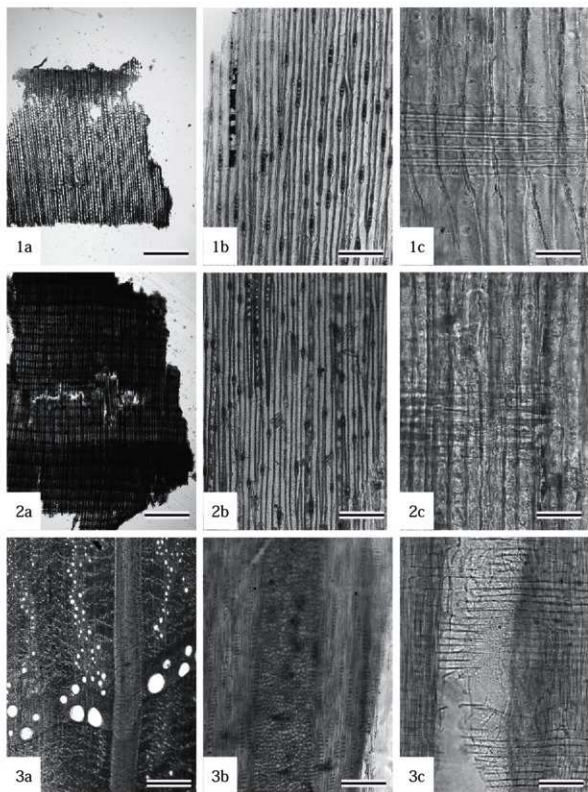
アオダモ類にはシオジ、ヤチダモを除くトネリコ属が含まれる。溪畔に生育するトネリコやヤマトアオダモ、日当たりの良い山中の乾いた立地に生育するアオダモ、マルバアオダモなどがある。材質は中庸～やや重硬、加工は困難でなく、粘りがある。

引用文献

- ・山田昌久(1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成―用材から見た人間・植物関係史―、植生史研究特別第1号、242p.

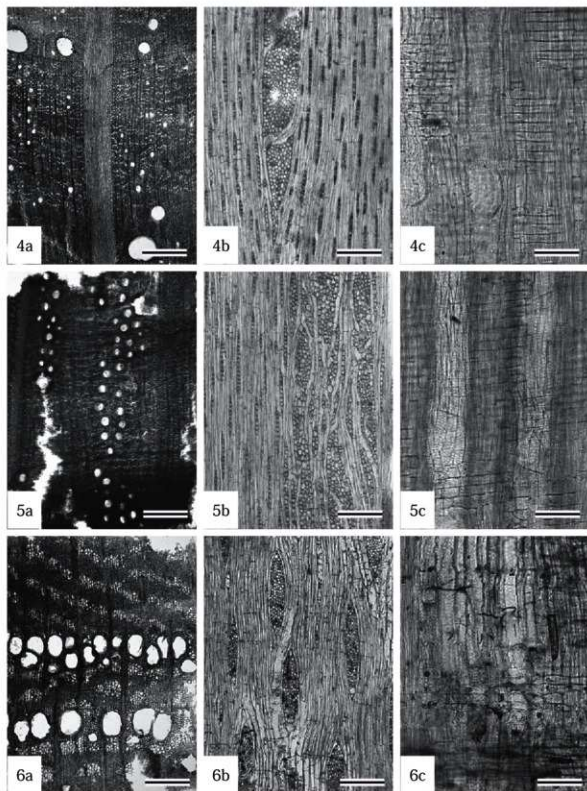
表6 樹種同定資料と同定結果

資料番号	掲載番号	種類	調査区	出土遺構	法量(単位 cm)	樹種	木取り	備考
1	F区3	板材	F区	3号溝	(21.5) × (4.5) × 1.0	アスナロ	板目	自然木もしくは加工木、片面自然面
2	O区3	杭材	O区	1号溝	φ 4.0	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	樹皮付き
3	C区3	漆塗板	C区	1号溝	底径φ 10.5以上	トチノキ	横木取り	外面黒色・内面赤色、文様不明
4	A区1	曲物底板	A区	1号井戸	10.0 × 9.5	スギ	板目	やや楕円形
15	O区4	杭材	O区	1号溝	φ 4.7	アオダモ類	芯持丸木	樹皮付き
17	O区6	杭材	O区	1号溝	φ 4.5	ツバキ属	芯持丸木	
20	O区7	杭材	O区	1号溝	φ 5.0	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	樹皮付き
25	O区8	杭材	O区	1号溝	φ 3.2	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	樹皮付き
34	—	杭材	O区	1号溝	φ 6.2	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
37	—	杭材	O区	1号溝	φ 4.8	アオダモ類	芯持丸木	
38	O区5	杭材	O区	1号溝	φ 8.2	コナラ属アカガシ亜属	半割	表面炭化
40	—	杭材	O区	1号溝	φ 9.0	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
41	—	杭材	O区	1号溝	φ 8.0	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
42	—	杭材	O区	1号溝	φ 12.0	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
43	—	杭材	O区	1号溝	φ 10.0	コナラ属コナラ節	芯持丸木	
44	—	杭材	O区	1号溝	φ 14.0	ケヤキ	板目	
48	O区9	加工木	O区	2号トレンチ	14.0 × 13.8 × 4.5	コナラ属コナラ節	板目	両断切断材



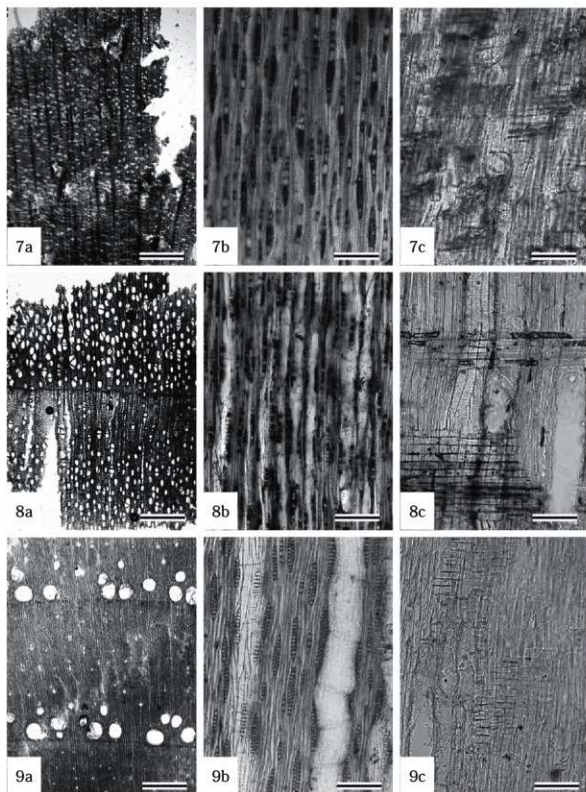
1a-c: スギ (遺物番号 4)、2a-c: アスナロ (遺物番号 1)、3a-c: コナラ属コナラ節 (遺物番号 43)
a: 横断面 (スケール= 500 μm)、b: 接線断面 (スケール= 200 μm)、c: 放射断面 (1・2スケール= 50 μm 、3
スケール= 100 μm)

写真2 上強戸遺跡群出土木製品の光学顕微鏡写真 (1)



4a-c:コナラ属クヌギ節 (遺物番号 34)、5a-c:コナラ属アカガシ亜属 (遺物番号 38)、6a-c:ケヤキ (遺物番号 43) a: 横断面 (スケール= 500 μm)、b: 接線断面 (スケール= 200 μm)、c: 放射断面 (スケール= 100 μm)

写真3 上強戸遺跡群出土木製品の光学顕微鏡写真 (2)



7a-c: ツバキ属 (遺物番号 17)、8a-c: トチノキ (遺物番号 3)、9a-c: アオダモ類 (遺物番号 37)
a: 横断面 (スケール= 500 μm)、b: 接線断面 (スケール= 200 μm)、c: 放射断面 (スケール= 100 μm)

写真4 上強戸遺跡群出土木製品の光学顕微鏡写真 (3)

第4章 まとめ

第1節

K・L区の河道、洪水及び水田について

1 河道について

L区西側で全幅が約5mほどの河道1条(L区1号河道)、K区ではほぼ同規模の河道2条(K区1・2号河道)を確認した。これらは、L区の西側から県道足利線に出て北側に大きく蛇行し、K区東側の河道に接続して北上し、さらにK区調査区域の北側で南側に蛇行して、K区中央部の河道に北側から接続する同一の河道である(図117)。

この一連の河道は、おそらく遺跡の北側約1.0kmに位置する颯風ゴルフ場内に谷頭をもち、地形の最も低い部分を流下していることから、人為的な改修が加えられた可能性は否定できないものの、基本的には自然河道である。

この河道は、堆積した洪水層の違いによってI～V期の5時期の河道に分けられる(図118)。但し、V期の河道は、河道というより一連の河道の最後の窪みである。

いずれの河道も年代を示す明確な根拠に欠けるが、以下のように推定した。

- a. II期河道はその底面(11層)から4～5世

第1節 K・L区の河道、洪水及び水田について

紀代の土師器裏が出土している。したがって、4～5世紀代の可能性がある。

- b. III期河道は底面から8世紀中葉の土師器環が出土することから8世紀中葉の可能性もある。

- c. IV期河道は、8世紀中葉以降で9世紀後半以前であることから、8世紀後半から9世紀前半となり、9世紀前半であるとすれ被覆する洪水層(7層)は、弘仁9(818)年の可能性もある。

- d. V期河道は、B区で灰オリブシルト洪水で埋没した溝から9世紀後半の須恵器環が出土していることから、9世紀後半の可能性もある。

一連の河道は、As-B 或いは As-B 混土下の黒色土の段階には平坦化し、水田耕作土となっていることから、少なくとも As-B 降下の段階には既に河道の機能は失っている。また、L区では河道の中心は西から東へ移動しており(図118)、最も東側のV期河道の底面が埋没の最後の窪みである。

2 洪水

(1) 8層洪水(通称:青灰色洪水層)

8層洪水は、9層を耕土とした水田面(上強戸遺跡群第3面)を直接被覆する洪水層である。この洪水層の下面は、III期河道の底面に相当する。つまり、この洪水層はこの河道を給源源としている。

K区では、8層洪水は大きく2回発生している。

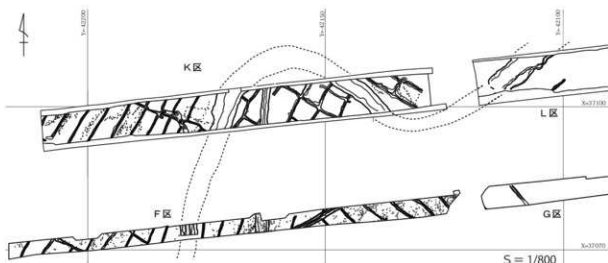


図117 K・L区 河道 平面図

第4章 まとめ

水田面直上を覆うのはシルトで、この上位に洪水砂が乗る。つまり、洪水の初期の段階は水位が上がり、その後鉄砲水が来たものと考えられる。

L区では、8層洪水は洪水砂の上位にシルトが堆積するパターンを大きく2回繰り返していることから、いわゆる鉄砲水と滞水を2回繰り返したものと考えられる。また、Ⅲ期河道より東側で、最初の洪水の後に礫を含む洪水砂がレンズ状に認められることから、河道が洪水層で自ら埋没して河床が上がったため、この河道の上流から供給された土砂が東側に流れたものと考えられる。

(2) 6層洪水（通称：灰オリブ洪水層）

6層洪水は河道としてはⅤ期河道が相当する。この洪水層は、洪水砂の上位にシルトが堆積することから、いわゆる鉄砲水と滞水による洪水と考えられる。なお、この洪水層の上位にはHr-FAと考えられる白色軽石が均質に混じることから、Hr-FA以降に耕作土化した可能性が高い。

L区ではこの洪水層は東側ほど層厚を増すことと、東端部付近では下位に洪水砂を伴うことから、おそらくL区より東側に別水系の河道が存在し、その河道を給源源としている可能性が高い。これは、8層洪水及び7層洪水によって、一連の河道はほぼ埋没して河床が上がったため、河道がL区より東側と西側に移動したものと考えられる。

(3) 各洪水の特徴

8・6層洪水ともに洪水層としては厚く堆積しているが、その大部分はシルト質である。これは、谷からの鉄砲水を下流で吞むことができなくなったため、この低地帯が長い間滞水した可能性を示している。

3 水田

(1) 8層洪水直下の水田について

K区の9層を耕土とした水田面（上強戸遺跡群第3面）は、8層洪水に直接被覆された水田面であ

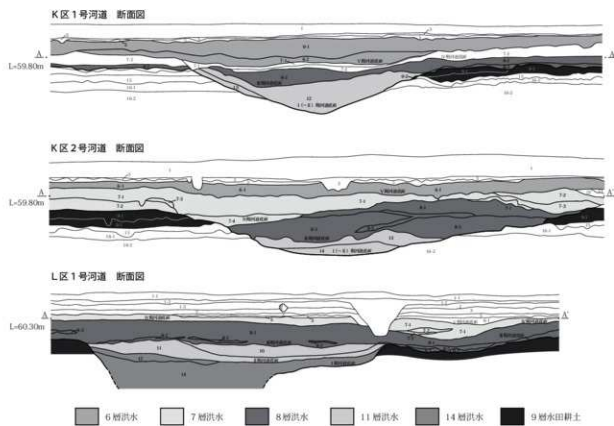


図 118 K・L区 河道 断面図

る。この水田は先述のとおり7世紀末～8世紀に比定され、J区第3面東半部で検出した水田と層位的には同一と考えられる。J区第3面東半の水田を被覆する洪水層中からは2点の土器が出土し、水田により近いレベルの①土器器片は8世紀中葉～後半に、それよりやや高いレベルの②須恵器器片は9世紀後半に比定できる。これは層位的に明確に分離はできなかったが、①はNo8洪水水中で、②はNo6洪水水中の可能性もある。また、F区第3面水田からは、8世紀後半の須恵器環と9世紀の須恵器環が出土している。

ところで、K区の水田面では、以下の3面の状況の異なる箇所を確認した(図119)。

- a. 畦畔が完成し、被覆した洪水層が一次堆積している部分(図119のトーン3)。
 - b. 畦畔はなく、被覆した洪水層が攪拌された部分(図119のトーン1)。
 - c. 畦畔が完成した様子がなく、被覆した洪水層が攪拌された部分(図119のトーン2)。
- aは8層洪水が発生する直前には畦畔が完成しており、そのまま8層洪水が被覆した部分、bはおそらくaと同様に8層洪水が発生する直前には畦畔が完成していたが、洪水後に復旧を試みた部分、cは8層洪水発生時にはその年の畦づくりが未着手で、洪水発生後に畦づくりを試みた部分と推定した。
- cの部分には最初の洪水層を踏み込み、2回目の洪水層に被覆された人とウシの足跡を検出した。こ

れは、最初の洪水の後に作業が行われたことを示し、b及びcの傍証となる。

(2) Hr-FA・As-C混入土下面の水田について

L区東側では、Hr-FA・As-C混入土下面で水田を検出した(L区第4面)。これはHr-FA・As-C混入土を耕作土とするHr-FA以降の擬似畦畔で、おそらく7世紀末～8世紀の擬似畦畔と考えられる。

(3) 6層洪水層堆積以降の状況

6層洪水以降で、As-B降下以前のどこかの段階でこの一帯は広く水田化が進むが、この時はおそらく新たな用水系が整備されたものと考えられる。

4 まとめ

(1) 洪水の起源

洪水の起源は鳳凰ゴルフ場内に谷頭をもつ河道と考えられ、その状況は鉄砲水とその後の長時間の水位の上昇にある可能性が高い。

なお、遺跡からこの谷頭までは約1.0kmとその距離が短い。それにもかかわらず大量の土砂を流す洪水が発生したことは、河道上流部のどこかに溜池が存在し、この堤が決壊した可能性を示唆するものと考えられる。

(2) 被覆洪水から推定される遺構の帰属時期

Ⅱ期河道は11層洪水に覆われた河道であり、4～5世紀代、1期はそれ以前と推定される。

Ⅲ期河道は8層洪水に覆われた河道であり、8世紀中葉と推定される。したがって、7層洪水に覆わ

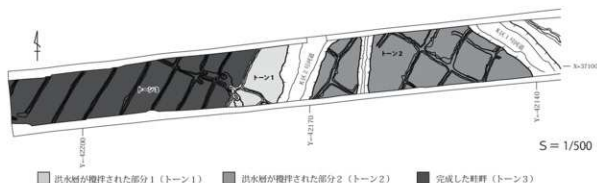


図119 K区第3面 水田の田面状況の差異

第4章 まとめ

れた河道であるⅣ期河道は、8世紀後半から9世紀前半で、9世紀前半であるとすれば被覆する洪水層（7層）は、弘仁9（818）年の可能性もある。

Ⅴ期河道は6層洪水で覆われた河道であり、9世紀後半と推定される。

第3面の水田面及び畦畔（9層が耕土）は8層洪水に覆われているため、8世紀中葉と推定される。

（坂口一・小高哲茂）

第2節

上強戸遺跡群における土地利用の特色

1 調査範囲の特徴

上強戸遺跡群の調査範囲は南北は平均20m程度のみであるが、東西方向は約1000mにおよぶ。

非常に狭い調査範囲ではあるものの、今回の調査でえられた情報からは、本遺跡における土地利用の特色が概ね3つのゾーンに分けて考えることができる（図122）。

2 Aゾーンの特色

Aゾーンは、主に調査範囲の西部部分、調査区で示すとA区～C区あたりの範囲を指す。

このゾーンについては、上強戸遺跡群第1面の遺構が集中し、特に溝群・ピット群が多い（図120）。

これらの帰属時期を明確に示す資料は皆無に近いが、各遺構の覆土に浅間B軽石が含まれるものが多いことから、中世以降と推測できる。さらに、図122の土層柱状図をみると、Aゾーンは、Bゾーンに比べてやや高い位置にあることもわかる。

こうした状況からは、おそらくはこのゾーンは沖積地内の微高地にあたりと考えられ、集落域を形成していたと推察する。そして、その时期的主体は、検出遺構や出土遺物からうかがう限りでは、中世またはそれ以降といえるであろう。

3 Bゾーンの特色

Bゾーンは、主に調査範囲の中央部分、調査区で示すとE・J区～L・G区あたりの範囲を指す。

このゾーンについては、上強戸遺跡群第3面の水田が集中している。（図122）。

図122の土層柱状図をみると、このゾーンは調査範囲内において最も低い地点にあたり、沖積低地にあたるゾーンと思われる。故に、上記のような水田遺構の集中が認められるといえよう。

ところで、このBゾーンにおいては、この第3面水田の埋没時期をおさえておく必要である。

このことについては次のとおりを考える。

F区には水田面の中に3号溝が存在する。この溝

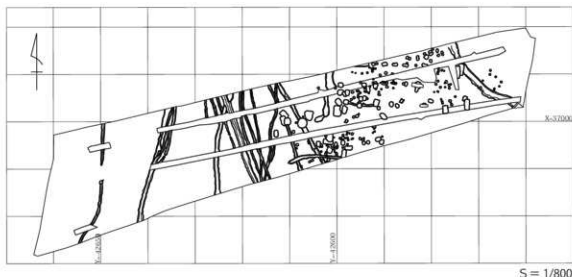


図120 B区第1面の溝およびピット群

はおそらく、K区1・2号河道及びL区1号河道と同一の遺構であるといえる。

このF区3号溝からは須恵器環2点(F区1・2)が出土している(図121右)。この須恵器は3号溝覆土からの出土であるが、その出土層位は厳密には8層および9層である。一方、このうち、覆土8層は「上強戸遺跡群第3号水田」面を直接被覆している層であることがF区3号溝断面図から明確である(図121左)。

つまり、F区3号溝の覆土出土の遺物であるとともに、第3号水田面を直接被覆する洪水層中の遺物であるこの2つの須恵器環は、埋没時期を推測する有効な須恵器と位置づけられる。

この2点の須恵器環は平底のもの、高台付きのものとの差異はあるが、器形的には口縁～体部は比較的直線的に開き、腰部に明確な稜線を有する特徴をもち、また、技法的には底部に回転轆ケズリを採用する特徴をもつという共通属性を有する。このことから、この両者の帰属時期を8世紀中葉におくことが妥当であると考えられる。

よって、第3号水田の埋没時期については、8世紀中葉と考えることが可能であるといえよう。

このことは前節の検討内容(「第1節 K・L区の河道、洪水及び水田について」)によっても、別

調査区(K・L区)の調査資料に基づく検討からほぼ同様な想定がなされており、さらにはG区の第3号水田面から出土の須恵器環(図121右)についてもほぼ同時期の想定ができることから、より一層蓋然性が高い時期観といえよう。

4 Cゾーンの特色

Cゾーンは、主に調査範囲の東部分、調査区で示すとM～Q区あたりの範囲を指す。

このゾーンについては、遺構面が重層する状況はほとんど認められず、溝が認められる程度である。

図122の土層柱状図をみると、Cゾーンは、A・Bゾーンに比べて高い位置にあることがわかる。おそらくはこのゾーンは背後に存在する八王子丘陵及び金山丘陵の裾部にあたるが故にこうした位置になっていると思われる。

遺構・遺物の状況からは、この地域の利用時期については中世以降と考えることが妥当のようにも思えるが、資料の希薄さからは、その可能性を示唆するにすぎない。ところで、このゾーンの背後に広がる丘陵一帯は、6世紀以降、窯業活動が盛んになる地域である。このことから、その時期くらいまで利用時期が遡上することも十分考慮されよう。

(深澤敦仁)

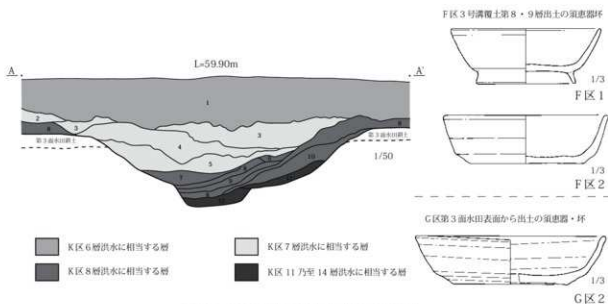


図121 F区3号溝の断面図および出土須恵器

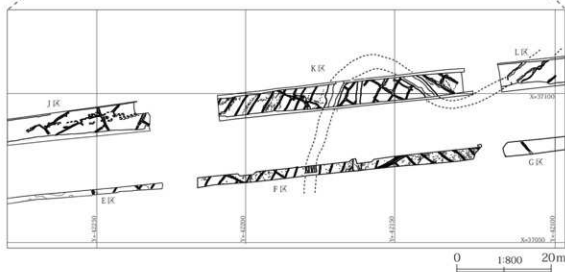
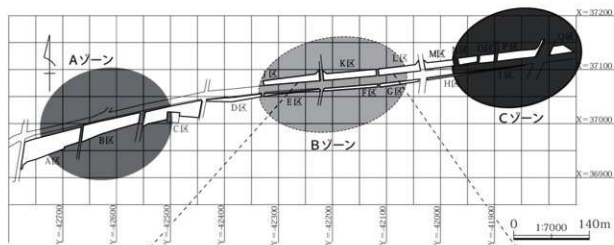
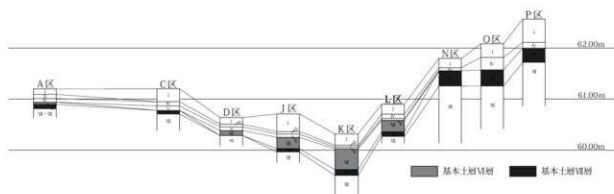


図 122 上独戸遺跡群における土地利用の特色

写真図版



1 A区1面 全景(東から)



2 A区1面 西半(東から)



3 A区1面 1号溝 全景(南から)



4 A区1面 1号溝 セクションA(北から)



5 A区1面 1号溝 セクションB(南から)



6 A区1面 2号溝 全景(西から)



7 A区1面 2号溝 セクション(東から)



8 A区1面 3号溝/1・2号擬似畦畔 全景(東から)



1 A区1面 4・8号溝/3・4号 擬似畦畔 全景(南から)



2 A区1面 8号溝/4号擬似畦畔 セクション(北から)



3 A区1面 5号溝 全景(南から)



4 A区1面 5号溝 セクション(南から)



5 A区1面 6・7号溝 全景(南から)



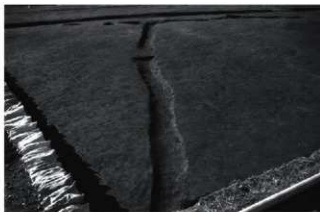
6 A区1面 7号溝 セクション(南から)



7 A区1面 9号溝 全景(西から)



8 A区1面 9号溝 セクション(西から)



1 A区1面 10号溝 全景(南東から)



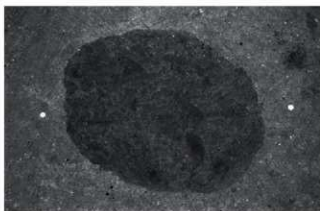
2 A区1面 10号溝 セクション(南東から)



3 A区1面 1号火葬墓 人骨出土状況(西から)



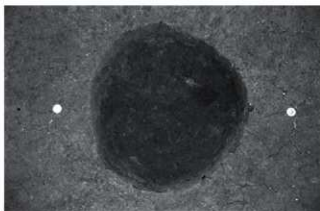
4 A区1面 1号火葬墓 完掘状況(西から)



5 A区1面 1号土坑 全景(南から)



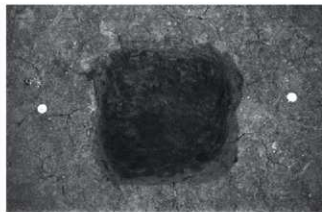
6 A区1面 1号土坑 覆土セクション(南から)



7 A区1面 2号土坑 全景(南から)



8 A区1面 2号土坑 覆土セクション(南から)



1 A区1面 3号土坑 全景(南から)



2 A区1面 3号土坑 覆土セクション(南から)



3 A区2面 全景(東から)



4 A区2面 全景(西から)



5 A区2面 11号溝 全景(南東から)



6 A区2面 11号溝 覆土セクション(南から)



7 A区2面 12号溝 全景(南東から)



8 A区2面 12号溝 覆土セクション(北西から)



1 A区2面 13号溝 全景(南から)



2 A区2面 13号溝 覆土セクション(南から)



3 A区2面 14号溝 全景(南東から)



4 A区2面 14号溝 覆土セクション(南東から)



5 A区2面 15号溝 全景(南から)



6 A区2面 15号溝 覆土セクション(南東から)



7 A区2面 16号溝 全景(南から)



8 A区2面 16号溝 覆土セクション(南から)



1 A区2面 17号溝 全景(南から)



2 A区2面 18号溝 全景(南東から)



3 A区2面 1号井戸 全景(南から)



4 A区2面 1号井戸 覆土セクション(南から)



5 A区2面 1号水田擬似畦畔(南西から)



6 A区2面 2号水田擬似畦畔(北から)



7 A区3面 19号溝 全景(南から)



8 A区3面 19号溝 覆土セクションA・B(南から)



1 A区3面 20号溝/水田跡 全景(西から)



2 A区3面 20号溝 覆土セクション(西から)



3 A区3面 21号溝 全景(北から)



4 A区3面 21号溝 全景(東から)



5 A区3面 22号溝/2号覆似畦畔セクション(西から)



6 A区3面 22号覆似畦畔セクション(北から)



7 A区3面 4号土坑 全景(南東から)



8 A区3面 4号土坑 覆土セクション(北から)



1 B区1面 全景(東から)



2 B区1面 1号溝 全景(南東から)



3 B区1面 1号溝 覆土セクションA(南東から)



4 B区1面 1号溝 覆土セクションB(北西から)



5 B区1面 2~4号溝 全景(北から)



6 B区1面 2号溝 覆土セクション(南から)



7 B区1面 3号溝 覆土セクション(南から)



8 B区1面 4号溝 覆土セクション(南から)



1 B区1面 5号溝 全景(南から)



2 B区1面 5号溝 覆土セクション(南から)



3 B区1面 6~8号溝 全景(北から)



4 B区1面 9号溝 全景(南から)



5 B区1面 10号溝 全景(南東から)



6 B区1面 9・10号溝 覆土セクション(南から)



7 B区1面 11~14号溝 全景(南東から)



8 B区1面 15号溝 全景(南東から)



1 B区1面 16号溝 全景(南東から)



2 B区1面 17号溝 全景(東から)



3 B区1面 3号土坑 全景(東から)



4 B区1面 3号土坑 覆土セクション(東から)



5 B区1面 4号土坑 全景(東から)



6 B区1面 4号土坑 覆土セクション(西から)



7 B区1面 5号土坑 全景(北から)



8 B区1面 5号土坑 覆土セクション(南から)



1 B区1面 6号土坑 全景(西から)



2 B区1面 6号土坑 覆土セクション(東から)



3 B区1面 7号土坑 全景(北から)



4 B区1面 7号土坑 覆土セクション(南から)



5 B区1面 8号土坑 全景(東から)



6 B区1面 8号土坑 覆土セクション(西から)



7 B区1面 9号土坑 全景(東から)



8 B区1面 9号土坑 覆土セクション(西から)



1 B区1面 10号土坑 全景(東から)



2 B区1面 10号土坑 覆土セクション(西から)



3 B区1面 11号土坑 全景(北から)



4 B区1面 11号土坑 覆土セクション(南から)



5 B区1面 12号土坑 全景(西から)



6 B区1面 12号土坑 覆土セクション(西から)



7 B区1面 13号土坑 全景(東から)



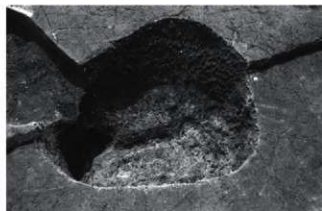
8 B区1面 13号土坑 覆土セクション(東から)



1 B区1面 14・15号土坑 全景(東から)



2 B区1面 14・15号土坑 覆土セクション(南から)



3 B区1面 16号土坑 全景(北から)



4 B区1面 16号土坑 覆土セクション(北から)



5 B区1面 17号土坑 全景(東から)



6 B区1面 17号土坑 覆土セクション(南から)



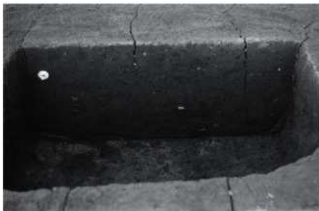
7 B区1面 18号土坑 全景(東から)



8 B区1面 18号土坑 覆土セクション(南から)



1 B区1面 19号土坑 全景(東から)



2 B区1面 19号土坑 覆土セクション(南から)



3 B区1面 20号土坑 全景(東から)



4 B区1面 20号土坑 覆土セクション(南から)



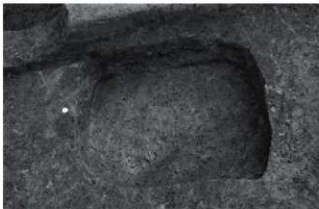
5 B区1面 21号土坑 全景(北から)



6 B区1面 21号土坑 覆土セクション(南から)



7 B区1面 22号土坑 全景(東から)



8 B区1面 23号土坑 全景(北から)



1 B区1面 24号土坑 全景(東から)



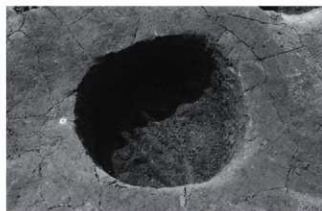
2 B区1面 25号土坑 全景(東から)



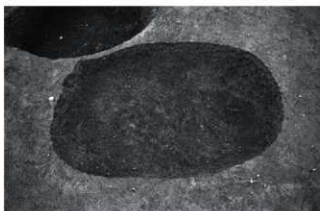
3 B区1面 26号土坑 全景(東から)



4 B区1面 28号土坑 全景(北から)



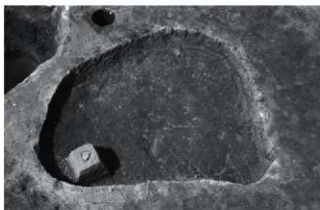
5 B区1面 29号土坑 全景(北東から)



6 B区1面 30号土坑 全景(北から)



7 B区1面 31号土坑 全景(東から)



8 B区1面 32号土坑 全景(東から)



1 B区1面 33号土坑 全景(南から)



2 B区1面 34号土坑 全景(東から)



3 B区1面 35号土坑 全景(北から)



4 B区1面 36号土坑 全景(東から)



5 B区1面 37号土坑 全景(東から)



6 B区1面 38号土坑 全景(北から)



7 B区1面 39号土坑 全景(東から)



8 B区1面 40号土坑 全景(南から)



1 B区1面 41号土坑 全景(東から)



2 B区1面 42号土坑 全景(東から)



3 B区1面 43号土坑 全景(東から)



4 B区1面 44号土坑 全景(東から)



5 B区1面 45号土坑 全景(北から)



6 B区1面 1号井戸 全景(南から)



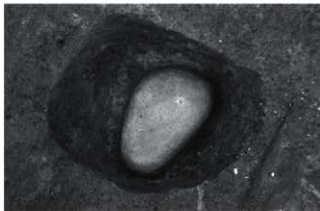
7 B区1面 ビット群全景(東から)



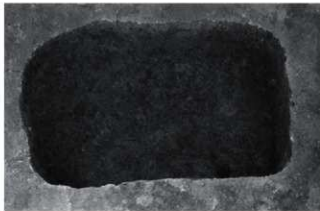
8 B区1面 ビット群全景(東から)



1 B区1面 42号ピット 掘出土状況 (南から)



2 B区1面 101号ピット 掘出土状況 (南から)



3 B区1面 1号土壙墓 全景 (東から)



4 B区1面 1号土壙墓 古銭 出土状況 (東から)



5 B区2面 水田面 全景 (西から)



6 B区2面 水田面 全景 (南から)



7 B区2面 水田面 全景 (北西から)



7 B区2面 水田面 全景 (北から)



1 C区1面 1号溝 全景 (北から)



2 C区1面 1号溝 覆土セクション (北から)



3 C区1面 2号溝 全景 (南から)



4 C区1面 2号溝 覆土セクション (北から)



5 C区1面 3号溝 全景 (南から)



6 C区1面 3号溝 覆土セクションA (南から)



7 C区1面 3号溝 覆土セクションB (南から)



8 C区1面 4号溝 全景 (北から)



1 C区1面 5・6号溝 全景 (南から)



2 C区1面 7号溝 全景 (北西から)



3 C区1面 7号溝 覆土セクション (北西から)



4 C区1面 8号溝 全景 (西から)



5 C区1面 1号土坑 全景 (北から)



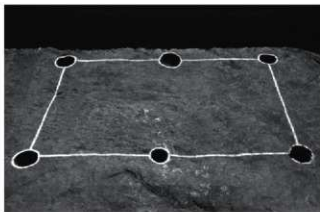
6 C区1面 2号土坑 全景 (南から)



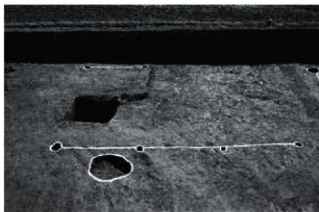
7 C区1面 1号ピット 全景 (南から)



8 C区1面 2号ピット 全景 (南から)



1 C区1面 1号掘立柱建物 全景 (北から)



2 C区1面 1・2号柵列 全景 (北から)



3 C区2面 全景 (上が南)



4 C区2面 全景 (東から)



5 C区2面 全景 (西から)



6 C区2面 全景 (西から)



7 C区2面 水田面 (西から)



8 C区2面 水田面 調査風景 (南から)



1 D区2面 全景 (北東から)



2 D区3面 7号溝 全景 (東から)



3 E区2面 全景 (西から)



4 E区2面 覆土セクション (北東から)



5 E区3面 全景 (東から)



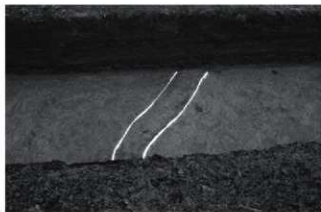
6 E区3面 全景 (西から)



7 E区3面 畦畔 (北東から)



8 E区3面 畦畔 (北から)



1 E区3面 畦畔(北から)



2 E区3面 畦畔(北から)



3 E区4面 1号溝 全景(北東から)



4 E区4面 1号溝 全景(北東から)



5 E区4面 1号溝 覆土セクション(北東から)



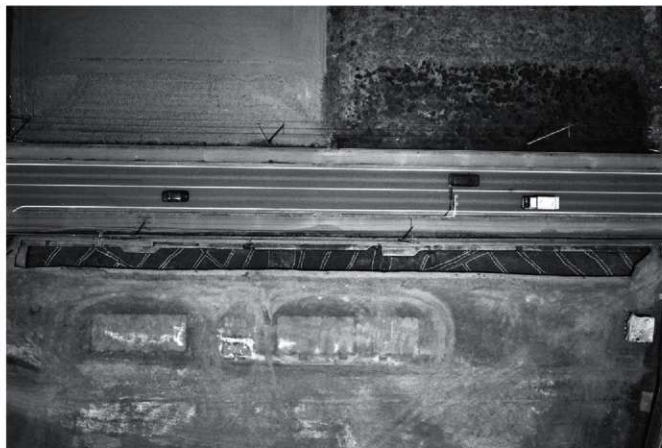
6 F区2.5面 全景(西から)



7 F区2.5面 1号溝 全景(東から)



8 F区2.5面 1号溝 覆土セクション(東から)



1 F区3面 水田畦畔(上がほぼ北)



2 F区3面 水田畦畔(東から)



3 F区3面 水田畦畔(東から)



4 F区3面 水田畦畔(東から)



5 F区3面 調査風景(北西から)



1 F区3面 水田面 足跡(南西から)



2 F区3面 水田面 足跡(東から)



3 F区3面 2号溝 全景(南西から)



4 F区3面 3号溝 全景・覆土セクション(南から)



5 F区3面 3号溝 遺物出土状況(北西から)



6 F区3面 3号溝 遺物出土状況(西から)



7 F区3面 3号溝 遺物出土状況(北西から)



8 F区3面 4号溝 全景(北から)



1 G区2面 全景(西から)



2 G区3面 全景(西から)



3 G区3面 水田畦畔(北から)



4 G区4面 全景(西から)



5 G区4面 1・3号溝 全景(東から)



6 G区4面 1号溝 覆土セクションA(南東から)



7 G区4面 1号溝 覆土セクションB(南東から)



8 G区4面 1号溝 覆土セクションC(南から)



1 G区4面 2号溝 全景 (南西から)



2 G区4面 1号溝 覆土セクションA (南から)



3 G区4面 4~6号溝 全景 (南西から)



4 G区4面 4号溝 覆土セクションA (南西から)



5 G区4面 5号溝 覆土セクションA (南西から)



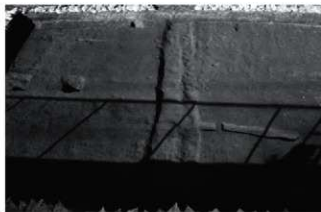
6 G区4面 6号溝 覆土セクションA (南西から)



7 J区2面 全景 (西から)



8 J区2面 全景 (東から)



1 J区2面 1号溝 全景(南から)



2 J区2面 1号溝 覆土セクション(南から)



3 J区2面 水田畦畔 全景(北東から)



4 J区2面 水田畦畔 断割セクション(南から)



5 J区3面 水田面・畦畔 全景(西から)



6 J区3面 水田面・畦畔 全景(南から)



7 J区3面 水田面水口 全景(南から)



8 J区3面 水田面・畦畔 全景(南西から)



1 J区4面 全景(東から)



2 J区4面 水田畦畔(南から)



3 J区4面 水田畦畔(東から)



4 J区4面 1号溝 全景(南東から)



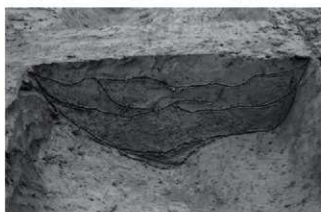
5 J区4面 1号溝 覆土セクションA(南東から)



6 J区4面 1号溝 覆土セクションB(南東から)



7 J区4面 2号溝 全景(南西から)



8 J区4面 2号溝 覆土セクション(南東から)



1 K区2面 全景(西から)



2 K区2面 全景(南西から)



3 K区2面 1号溝 全景(南から)



4 K区2面 1号溝 覆土セクション(南から)



5 K区2面 2号溝 全景(南から)



6 K区2面 2号溝 覆土セクション(南から)



7 K区2面 畝(畝間サケ跡) 全景(南から)



8 K区2面 1号土坑 覆土セクション(南から)



1 K区3面 水田畦畔 (上がほぼ北)



2 K区3面 水田面 全景 (西から)



3 K区3面 水田面 水口付近 全景 (南東から)



4 K区3面 水田面と足跡検出状況 (南東から)



5 K区3面 水田面と牛・人の足跡 (南から)



1 K区3面 3号溝 全景(南から)



2 K区3面 1号溝 覆土セクション(南から)



3 K区3面 1号河道 全景(南東から)



4 K区3面 1号河道 覆土セクション(南から)



5 K区3面 2号河道 全景(南から)



6 K区3面 2号河道 覆土セクション(南から)



7 K区4面 水田畦畔 全景(西から)



8 K区4面 水田畦畔 全景(東から)



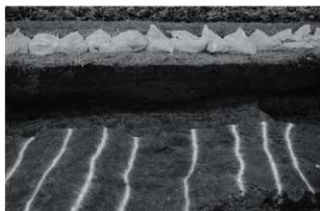
1 L区2面 全景 (西から)



2 L区2面 水田畦畔 全景 (西から)



3 L区2面 水田畦畔 全景 (南から)



4 L区2面 水田畦畔 覆土セクション (南から)



5 L区2面 1号溝 全景 (南から)



6 L区2面 1号溝 覆土セクション (南から)



7 L区2面 2号溝 全景 (南から)



8 L区2面 2号溝 覆土セクション (南から)



1 L区3面 全景(東から)



2 L区3面 全景(西から)



3 L区3面 3・4号溝 全景(南東から)



4 L区3面 3号溝 覆土セクション(南から)



5 L区3面 3～5号溝 全景(南から)



6 L区3面 4号溝 覆土セクション(西から)



7 L区3面 3・4号溝 覆土セクション(南から)



8 L区3面 5号溝 全景(南から)



1 L区3面 5号溝 覆土セクション(西から)



2 L区3面 4・5号溝 覆土セクション(西から)



3 L区3面 6号溝 全景(南から)



4 L区3面 6号溝 覆土セクション(西から)



5 L区3面 7号溝 全景(南から)



6 L区3面 7号溝 覆土セクション(西から)



7 L区3面 水田畦畔(南から)



8 L区3面 水田畦畔(南から)



1 L区3面 1号河道 全景(南東から)



2 L区3面 1号河道 覆土セクション(南から)



3 M区4面 水田面 全景(東から)



4 M区4面 水田面(東から)



5 M区4面 水田面(西から)



6 M区4面 5号溝 全景(北西から)



7 M区4面 5号溝 覆土セクションA(南から)



8 M区4面 5号溝 覆土セクションB(南から)



1 M区1面 1～3号溝 全景 (北から)



2 M区1面 1～3号溝 覆土セクション (南から)



3 M区1面 4号溝 全景 (北西から)



4 M区1面 4号溝 覆土セクション (北西から)



5 M区5面 水田畦畔 全景 (西から)



6 M区5面 水田畦畔 全景 (北西から)



7 N区 全景 (西から)



8 N区 1号溝 全景 (北から)



1 N区 1号溝 覆土セクション (南から)



2 N区 第1トレンチ セクション (北から)



3 N区 第2トレンチ セクション (北から)



4 N区 第3トレンチ セクション (北から)



5 O区 全景 (東から)



6 O区 1号溝 全景 (北から)



7 O区 1号溝 全景 (南から)



8 O区 1号溝 検出状況 (南東から)



1 0区 1号溝 遺物出土状況・覆土セクション (南から)



2 0区 1号溝 覆土セクション (南から)



3 0区 2・3号溝 全景 (南西から)



4 0区 3号溝 覆土セクション (北から)



5 0区 5～11号溝 全景 (東から)



6 0区 4～11号溝 全景 (南西から)



7 0区 6号溝 覆土セクション (東から)



8 0区 7号溝 覆土セクション (東から)



1 0区 8号溝 覆土セクション (東から)



2 0区 9号溝 覆土セクション (南東から)



3 0区 10号溝 覆土セクション (南西から)



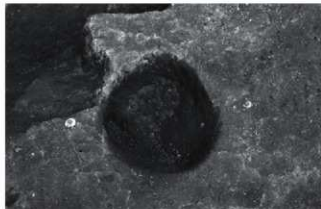
4 0区 11号溝 覆土セクション (南東から)



5 0区 1号土坑 全景 (東から)



6 0区 1号土坑 覆土セクション (東から)



7 0区 1号ピット 全景 (南西から)



8 0区 2号ピット 全景 (南から)



1 O区 2号トレンチ セクションB (北から)



2 O区 2号トレンチ セクションA (北から)



3 O区 北壁 セクション (南東から)



4 O区 南壁 セクション (北西から)



5 P区 全景 (西から)



6 P区 3号溝・As-B直下面 全景 (西から)



7 P区 3号溝・As-B下黒色土直下面 全景 (西から)



8 P区 3号溝 覆土セクション (西から)



1 P区 1・2号溝 覆土セクション (北から)



2 P区 1・2号溝 覆土セクション (北から)



3 P区 7号トレンチ セクション (南西から)



4 P区 8号トレンチ セクション (北から)



5 P区 9号トレンチ セクション (北から)



6 P区 11号トレンチ セクション (北から)



7 Q区 全景 (南西から)



8 Q区 1号トレンチ (南東から)



A区1



B区2



B区5



B区6



B区1



B区3



B区4



B区7



B区8



B区9



B区10



B区11



B区12



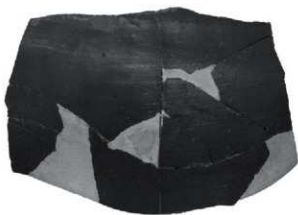
B区13



B区14



B区15



C区1



C区4



C区5



C区2



C区3



E区1



FK1



FK2



FK3



GK1



GK2



JK1



KK1



KK3



KK2



LK1



NK1



OK1



MK1



OK2

抄録

書名ふりがな	かみごう といせきぐん
書名	上強戸遺跡群
副書名	主要地方道路足利伊勢崎線地方道路交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	443
編著者名	深澤敦仁・佐藤明人・坂コー・小高哲茂
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20080325
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県澁川市北橋町下箱田 784 番地 2
遺跡名ふりがな	かみごう といせきぐん
遺跡名	上強戸遺跡群
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしかみごうどまち
遺跡所在地	群馬県太田市上強戸町
市町村コード	10205
遺跡番号	
北緯（日本測地系）	362000
東経（日本測地系）	1392143
北緯（世界測地系）	362011
東経（世界測地系）	1392131
調査期間	20021202-20030331/20030401-20030630/20041201-20050331/20051201-20060331
調査面積	3,527㎡ /3,000㎡ /7,152㎡ /3,216㎡
調査原因	道路建設工事
種別	田畑/集落
主な時代	奈良・平安
遺跡概要	集落-中近世-孤立柱建物1+櫓列1+溝69+土坑48+ピット169+井戸2+焼土6+雑器1-陶器+木製品+瓦+砥石/集落-奈良-溝14+河道3+土坑1-須恵器+土師器+木製品/集落-古墳-奈良-溝12-土師器/田畑-中近世-水田2+畑1-須恵器+古銭/墓-中近世-人骨+古銭
特記事項	7～8世紀代と考えられる水田跡を検出。
要約	・上強戸遺跡群では、洪水層やテフラを混入する黒色土が重層して存在することから、調査面が複数に及んだ。そのうち、調査区内の低地部では、8世紀代に発生したと想定される洪水層直下より、明瞭な畦畔をもつ水田遺構が検出された。また、調査区内の微高地部では、中世以降の時期が想定されるピット群や土坑群などが多数検出された。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 443 集

上強戸遺跡群

平成 20 (2008) 年 月 日 印刷

平成 20 (2008) 年 月 日 発行

発行／編集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北極町下箱田 784 番地の 2

TEL 0279-52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷
